

319

309



始



參謀本部編纂

千八百七十七年  
千八百七十八年

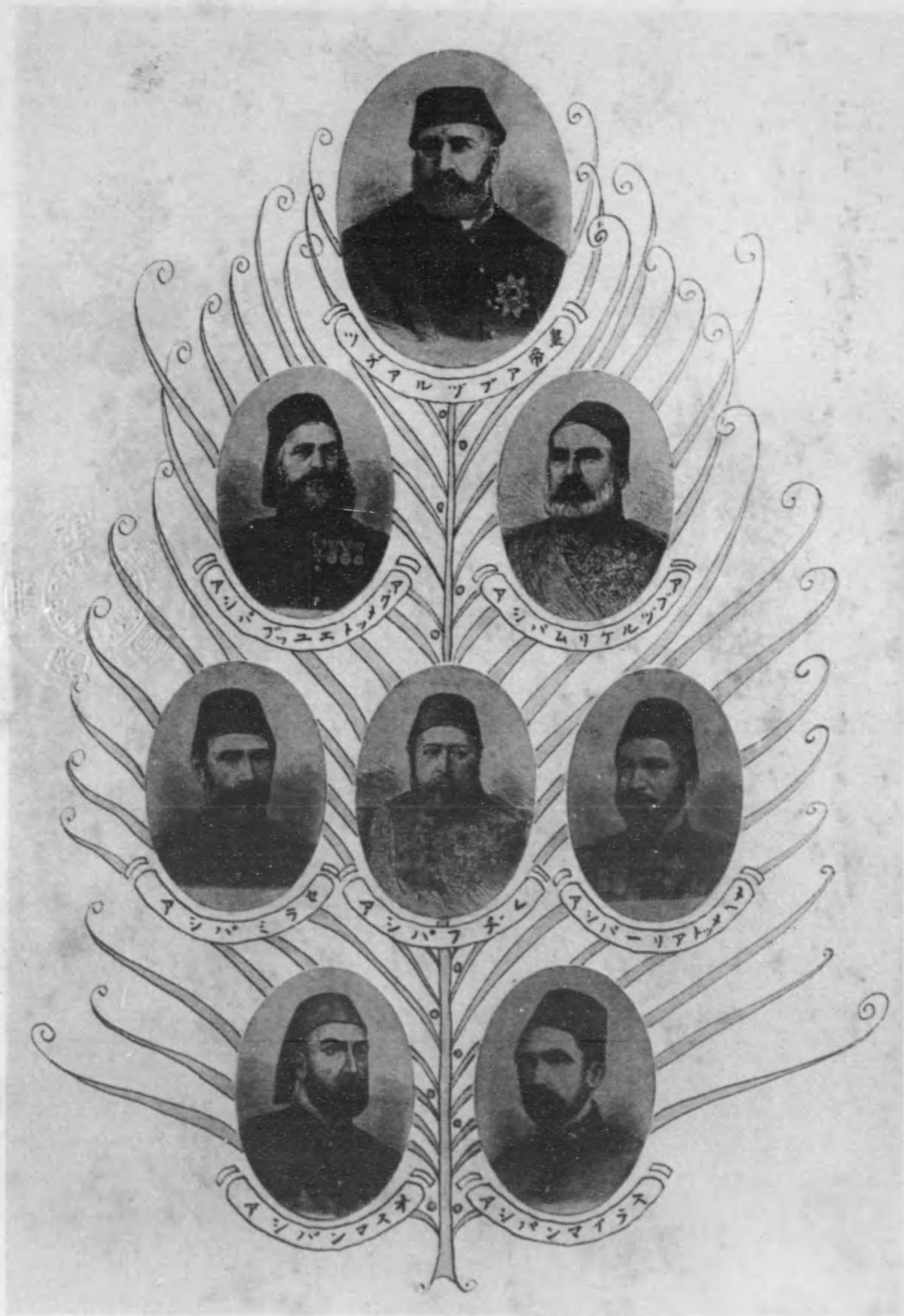
露土戰史

第一卷

大正  
3. 5. 21  
内交

東京偕行社發行





## 凡例

- 一、本書ハ露國參謀本部編纂ノ露土戰史及其他ノ著書ヲ參酌シテ編纂セリ
- 二、土軍ノ行動ニ關スル參考資料ハ充分ナラサル爲凡百ノ記述ハ露軍ヲ基準トシ土軍ノ行動ハ單ニ露軍ノ行動ニ對照スルニ便ナラシムル爲ニ之ニ附記セシニ過キス而モ其兵力編組ニ於テ尙往々相吻合セサル所無シトセス
- 三、命令及通報ハ成ル可ク原文ヲ引用シ當時ノ情況ヲ切實ニ讀者ニ紹介スルニ勉メタリ
- 四、地圖ハ概ネ墺譯露國參謀本部編纂露土戰史ノモノニ據レリ同圖ハ同一地名ニ往々二様ノ綴ヲ用ヒタルモノ有リ例ヘハ Parapan, Bjela, Küstendje, Trnova, Slivno 等ヲ Parapani, Bela, Küstendže, Trnovo, Sliven 等トシ又往々同一地名ニ二様ノ名稱ヲ用ユルモノ有リ例ヘハ Novazagora ヲ Jenizagra, トシ Starazagora ヲ Eskizagra トセルカ如シ從テ本書ノ地圖モ其何レカノ一ヲ用

キタル所アリ但シ此ノ如キ場合ニ於テハ本文中ニ誤解無キ如キ注意ヲ加ヘタリ

五、本文ノ地名ハ参照ス可キ地圖ト同一ノ文字ヲ用ヒ振假名ハ獨逸讀ニ從フ Donau 河 Sumla. Jalomifa. Maghiz (S=Sch. t=:z. z̄=dseh) 等ノ如シ但シ文部省取調委員ノ報告ニ規定シ有ルモノ及我國慣用ノ漢字アルモノハ凡テ之ニ從ヒ又往々原字ヲ省略セリ君士坦丁堡、ボスニア、多島海、黑海等ノ如シ

六、人名ハ概ネ獨逸讀ニ從ヒ片假名ヲ用ヒ其右傍ニ單縱線ヲ、原字ナキ片假名ノ地名ニハ同シク複縱線ヲ附シ其他ノ名詞ニハ「」ヲ附セリ例ヘハ中將クリュテネル、シリアドン、哥薩克、モニートル艦ノ如シ

七、年月日ハ西曆ヲ、里ハ日本里ヲ用ユ

八、附圖用トシテ特定セシ軍隊符號ハ各卷附圖帙内ニ納ム

# 千八百七十七年 露土戰史第一卷目次

第一章 露土戰爭ノ原因及列國トノ關係……………一頁

概説(二)千八百七十七年戰役前ニ於ケル露土兩國ト列國トノ關係(三)千八百七十七年露土戰役ノ近因及列國トノ關係(八)國交斷絶(二五)

第二章 露土兩軍ノ編制附羅馬尼塞爾維及モンテネグロ軍ノ兵力……………一五

一 露軍ノ編制……………一五

徵兵制度(二五) 陸軍ノ編制(二六) 戰列部隊(二七) 步兵(二七) 騎兵(二八) 砲兵(二九) 工兵(三〇) 軍團ノ編制(三一) 守備部隊(三二) 要塞部隊(三三) 豫備部隊(三四) 地方部隊(三五) 哥薩克部隊(三六) 補充部隊(三七) 輜重(三八) 海軍(三九) 羅馬尼軍ノ兵力(四〇) 塞爾維軍ノ兵力(四一) モンテネグロ軍ノ兵力(四二)

二 土軍ノ編制……………三〇

軍制(三〇) 常備軍ノ兵力(三一) 千八百七十七年頃土軍ノ總兵力(三二) 輜重(三五) 海軍(三五)

第三章 兩軍ノ兵器及戰法附羅馬尼ノ兵器……………三七

一 歩兵……………三七  
露軍ノ歩兵銃(三七) 露軍ノ歩兵戰鬪法(三六) 土軍ノ歩兵銃(四〇) 土軍ノ素質及歩兵戰鬪法(四〇)

二 騎兵……………四一  
露軍騎兵ノ種類兵器及戰法(四二) 土軍騎兵ノ兵器(四三)

三 砲兵……………四三  
露軍ノ砲兵(四三) 土軍ノ砲兵(四五)

四 羅馬尼ノ兵器……………四五

第四章 戰地ノ概要……………四六

一 羅馬尼公國……………四六  
地勢(四六) 交通網(四七)

二 Donau河……………四九  
河川ノ性質(四九) 渡河點(五〇) 河岸要塞(五〇)

三 Donau Balkan……………五〇  
Балкан (五二) Dobruza (五一) 東部布爾牙利(五三) 四角要塞(五三) 中部及西部布爾牙利(五三)

四 巴爾幹山脈……………五四  
山脈ノ高幅(五四) 通過路(五四)

五 Trans Balkan……………五六

六 黑海……………五八

第五章 兩軍ノ作戰計畫……………六一

一 露國ノ作戰計畫……………六一  
露國參謀本部ノ作戰計畫(六一) 作戰軍ノ區分(六三) 巴爾幹半島作戰軍司令官ノ作戰計畫(六四)

二 土軍ノ作戰計畫……………六七

第六章 露軍ノ開戰前ニ於ケル情況……………七〇

一 ベサラビアニ於ケル集中……………七〇

集中計畫及其實施ノ概要(七二) 集中後ノ情況(七三) 宣戰布告及詔勅(七三) 四月二十四日ノ露軍ノ位置(七五)

二 奧國監視軍、海岸軍、羅馬尼亞軍並ニ小亞細亞軍ノ概況……………七六

第七章 露軍ノ羅馬尼亞於ケル開進……………七八

一 前進計畫……………七八

    下流 Donau 地區ノ掩護(七九) 中部 Donau 地區ノ掩護(八〇) 軍主力ノ前進(八二) 行軍ノ區處(八二)

二 前進實施ノ情況……………八四

    右縱隊及中央縱隊ノ行動(八四) 左縱隊ノ行動(八六) 下流下ナウ兵團ノ行動(八九) 鐵道輸送ノ情況(九三) 增加團隊ノ前進(九四)

三 羅馬尼亞軍ノ情況……………九六

    四月下旬ヨリ六月下旬ニ至ル間羅馬尼亞軍ノ情況(九六) 千八百七十六年末ヨリ七十七年六月ニ至ル迄ノ土軍ノ情況(九七)

第八章 露軍 Donau 河ノ渡過……………九九

一 Donau 河ノ制壓……………九九

河川制壓ノ計畫及準備(100) 下流 Donau 河地區攻城砲臺ノ築設(101) Donau 河航行停止(103) 下流 Donau 河ノ水雷沈設(103) 中部 Donau 河地區攻城砲臺ノ築設(107) 中部 Donau 河ノ水雷沈設(107)

二 渡河材料ノ準備……………110

    渡河材料準備計畫(110) 地方材料ノ調達(113)

三 下流下ナウ兵團ノ Galatz, Braila 附近ニ於ケル渡河……………115

    六月上旬下流下ナウ兵團ノ位置(115) 得タル情況(116) Galatz 附近ノ地形及河川ノ情況(116) 兵團司令官ノ意見具申並ニ之ニ對スル軍司令官ノ訓令(117) 渡河計畫(117) 渡河準備(119) Galatz 附近ノ架橋(119) 六月二十一日第一次上陸隊ノ渡河(121) 兵團司令官渡河計畫ノ變更(121) 六月二十二日以後下流下ナウ兵團主力ノ渡河(127) 下流下ナウ兵團ノ前進(129) 下流下ナウ河畔守備兵ノ交代(130)

四 軍主力ノ Zimnicea 附近ニ於ケル渡河……………130

河川偵察(130) 軍主力ノ渡河地域ニ前進(131) 軍主力ノ前進中止(134) 渡河點ノ決定(135) 得タル情況(136) 渡河點附近ノ地形(137) 軍主力渡河ノ部署(138) 軍主力ノ渡河點附近ノ集合(141) 左岸渡河掩護部隊ノ陣地占領(142) 渡航準備(143) 渡河掩護隊ノ渡河及右岸地區ノ占領(144) 步兵第九師團ノ



第九章

渡航開始(二五三)六月三十日夕渡河部隊ノ兵力(二五三) クムニツネア Kaminica 附近ノ架橋(二五四) 六月中ニ於ケル土軍ノ情況(二五七) ドナウ Donau 河渡過後七月九日ニ至ル露軍ノ作戰……………一六一

一 一般ノ情況……………

一六一

六月末ニ於ケル敵情(二六二)渡河後軍ノ部署(二六三)渡河後ヨリ七月九日迄ノ軍ノ行動(二六三)七月初旬土軍ノ情況(二六四)

二 先進兵團ノ行動……………

一六八

前進開始(二六九) ツルノボ Firovo ニ對スル威力偵察(二七〇) ツルノボ Firovo ノ占領(二七一)七月九日ノ位置(二七二)

三 「ルスチユツク」兵團ノ行動……………

一七三

先頭部隊ノ渡河及前進(二七三)兵團主力ノ前進及七月九日ノ位置(二七五)

四 西部兵團ノ行動……………

一七七

先頭部隊ノ渡河及集合(二七七)七月九日ノ位置(二七八)

第十章

七月十日ヨリ露軍ノ作戰……………一七九

一 一般ノ情況……………

一七九

軍司令官ノ意見具申(二七九)大本營訓令(二八〇)七月十日軍司令官ノ決心及處置(二八二)「ガプロボ」支隊ノ派遣(二八二) クワヂ Kuda ノ敵情(二八三)歩兵第九師團第一旅團ノ派遣(二八三)「ガプロボ」支隊ニ増兵(二八三)七月十日ヨリ二十日ニ至ル土軍ノ情況(二八五)

二 南方面ノ作戰……………

一八九

其一 先進兵團ノ行動……………

一八九

巴爾幹山ノ通過……………

一八九

兵團司令官ノ地形判斷(二九二)出發準備(二九三)軍訓令(二九四)巴爾幹山通過部署(二九五)山地通過(二九六) ハインキョイ Hankioj 附近ノ集合(二九四)

カザンリク Kazanlik ニ向フ前進……………

二〇五

中將 オキツキ Orizhi 附近ノ戦闘(二〇七) マガヒ Maghiv ニ向ヒ前進(二〇九) ウフアヒ Ufiani 附近ノ戦闘(二一一) カザンリク Kazanlik ニ向ヒ前進(二一二) カザンリク Kazanlik 附近ノ戦闘(二一六) シプカ Sipka ニ向ヒ前進(二一七) シプカ Sipka 村ノ占領(二一八)

七月十八日ニ於ケル シプカ Sipka 峠攻撃……………

二一九

シプカ Sipka 峠附近ノ地形(二一九) シプカ Sipka 山附近土軍ノ兵力及配備(二二〇) シプカ Sipka 峠攻撃ノ部署(二二四)攻撃部隊ノ前進(二二四)七月十八日 スィ Sv. Nikola 山附近

ノ戦闘(三三五) 攻撃部隊ノ退却(三三六) 土軍ノ退却(三三九) ..... 一三〇

其二 「ガブロボ」支隊ノ行動 ..... 一三〇

支隊ノ集合 ..... 一三〇

支隊ノ編組及集合(三三〇) 軍司令部ト支隊トノ往復(三三三) ..... 一三六

Vk. Bedek 山及 Sipka 峠ノ攻撃 ..... 一三六

Vk. Bedek 山ノ攻撃部署(三三七) Sipka 峠ノ攻撃部署(三三八) Vk. Bedek 山ノ  
 攻撃及占領(三三九) 七月十七日 Sipka 峠ノ攻撃(三四一) Chabrovo ニ退却(三四六)  
 七月十九日 Sipka 峠再攻撃ノ爲前進(三四八) Sipka 峠占領及支隊ノ集  
 合(三四八) ..... 一四八

其三 東方面ノ作戦 ..... 二四八

其一 「ルスチユック」兵團ノ行動 ..... 二四九

「ルスチユック」兵團ノ任務(三四九) 七月十一日兵團ノ位置(三四九) 騎兵第八  
 師團第一旅團ノ前進及 Medzich 附近ノ小闘(三五〇) 兵團ノ新任務(三五二)  
 七月二十日兵團ノ位置(三五二) ..... 二五三

其二 騎兵第十三師團及第十一軍團ノ行動 ..... 二五三

騎兵第十三師團ノ任務及前進(二五三) 第十一軍團ノ任務及前進(二五三) ..... 二五九

其三 下流「ドナウ」兵團ノ行動 ..... 二五九

Medzich ニ向フ前進(二五九) Medzich ノ攻撃及占領(二五六) Carnavoda ノ  
 占領(二五六) Kustendze ノ占領(二五六) ..... 二五九

四 西方面ノ作戦 ..... 二五九

其一 西部兵團ノ Nikopoli ニ向フ前進 ..... 二五九

Nikopoli 要塞附近ノ地形(二五九) Nikopoli 土軍要塞ノ守兵(二六〇) 七月十日  
 乃至十三日ノ兵團ノ行動(二六〇) ..... 二六四

其二 西部兵團ノ Nikopoli ノ攻撃 ..... 二六四

Nikopoli ノ攻撃部署(二六四) 七月十五日 Nikopoli ノ戦闘(二六九) 七月十六日  
 Nikopoli 要塞ノ降服(二七二) ..... 二七八

其三 西部兵團ノ Plevna ニ向フ前進 ..... 二七八

Plevna 攻撃ニ關シ軍司令部ト兵團司令部トノ往復(二七九) 歩兵第五  
 師團ノ任務(二八二) 中將クリュデネル部隊ノ Plevna ニ向フ前進(二八四)  
 オスマンバシア Vidin ヨリ Plevna ニ向フ前進(二八七) ..... 二八八

其四 Plevna 第一會戰……………二九〇

七月十九日ノ爲兵團ノ部署(三九〇)七月十九日歩兵第五師團ノ前進  
及攻撃(三九二)七月十九日大佐クラインハウス及大佐ツトルミン部  
隊ノ行動(三九四) Plevnaノ土軍兵力及配備(三九六)七月二十日第五師團  
主力 Plevnaノ攻撃(四〇〇)増加隊ノ派遣及來著(四〇三)大佐クラインハ  
ウス部隊ノ攻撃(四〇四)高加士哥薩克騎兵旅團ノ行動(四〇七)退却後ニ  
於ケル歩兵第五師團諸隊及増加隊ノ位置(四〇九)

第十一章 開戰當初ヨリ七月中旬ニ至ル迄ノ小亞細亞作戰軍ノ

概況……………三一〇

小亞細亞ノ地形(三一〇)小亞細亞軍ノ情況(三一)

千八百七十七年 露土戰史第一卷目次終

千八百七十七年 露土戰史第一卷

第一章 露土戰爭ノ原因及列國トノ

關係 露土兩軍作戰  
地總圖參照

概說

土耳其帝國ヲ顛覆シ其首府君士坦丁堡ヲ掌中ニ收メントスルハ露西亞皇  
帝多年ノ慾望ニシテ又其國力發展ニ於ケル一大要件ナリ蓋シ露國ハ領土  
廣大ナリト雖モ位置朔北ニ偏シ貿易航運ニ便ナル天然ノ良港ハ唯南方黑  
海ニ一不凍港アルノミ而シテ其咽喉ハ土國ノ爲ニ扼セラレテ公海ニ出ツ  
ルヲ得ス且露國ハ希臘正教ノ保護者ヲ以テ自ラ任スルカ故ニ君士坦丁堡  
ヲ占取シ同宗同族タル「スラーヴ」民族ヲシテ斯教ノ敵タル土國政府ノ羈絆  
ヨリ脱セシムルハ自家ノ天職トシテ之ヲ認ムル所ナリ是ヲ以テ由來露國  
ハ苟モ機會ヲ捕捉スヘキモノアル毎ニ必ス事端ヲ土國ニ構ヘ多年ノ慾望

第一章 露土戰爭ノ原因及列國トノ關係

千八百七十七年戰役前  
ニ於ケル露  
土兩國トノ  
關係

ヲ達セスンハ止マサラントセリ本編千八百七十七年露土戰爭ノ如キ實ニ兩國第九回ノ交戦ニシテ其眞因モ亦茲ニ存ス而シテ今其直接原因ヲ述フルニ當リ先既往ニ溯リ露土並ニ列強トノ國際的沿革ヨリ説カサル可カラサルナリ

抑露土ノ國際關係ハ既ニ彼得大帝ノ時ヨリ其端緒ヲ開キヌ然ルニ當時土國ノ氣運漸ク衰頽ニ赴キシカ尙兵力ノ侮ル可カラサルモノアリテ大帝ノ南下政策モ遂ニ其效果ヲ見ルニ及ハサリシナリ女帝カタリナ二世ノ立ツヤ銳意大帝ノ遺志ヲ紹キ千七百六十八年波蘭事件ヨリ土國ト戰端ヲ開キ海陸共ニ大ニ土軍ヲ破リ千七百七十四年クチユックカイナルジー平和條約布爾牙利 *Silistria* ノ東南方約六里ニ在ル *Katsehuk Kaimar* カチセックカイマル *Jeschi* (*Kuc Kajnarza*) ニ於テ締結セリ故ニ此名アリ 二由リ *Asov* 海口ノ地ヲ占領シ *Dardanel* 海峽ニ於ケル露國軍艦ノ自由航行權ヲ獲取シ更ニ千七百八十三年土國ニ強請シテ *Prin* 半島ヲ割讓セシメタリ斯クテ女帝ノ一タヒ土國ノ與ミシ易キヲ看破セルヤ巧ニ塙國ニ説キテ土國分割ノ企圖ニ加ハラシメ千七

百八十八年連合シテ兵ヲ巴爾幹方面ニ出シタリシカ會塙帝ヨセフ二世ノ崩殂ト共ニ塙國ハ一時土國ト講和スルヲ得策ト爲シ直ニ撤兵シタリシモ露國ハ尙獨力以テ土軍ニ當レリ然ルニ此時英國ハ普蘭二國ト同盟シテ露國ノ南進ヲ防遏セントセシカハ露國ハ已ムヲ得ス千七百九十三年ヤッシ條約 羅馬尼東北境ノ *Yassi* ニ於テ締結セララル故ニ此名アリ ヲ結ヒテ唯 *Donester* 河畔及高加士ニ於ケル一小地方ノ占取ヲ以テ甘シタリ

カタリナ女帝ノ崩後露國南進ノ經略一時振ハサリシカ第十九世紀ノ初ニ至リ佛國革命ノ影響巴爾幹半島ニ波及シ自由獨立ノ思潮土國領内ニ於ケル耶蘇教徒ヲ風靡スルヤ露國ハ好機逸ス可カラスト爲シ希臘正教ノ首長タル口實ノ下ニ巧ニ半島内ノ教徒ヲ煽動シテ其獨立運動ヲ助成セリ而シテ露國ノ後援ニ依リテ先獨立ヲ企テタルハ塞爾維ナリシカ多年苦戰ノ後始メテ千八百十七年ニ至リ自治權ヲ得タリ尋テ千八百二十年久シク土國暴政ノ下ニ呻吟セル希臘亦奮然立チテ土國ニ抗スルニ至レリ乃チ露帝歷

山一世ハ兵ヲ出シテ土國ヲ伐チ希臘ヲ助ケントセシモ墺國宰相メッテルニ  
 ヒノ爲ニ沮マレテ果ササリシノミナラス後希軍ノ勢振ハス爲ニ土軍ニ破  
 ラレ復立ツ能ハサラントスルヤ歐洲諸國ノ人民ハ無限ノ同情ヲ歐洲最古  
 ノ文明國タリシ希臘ニ寄セテ軍資ヲ送り或ハ自ラ來リテ希軍ニ投ス  
 ルモノアリ是ニ於テ英佛兩國政府ハ輿論ノ動カス所ト爲リ千八百二十七  
 年英佛露三國會議ヲ倫敦ニ開キ希臘ヲ以テ土國ノ貢獻國ト爲シ之ニ自治  
 ヲ許ス可キコトヲ議決宣言シタルニ土帝ノ頑トシテ之ヲ肯ンセサルヲ憤  
 リ三國連合艦隊ハ同年十月希臘ノ南岸 ナマリ Zavarin 附近ニ於テ土國艦隊ヲ撃チ  
 テ之ヲ全滅シタリ然ルニ此時英國ノ内閣更迭シ新内閣ハ力メテ土國ニ干  
 渉スルヲ避ケ佛國モ亦之ニ倣ヒテ共ニ撤兵シタルモ獨リ露國ハ千八百二  
 十八年四月公然土國ニ向ツテ宣戰シ兵ヲ巴爾幹及高加士ノ兩道ヨリ進メ  
 翌年九月露將ヂエヒツチノ アドリアノッポ Adrianopol ヲ陥ルルヤ土國ハ遂ニ和ヲ請ヒ希臘  
 ノ獨立ヲ承認シ ダダネル Dardanel 海峽ヲ開放シテ各國船艦ノ自由通行ヲ許可シ露

國ニハ黑海東岸及 ドナウ Donau 河口ノ一地方ヲ割讓シ且約スルニ償金ヲ與フ可  
 キコトヲ以テシタリ

爾來露國ノ君士坦丁堡ニ於ケル勢力ハ他ノ列強ヲ壓倒シ土國ハ殆ト露國  
 ノ保護國ト異ナラサルノ觀ヲ呈スルニ至レリ其後千八百三十三年埃及ノ  
 藩王亂ヲ爲シシリア 小亞細亞土耳其西南部 地中海ノ沿岸ノ州名 ヲ占領セルモ土國之ヲ如何トモ爲  
 ス能ハサルヤ露國ハ援兵ヲ名トシテ ダダネル Dardanel 海峽ヲ占據セントセリ列強  
 大ニ驚キ土帝ニ説キ急ニ和ヲ講シシリアヲ埃及ニ割與セシメタリ而シテ  
 同年七月露國ハ土國ニ逼リテ「君士坦丁堡ノ對岸 フンキアルスケレシ」條約 君士坦丁堡ノ對岸 條約 君士坦丁堡ノ對岸 條約 君士坦丁堡ノ對岸 條約  
ニ於テ締結セラ 爾故ニ此名アリ ヲ結ヒ一朝事アレハ土國ヲ助クルノ義務ヲ負フノ代償トシテ  
 土國ヲシテ戰時露國ノ爲ニ ダダネル Dardanel 海峽ヲ閉鎖ス可キヲ約セシメタリ是  
 レ即チ露國ヲシテ海峽ノ全權ヲ掌握セシムルモノナルヲ以テ列強特ニ英  
 佛兩國ハ土國ニ向ヒ極力反抗ヲ試ミタルノ結果此約不成立ニ終レリ是ニ  
 於テ所謂近東問題ナルモノ漸ク世人ノ注意ヲ喚起スルニ至レリ



千八百七十七年露土戰役ノ近因及列國トノ關係

年ノ志望ヲ廢棄ス可キ窃ニ時機ノ到來ヲ待チツツ在リシカ恰モ巴爾幹ニ起レルスラーヴ民族ノ叛亂ハ露國ニ好個ノ口實ヲ與ヘシモノニシテ遂ニ千八百七十七年ノ露土戰爭ヲ惹起スルニ至リシナリ

今其直接原因ヲ繹ヌルニ此戰爭ノ導火線トシテ視ルヘキハ實ニヘルツェゴビナ及ボスニアノ叛亂ナリトス本來二州ハ希臘教徒タルスラーヴ民族主トシテ之ニ住居シ多年土國暴政ノ下ニ苦シミ來リシカ會千八百七十四年凶歎ノ爲慘憺タル苦境ニ陥リシニ土國收稅吏ハ毫モ假借スル所ナク重歛苛稅ヲ賦課セシヲ以テ翌年七月慨然叛旗ヲ舉ケ塞爾維及モンテネグロ首トシテ之ニ應シ露國人亦赴キテ叛徒ヲ援クルアリ因リテ墺國ハ其禍亂ノ自國內ニ波及センコトヲ虞レ獨露兩國ト協同シテ土國ニ勸告ヲ試ミタリシニ土帝ハ同年十二月勅令ヲ發シテ內治ノ改革ヲ宣言シタリシモ叛民ハ更ニ鎮靜ノ色ナク其勢益猖獗ナリ乃チ墺、獨、露、三國ハ英、佛、伊ノ三國ニ説キ六國ノ協商ニ基ツキ千八百七十六年一月五箇條ノ要求ヲ土國ニ提出セ

リ所謂「アンドラシー」ノ公文是レナリ蓋シ此提案ハ墺國首相アンドラシーノ起草ニ係ルヲ以テナリ土帝ハ此忠告ヲ容レ列國ノ好意ニ副ハンコトヲ約シ直ニ叛徒ニ對シテ大赦ヲ布告シ內治ノ改革ニ著手セシモ叛徒ハ其誠意ニ出テサルモノト爲シ暴動ハ依然トシテ止ムコト無シ此時土國人及回教徒ハ列強ノ干涉ヲ憤慨シテ外人排斥ヲ絶叫シ同年五月 SALONIKI サロニキ 歐羅巴土耳 古マセドニ アノノ暴民ハ獨、佛兩國ノ領事ヲ殺戮セリ是ニ於テ露ノゴルチャコフ、獨ノビスマルク、墺ノアンドラシーハ同月十日伯林ニ會合シテ一ノ覺書ヲ作り二箇月ノ猶豫ヲ土國ニ與ヘ尙列國ノ提出セル改革案ヲ決行セサレハ斷乎タル處置ニ出ツ可キヲ約セリ佛、伊兩國ハ之ニ賛同セルモ英ノ首相ピコンスフィールドハ露國ノ野心ヲ助長センコトヲ虞レ斷然此案ニ反對シ窃ニ其內容ヲ土國ニ通知シ列強ノ干涉ヲ避ケンカ爲速ニ內政ノ改革ヲ斷行スヘキヲ忠告セリ此時君府ニ於ケル排露的感情ハ日ニ激昂ヲ加ヘ遂ニ同月三十日土帝アブヅル、アジヅハ排露派ノ爲ニ突然暴力ヲ以テ帝位ヲ廢セラレム

ラッド五世之ニ代リテ立チ爲ニ伯林覺書ハ土國ニ提出スルニ至ラスシテ止  
ミヌ

此時ニ當リ布爾牙利人虐殺事件起リ益事態ヲシテ紛糾セシメタリ是ヨリ  
先土國政府ハブルガリア戰爭以來布爾牙利人ヲ驅逐シテ韃靼人及チエルキオス人ヲ  
ドナウ河畔ノ地ニ移住セシメ以テ露國ノ侵略ニ備ヘントセリ然ルニチエル  
キオス人ハ慄悍無賴ニシテ布爾牙利人ヲ苦シムルコト甚シク布人ハ再三其  
實況ヲ具シテ土國政府ニ哀訴セシモ顧ミラレサルヲ以テ遂ニ同年五月憤  
然叛旗ヲ翻ヘセリ土國ハ直ニ大兵ヲ出シテ一舉ノ下ニ叛徒ヲ掃蕩シ盡サ  
ント欲シ之カ爲ニ無慮三萬餘ノ住民ハ虐殺セラレ一萬二千ノ婦女ハ捕ヘ  
ラレテ奴隷ト爲レリ此報一タヒ歐洲ニ傳ハルヤ到ル處土國ノ無道ヲ憤慨  
セサル者無ク就中英國ハ輿論激昂ノ極ニ達シ政府ノ土國ヲ助ケントスル  
政策ニ大反抗ヲ爲スニ至レリ  
斯ノ如ク土國ノ内外多事ナルノ秋ニ乘シテ同年七月塞爾維、モンテネグロ

ハ露國ノ後援ヲ恃ミテ兵ヲ擧ケ露將チエルナエフ指揮ノ下ニ布爾牙利ノ  
地ニ侵入セシニ却ツテ土軍ノ擊破スル所ト爲リシカハ已ムヲ得ス英國政  
府ノ勸告ニ從ヒ列強ニ講和條約ノ仲裁ヲ哀願セリ因リテ土都駐在ノ英佛  
露獨、奧伊ノ六國公使ハ本國ノ訓令ニ基ツキ評議ノ後六週間ノ休戦ヲ土國  
政府ニ提議シタリシニ土國ハ敵軍ヲ粉碎シタル後ニ非サレハ其交渉ニ應  
スルヲ不利ト爲シ故ラニ時日ヲ遷延シ大勝ヲ博スルニ至リ始メテ之ニ應  
シ二箇月間ノ休戦條約ヲ締結セリ而シテ同年十月休戦期ノ滿ツルヤ土軍  
ハ再ヒ行動ヲ開始シ大ニ塞軍ヲ擊破シ其首府 ボルザツニ迫ラントセシニ露  
國ノ威嚇スル所ト爲リ已ムヲ得ス休戦ヲ約シタリ

英國政府ハ同年十一月四日君府ニ列國會議ヲ開カンコトヲ發議セシニ露  
國及他ノ列強モ亦之ニ同意シ特ニ露國ハ會議ノ後援トシテ同月十三日第  
一次ノ動員ヲ令シ軍ヲ集中ヲ開始セリ元來英國ノ意ハ土國ノ獨立及領土  
保全ヲ基礎トシテ耶蘇教徒保護ノ方法ヲ議セントスルニ在ルモ露國ハ初



メヨリ名ヲ教徒保護ニ藉リ武力ヲ以テ土國ニ臨ミ以テ多年ノ慾望ヲ達セントスルニ在リ而シテ露國ハ外ハ獨、墺ノ歡心ヲ買ヒ内ハ出師ノ準備ニ著手シ尙獨力ヲ以テスルモ其素志ヲ貫徹セントセシカハ英ノ首相ビコンスフィールドハ飽ク迄之ヲ排斥シ爲ニ戰爭ニ及フモ敢ヘテ辭セストノ決心ヲ示シ形勢頗ル危殆ニ瀕セリ

君府會議ハ同年十二月二日ヲ以テ豫備會議ヲ開キ二十三日ヨリ本會議ニ移リ遂ニ改革案ヲ議決シテ土國ニ提出セシニ土國ハ列強ノ干涉ヲ避ケンカ爲急ニ憲法ヲ發布シテ議會ノ召集ヲ宣言シ又千八百五十六年ノ巴里條約ヲ楯トシテ列強ノ内治ニ干涉スルノ不當ナルヲ抗論シ毫モ之ニ應スルノ色無カリシヲ以テ列強ノ全權ハ翌年一月二十日會議ノ破裂ヲ宣告シ各自代理公使ヲ留メテ本國ニ歸去セリ

是ニ於テ巴爾幹ノ危機日ニ切迫シ露土戰爭ハ遂ニ避ク可カラサルノ形勢ヲ示シタリシニ四月ニ至ルモ尙破裂ヲ見ルニ至ラス是ヨリ先露國ハイグ

ナチエフヲ伯林維納倫敦ニ派シ土國ニ送ル可キ最後ノ議定書ニ就キ商議セシメタリシカ其結果三月三十一日ニ議定書ノ調印ヲ見ルニ至レリ同書ノ内容ハ即チ土國政府ヲシテモンテネグロト講和シテ戰備ヲ解キ約束ノ如ク改革ヲ斷行セシメ若シ尙改革ヲ實行セサル時ハ列強ハ歐洲平和ノ爲協同シテ適當ノ手段ヲ執ル可シト謂フニ在リ

## 國交斷絶

同年四月三日ヲ以テ倫敦議定書ハ土國ニ提出セラレタリシカ土國ハ飽迄自國ノ權能ヲ主張シ同月十日ニ至リ斷然之ヲ拒絕セリ是ニ於テ露國ハ愈最終ノ手段ヲ取ルニ決シ十五日第二次ノ動員ヲ令シ二十三日在君府露國代理公使ハ外交ノ破裂ヲ告ケテ全員ヲ本國ニ引揚ケ翌二十四日露帝歴山二世ハ宣戰ノ詔勅ヲ發セリ土國ハ同日列強ニ向ヒ調停ヲ求メタルモ皆其無效ヲ知りテ之ニ應セサリシカハ遂ニ此破裂ヲ見ルニ至レリ

此時列強ハ孰レモ中立ノ態度ヲ取リシカ特ニ墺國ハ既ニ一月下旬ボスニア及ヘルツェゴビナノ占領ヲ條件トシテ露國ニ對シテ好意的中立ヲ保證シ

獨逸モ亦タ「三帝同盟」ノ誼ヲ重ンシテ同シク好意的中立ヲ守レリ然ルニ獨  
リ英國ハ露國ノ南下ヲ制止スルノ政策ヲ固執シタルモ表面中立ヲ宣言シ  
露國カ我利益ヲ害セサルコト即チ(一)土都ヲ占領セサルコト(二)蘇士運河ヲ  
封鎖セサルコト(三)作戰行動ヲ埃及ニ及ホササルコトヲ以テ其條件ト爲セ  
リ

是ヨリ先塞爾維ハ全ク土國ニ屈伏シ戰爭前ノ狀態ヲ維持シ得ルノ條件ノ  
下ニ三月一日ヲ以テ土國ト和ヲ約シモンテネグロモ亦一時休戰セシカ四  
月一日ニ至リ再ヒ交戰狀態ニ入レリ羅馬尼ハ最初中立ヲ守ラントセシモ  
其實力ヲ有セサルカ爲列強ノ認ムル所ト爲ラス因リテ露國ト連合セハ戰  
後少クモ政治上ノ獨立ヲ得ヘシト爲シ四月十六日ヲ以テ露國ト條約ヲ結  
ヒ露軍ヲシテ自由ニ國內ヲ通過セシムルノミナラス郵便電信其他苟モ軍  
旅ニ關スル物件ノ使用ヲ許シ其代償トシテ露國ヲシテ羅馬尼ノ國權ヲ尊  
重シ又其國土ヲ保護スヘキヲ誓ハシメ五月二十二日公然土國ニ對シテ宣

戰ヲ布告シ同時ニ獨立ヲ宣言シタリ故ニ露國ハ戰役中直接間接ニ前記三  
國ノ援助ヲ得タリシナリ

## 第二章 露土兩軍ノ編制附羅馬尼、塞爾維 及モンテネグロ軍ノ兵力

一 露軍ノ編制 附錄第一及露土兩  
軍作戰地總圖參照

千八百五十三年(一八一三)戰爭當時ノ露國徵兵制度ハ國民ノ全部兵役ノ義務ヲ  
負擔セス其在營期モ現今諸強國ニ於テ行ハルルカ如キ短期ノモノニ非ス  
シテ現役年限實ニ十五箇年ニ達セリ爾後數回ノ改正ヲ施シ以テ兵役義務  
ノ輕減ニ勉メ千八百六十八年現役ヲ十箇年豫備役ヲ五箇年ニ短縮セリ而  
シテ千八百七十年及七十一年戰役ニ於ケル普國ノ成功ハ國民皆兵主義ヲ  
採用セルニ基因スルモノト爲シ露國モ亦根本的徵兵制度ノ改善ヲ圖リ千

徵兵制度

八百七十四年之ニ關スル法令ヲ發布シ同年度ヨリ直ニ之ヲ實行セリ即チ現役六箇年、豫備役九箇年、國民兵役五箇年合シテ二十箇年ノ服役ナリ故ニ本戰役ノ初メニ於テ新徵兵令ニ依リ徵集セラレタル兵卒ハ僅カニ二年度ノ者アリシノミニシテ其他ハ舊徵兵令ニ依ル者ナリキ

露國ハ前述ノ如ク制度ノ改革ヲ實行スルト同時ニ數次編制ノ改正軍隊ノ増設ニ著手シ開戰前ハ恰モ其實行中ニ在リタリ戰役前軍團ヲ編成セシハ近衛ノミニシテ他ハ動員ト共ニ始メテ編成シタルカ爲ニ軍團長部下ヲ識ルノ日淺ク甚タシキハ集中地ニ於テ始メテ任命ヲ見シモノアリ是レ戰役間建制部隊ノ分割ヲ意ニ介セサリシコトト相俟テ露軍ノ統帥ニ少カラサル不利ヲ醸セシ所以ナリ

陸軍ノ編制

露軍ノ編制複雑ナルハ其領土ノ廣大ナルト人種ノ多數ヲ包括スルカ爲ナリ今之ヲ大別スレハ正規軍、不正規軍及國民軍トス正規軍ヲ分ツテ戰列、守備、補充、補助ノ四部隊トシ不正規軍ヲ哥薩克部隊、他國人編成部隊ニ分テリ

戰列部隊

步兵

先戰列部隊ニ就キ述フルアラントス

步兵ハ四十八師團、狙擊步兵八旅團及獨立步兵三十四大隊戰役ノ末期迄ニハ四十三大隊ト爲レリニシテ其區分左ノ如シ

- 近衛 步兵 三師團十二聯隊一聯隊ハ 四十八大隊
- 選拔 步兵 四師團十六聯隊十二聯隊ハ三大隊、四聯隊ハ四大隊 五十二大隊
- 歩兵 四十一師團百六十四聯隊二十四聯隊ハ四大隊、他ハ三大隊 五百十六大隊
- 近衛狙擊步兵 一旅團 四大隊
- 狙擊 步兵 五旅團一旅團ハ四大隊 二十大隊
- 高加士狙擊步兵 一旅團 四大隊
- 土耳其斯坦狙擊步兵 一旅團 四大隊
- 獨立 步兵 高加士、土耳其斯坦及西伯利等ニ配置ス 三十四大隊
- 計六百八十二大隊戰役間増設セシ獨立大隊九箇ヲ合スレハ六百九十一大隊
- 歩兵一師團ハ二旅團ヨリ、一旅團ハ一聯隊ヨリ狙擊步兵旅團ハ一聯隊ハ三乃聯隊ヲ有セス

騎兵

至四大隊ヨリ、大隊ハ四乃至五中隊ヨリ成レリ即チ四大隊編制ノ聯隊及狙撃步兵ノ各大隊ハ四中隊故ニ四大隊編制ノ聯隊及狙撃步兵旅團ハ共ニ十六中隊又三大隊編制聯隊ノ各大隊ハ五中隊四中隊及撤兵一中隊ニシテ獨立步兵大隊モ亦四乃至五中隊ヨリ成レリ中隊ハ二半中隊ニ分レ各半中隊ヲ二小隊ニ區分セリ大隊ノ戰時定員ハ狙撃步兵旅團ノ大隊最モ少ク即チ千二十三人ニシテ五中隊編制ノ獨立大隊最モ多クシテ千六十七人ナリ其他ノ大隊ハ四中隊編制ナルト五中隊編制ナルトニ依リ多少定員ニ差異アルモ概ネ千人ヲ算セリ

騎兵ハ胸甲騎兵、龍騎兵、槍騎兵、驃騎兵及哥薩克騎兵ノ五種ニ分レ其數十九師團ヲ算シ近衛騎兵二師團、騎兵十四師團、高加士騎兵一師團及哥薩克騎兵二師團是レナリ近衛騎兵第一師團ハ胸甲騎兵ノミノ四聯隊又高加士騎兵師團ハ龍騎兵ノミノ四聯隊ヨリ成リ其他ノ師團哥薩克師團ヲ除クハ龍騎、槍騎、驃騎及哥薩克騎兵各一聯隊近衛騎兵第二師團ヨリ成レリ哥薩克師團ハドン哥薩克及高加士哥薩克ニシテ兩者共ニ哥薩克騎兵ノミノ四聯隊ヨリ成レリ各師團

砲兵

ハ二聯隊編制ノ二旅團近衛騎兵第二師團ハ三旅團ヨリ、一聯隊ハ通常四中隊哥薩克聯隊ハ六中隊ヨリ成レリ故ニ戰列部隊ノ全騎兵ハ三百六十七中隊內正規騎兵二百二十四中隊、哥薩克騎兵百四十三中隊ニシテ一中隊ハ四小隊ニ區分シ其戰時定員戰列中隊ノモノ百五十六騎武裝セル乘馬兵卒百二十三騎哥薩克中隊百五十五騎武裝セル乘馬兵卒百二十八騎ナリ野戰砲兵ハ野砲兵、山砲兵、騎砲兵騎山砲兵ヲ含ムニ區分シ野砲兵ハ步兵四十八師團ニ各一旅團ヲ配屬セシムル目的ヲ以テ六中隊一中隊八門編制ノ四十八旅團アリ外ニ不規編制ノ三旅團即チ土耳其斯坦ニ二旅團、東部西伯利ニ一旅團及西部西伯利ニ一獨立中隊合シテ十五中隊アリ統一編制ニ係ル野砲兵四十八旅團ノ第一乃至第三中隊ハ九斤砲、第四乃至第六中隊ハ四斤砲ナリ但シ四十八旅團ノ内七旅團ハ別種ノ編制ヲ有セリ即チ近衛砲兵全部三旅團ハ九斤砲ニシテ第二十一、第二十二、第三十九及第四十一旅團ハ三斤山砲ヲ混セリ此最後ノ四旅團ノ内第二十二旅團ハ出兵セス他ノ三旅團ハ小亞細亞方面ニ使用セシテ之ヲ詳述セス山砲兵ハ土耳其斯坦並ニ西伯利旅團及第二十一、第二十二、第三十九及第四十一旅團ニ屬スルモノ合シテ

九中隊ニシテ別ニ戰役ノ初メ二中隊ヲ編成シ歐羅巴戰地ニ出セリ  
 騎砲兵ハ正規騎砲兵二十六中隊内五中隊ハ近衛騎山砲兵一中隊下ノ哥薩克騎砲兵第一中隊ヲ以テ動員ト共ニ  
成セシモノトス 騎山砲兵中隊ニ編成セシモノトス 哥薩克騎砲兵三十八中隊平時二十一中隊計六十五中隊アリ全部四斤砲騎山砲中隊ハ三斤砲ニシテ内十中隊ハ野砲兵ト同シク八門編制ナルモ他ハ六門編制ナリ正規騎砲兵二十六中隊ノ内近衛ニ屬セサル二十中隊ハ平時ヨリ現在スル「ドン」哥薩克騎砲兵七中隊ト共ニ二中隊宛騎兵第一乃至第十四師團ニ配屬セリ但シ騎兵第八師團ニハ「ドン」哥薩克騎砲兵第九中隊ヲ編入セリ之ヲ要スルニ當時正規軍ニ屬スル野戰砲ハ九斤砲百五十二中隊、四斤砲百三十八中隊、三斤山砲十一中隊、四斤騎砲兵三十六中隊、總計三百三十七中隊、砲二千八百二十四門、野砲二千三百二十門、山砲八十八門、騎砲二百十八門アリタリ一中隊ノ人員ハ比較的衆多ニシテ少キモ二百五十人多キハ三百三十人ニ上レリ

工兵

工兵ハ近衛選抜各一大隊、戰列十大隊、高加士三大隊、計十五大隊ノ外土耳其

軍團ノ編制

斯坦ニ獨立ノ一中隊アリ其他架橋兵六大隊戰役ノ末期迄ニ尙二大隊ヲ編成セリ 鐵道兵三大隊戰役ノ末期迄ニ尙一大隊ヲ編成セリ 坑道兵二中隊、電氣技術教導中隊一個アリテ戰役ノ當初此等ノ工兵ヲ混シテ第一乃至第四旅團ト高加士旅團トニ編成セリ工兵大隊及鐵道兵大隊ハ戰時四中隊ヨリ、架橋兵大隊ハ二中隊ヨリ成レリ各架橋兵大隊ハ約百六十四米突分ノ軍橋架設材料ヲ有セリ  
 前ニ述ヘシ如ク近衛軍團ヲ除ケル其他ノ軍團ハ動員ト同時ニ編成セリ即チ千八百七十六年十一月第一回ノ動員ト共ニ第七乃至第十二ノ六軍團翌年二月ニ至リ更ニ選抜軍團及第一乃至第六並ニ第十三第十四ノ九軍團ヲ編成セリ  
 軍團ハ步兵二師團近衛選抜第一第二軍團ニ在リテハ三師團 騎兵一師團近衛軍團ニ在リテハ二師團ニシテ選抜軍團ニハ騎兵師團ヲ有セス  
 ヨリ、步兵師團ハ步兵二旅團、砲兵一旅團ヨリ、騎兵師團ハ騎兵二旅團、騎砲兵二中隊近衛騎兵第二師團ハ騎兵三旅團ヨリ成リ又近衛騎兵兩師團ハヨリ成ル  
 二中隊騎砲兵ヲ有セサル代リニ軍團ニ騎砲兵一旅團六中隊ヲ有スヨリ成ル  
 斯クシテ野戰部隊ノ大部分ハ千八百七十七年四月二十四日ノ宣戰布告前

ニ於テ十六軍團ニ編成シ其殘餘尙獨立セル步兵十一師團、狙擊步兵七旅團、騎兵三師團、砲兵十四旅團、山砲兵二中隊、西部西伯利砲兵一中隊、騎砲兵一中隊、第二十一中隊、工兵十五大隊、架橋兵六大隊、鐵道兵三大隊、坑道兵二中隊、電氣技術中隊一個アリ

守備部隊

守備部隊ハ戰列部隊ヲ増援シ又ハ後方勤務ニ使用セルモノニシテ之ヲ要塞部隊、豫備部隊、地方部隊ニ分ツ

要塞部隊

要塞部隊ハ步兵及砲兵ヨリ成リ要塞步兵ハ戰列部隊ヲシテ要塞ノ守備勤務ヲ免レシムルカ爲殊ニ設置シタルモノニシテ戰役ノ當初二十四大隊ノミナリシカ戰役中漸次編成シ其數六十一大隊ニ上レリ要塞砲兵ハ四十一大隊戰役末期迄ニハ百五十六中隊ニ増加セリアリテ平時十五箇處ノ要塞ニ分屯シ主トシテ要塞砲ヲ操練シ戰時ニ當リテハ尙攻城砲兵ヲ編成ス

豫備部隊

豫備部隊ハ步兵、砲兵及工兵ヨリ成リ戰時特設シテ戰列部隊ヲ増加スヘキモノナリ步兵ハ近衛軍團ニテ一聯隊、四大隊、其他百六十四個ノ戰列步兵聯

地方部隊

隊ヨリ各一大隊ヲ編成スヘキモノナリシカ戰役中編成セシ隊數ハ百四十四大隊ナリキ砲兵ハ四十八個ノ砲兵旅團ヨリ各一中隊編成スヘキモノナリシカ實際編成セシ隊數ハ七十一中隊ニ及ヘリ工兵ハ戰役ノ當初恰モ平時ノ各大隊ヲ四中隊ヨリ五中隊ニ擴張ノ初期ナリシヲ以テ僅カニ一中隊ヲ編成スルヲ得戰役間是等ノ歩砲兵ヲ以テ豫備師團十一箇ヲ編成セリ

地方部隊ハ單ニ步兵ノミヨリ成リ内地ノ警備及囚徒ノ護送ヲ擔當シ平時ヨリ各縣廳管區市若シクハ郡役所所在地ニ常設セリ其人員ハ所在ニ依リ一定セス縣廳及管區市所在地以外ノモノハ六十名内外ノ少人員ニシテ大隊ヲ編成スルニ至ラス戰役間編成セル地方部隊ノ數ハ百三十四大隊ト六百七十五隊ナリ

哥薩克部隊

哥薩克部隊ハ哥薩克管區ノ住民ヨリ編成シ各其地方ノ名ヲ冠セリ就中有名ナルモノヲ「ドン」哥薩克、烏拉爾哥薩克、「クバン」哥薩克トス哥薩克部隊ハ主トシテ騎兵ヨリ成レトモ幾分ノ管區ニテハ歩砲兵ヲ有セルモノアリ哥薩

克ノ制度ハカタリナ二世ノ時代ニ始マリ爾來百餘年間何等ノ變動ヲ見サ  
 リシカ千八百七十四年一般徵兵令ノ改正ト共ニ哥薩克ノ徵集法ヲモ根本  
 的ニ改革シ兵役ノ義務ヲ一般ノモノト同シク二十箇年トシ三箇年ヲ準備  
 兵役十二箇年ヲ隊列兵役五箇年ヲ補充兵役ト爲セリ即チ哥薩克管區ニ在  
 ル男子十八歳ニ達セハ抽籤ニ依リ準備兵役ニ編入シ其第一年ハ各自ノ居  
 住地ニ在ラシメ第二年ヨリ其村落ニ於テ軍事教育ヲ爲シ第三年ニハ四週  
 間訓練ノ爲之ヲ召集ス此三箇年間ノ準備兵役ヲ終了シタル後隊列兵役ニ  
 入ラシム隊列兵役ハ之ヲ三期ニ分チ第一期(四年)間現役トシテ服務シ第二  
 第三期(各四年)間歸休シ第二期ニ於テハ復習ノ爲三回第三期ニ在リテハ一  
 回毎回約三箇月間召集ス哥薩克ノ服役法ハ一般ニ上述ノ如シト雖モ烏拉  
 爾哥薩克ノミハ志願兵制度ニシテ補缺アル時ニ限り兵役義務者ヲ徵用セ  
 リ哥薩克ノ兵力ハ戰時步兵十九大隊騎兵八百八十七中隊内百四十三中隊ハ平  
 時ヨリ騎兵師團ニ編  
 入騎砲兵三十九中隊内十中隊ハ平時ヨリ  
 騎兵師團ニ配屬スニシテ總兵員ハ野戰部隊ニ編入セル

補充部隊、補助部隊

輜重

モノヲ合シテ約十六萬人ヲ算セリ  
 補充部隊、補助部隊憲兵懲治  
 隊ノ如キハ兵力ニ大ナル關係ヲ有セサルヲ以テ茲ニ述ヘ  
 ス小亞細亞方面ニテ多少關係ヲ有スル他國人編成部隊ハ主トシテ高加士  
 土著ノ住民ヨリ編成シ平時ハ步兵約一大隊騎兵三十六中隊ナルモ戰時ニ  
 ハ步兵約十二大隊騎兵百三十中隊ニ擴張シ人員約二萬三千人ニ達セリ  
 露軍ノ輜重ハ戰役前及戰役中屢改正セルモ甚々不便ノ編制ナリキ即チ隊  
 屬輜重トシテ歩騎兵ノ各聯隊狙擊步兵工兵ノ各大隊及砲兵ノ各中隊ニ多  
 大ノ輜重ヲ附セリ之ヲ例セハ步兵聯隊ノ輜重ハ四頭曳車輛三十七輛二頭  
 曳車輛二十七輛一頭曳車輛一輛計六十五輛馬匹二百十九頭ノ多キニ上リ  
 彈藥土工具糧食炊具行李ノ外聯隊病院トモ稱ス可キ小野戰病院ヲモ携行  
 セリスノ如キ輜重ノ編制ハ軍隊ノ運動性ヲ害スルコト大ニシテ開進ノ際  
 此等ノ輜重ハ所屬軍隊ニ續行スル能ハス甚シキニ至リテハ數日行程ヲ距  
 ルニ至レリ之ニ反シ師團輜重ハ糧食ノ全部ヲ隊屬輜重ニ携行セシメシ爲

## 海軍

僅カニ彈藥縱列及野戰病院一個ヨリ成リ軍團ニハ別ニ輜重ヲ有セス露國ノ當局者モ戰役前ヨリ此編制ノ不利ヲ認メ千八百七十六年二月改正意見ヲ提出シ可及的隊屬輜重ヲ輕減シ之ヲ師團輜重ニ加ヘントセシモ此改正ハ隊屬輜重ニ新式二頭曳輕車輛ヲ使用スルニ在リタルヲ以テ同年十一月第一回動員ノ際ハ新式車輛ノ製造漸ク其緒ニ就キタルカ如キ有様ナリシカ爲全部舊編制ニ據リテ動員シ千八百七十七年ニ至リ動員シタル部隊ハ多少新式車輛ノ交附ヲ受ケ改正意見ニ基ツキ一部ノ編成ヲ見ルニ至レリ之ヲ要スルニ露軍ノ輜重ハ數次改正セルモ戰役初期ニ於テハ大部分尙舊態ヲ改メス軍隊ノ運用上不便ヲ來セルコト少カラサリキ

露國ノ海軍ハ當時全ク不振ノ域ニ在リ列國ハ既ニ装甲ト施條砲ノ新時代ニ入リタルモ露國ハ造船術ノ未熟ト財政ノ關係ニ因リ其進歩ニ伴ナフ能ハス纔カニ海防艦隊ヲ組織セルニ過キス千八百七十年ノ獨佛戰役ヲ利用シ巴里條約ノ規定ヲ破棄シテ黑海ニ艦隊ヲ浮ヘシモ日尙淺ク戰鬪ノ用ニ

## 羅馬尼軍ノ兵力

供シ得ルハ僅カニ二艘ノ甲鐵海防艦ト七艘ノ單檣水雷艇ノミニシテ其勢力到底土國ニ比スヘキニ非ス波羅的海ニハ戰鬪艦一艘其他大小二十六艘ノ装甲艦在リシモ黑海艦隊ヲ援助センカ爲 ボスポルツ 海峽ヲ突破スルカ如キハ固ヨリ不可能ノコトニシテ特ニ斯ノ如キ海軍ノ行動ハ強大ナル海軍力ヲ有スル英國ト葛藤ヲ生スルノ嫌アルノミナラス英露兩國艦隊ノ差ハ隔絶ナリ以上ノ關係ハ露國ヲシテ延長ナル黑海沿岸警備ノ爲多大ノ軍隊ヲ配置セシムルニ至レリ然レトモ ドナウ 河ニ於テハ土國艦隊ノ無爲ニ乘シ機敏ニ水雷艇ヲ使用シ全河川ヲ制壓セリ

羅馬尼ハ露土開戰ノ際露國ト特約ヲ結ビ露軍ヲシテ自由ニ自國ヲ通過セシムルノミナラス ドナウ 河ノ線ニ於テ一時露軍ノ開進ヲ掩護シ尋テ公然土國ト國交ヲ絶チ爾後露軍ト作戰地境ヲ分チ獨立シテ國境ノ防備ニ從事セシカ千八百七十七年八月布爾牙利ニ於ケル露軍ノ形勢危機ニ瀕シ露國ノ請求ニ應シテ ドナウ 河ヲ渡リ之ニ連合スルニ至レリ羅馬尼軍ノ主ナル



塞爾維軍ノ  
兵力

モノハ常備軍及地方軍ニシテ常備軍ハ步兵八聯隊十六大隊獵歩兵四大隊騎兵二聯隊(八中隊)野砲兵四聯隊二十四中隊騎砲兵二中隊及工兵一大隊四中隊ヨリ成リ地方軍ハ平時各地方軍管區ニ置キ國境守備及管區内ノ警察勤務ニ服ス其服役年數ハ六箇年ニシテ服役間交番ニ其勤務ニ服シ戰時ハ全部常備軍ト共ニ出戦ス故ニ其素質固ヨリ充分ナルモノニ非サルナリ然レトモ兵力ハ戰時歩兵十六聯隊(三十二大隊)騎兵八聯隊(三十二中隊)野砲兵二十四中隊ヲ算シ羅馬尼亞ニ在リテハ重要ナル軍隊ナリ其他必要ニ應シ戰時國民軍及護國軍ヲ編成シ得ヘシ羅馬尼亞國交斷絶ノ際常備軍及地方軍ノ歩騎兵ヲ合シテ二軍團附錄第二參照ニ編成シ羅馬尼亞ノカール公之ヲ指揮セリ

塞爾維ノ露國ニ對スル價值ハ固ヨリ羅馬尼亞ニ比ス可カラス元來塞爾維ノ位置ハ露軍南進ニ當リ其右翼ヲ掩護ス可キ要衝ニ在ルモ既ニ述ヘタル如ク屢土軍ノ爲ニ破ラレ露土開戦ニ至ルモ到底實力ヲ以テ應スル能ハス遷延シテ戰役ノ末期ニ出戦シ露軍ハ間接ニ多少ノ利益ヲ得タルノミ塞爾維

モンテネグ  
ロ軍ノ兵力

ノ常備軍ハ戰時國民軍ニ充用スル幹部ノ養成ヲ主眼トセシヲ以テ其兵員ノ如キモ極メテ少數ニシテ僅カニ四千ニ過キス然レトモ千八百七十六年六月土國ニ宣戦セシ當時ニハ國民軍約十萬ニ上リ塞爾維國最強ノ時代ナリシモ同年十二月休戦ノ時ハ此等國民軍ハ大ニ減少シ僅カニ常備軍二千、志願兵七千人ヲ殘スノミ而モ志願兵ノ過半ハ露國及巴爾幹半島ノ他國民ヨリ成レルモノナリ

モンテネグロハ塞爾維ト共ニ土國ニ宣戦セシ以來祖先ヨリノ勇武ト峻嶮ナル地利ニ由リ最モ強靱ニ抵抗シ千八百七十七年ニ及ヒ一時休戦シタルモ同年四月ヨリ再ヒ交戦セリ之カ爲露國ハ間接ニ其利ヲ享有シ其效果寧ロ塞爾維ヨリモ大ナリモンテネグロノ軍ハ一ニ國民皆兵主義ニシテ平時ハ國王ノ護衛トシテ約一百人ノ兵員アルノミナルモ戰時ハ十六歲以上六十歲以下ハ悉ク兵役義務ヲ有ス此戰役ニハ十四歲以上出戦シタルノミナラス婦女モ亦糧食彈藥ノ運搬ニ從事シ兵力約二萬三千人ニ達セリ

二 土軍ノ編制

軍制

土軍ニ就テハ正確ナル記録無キニ因リ之ヲ詳ニスルヲ得サレトモ開戦ノ當時其人口ハ羅馬尼、塞爾維、モンテネグロ等獨立ニ等シキ諸國ヲ除キ二百五十萬アリ就中回々教徒ハ千二百五十萬ニシテ而モ其大部(三分二強)ハ亞細亞土耳其内ニ住セリ兵役ノ義務ハ回々教徒ノミニ課シ耶蘇教徒ヨリハ免稅ヲ徵收セシヲ以テ其領土及人口ニ比シ兵備寡少ナリシナリ

土國ノ軍制ハ普國ニ模倣シ千八百六十九年ニ改正セシモノニシテ常備軍、後備軍、國民軍及補助軍ヨリ成レリ

常備軍ハ戰列部隊及地方部隊(要塞砲兵及特別ナル地方編成部隊)ヨリ成リ其服役年限ハ步兵ハ現役四年、豫備役二年其他ノ兵種ハ現役五年、豫備役一年ニシテ滿二十歳ニ達シタル回々教徒之ニ服ス

後備役ハ服役六年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服シ前三年ヲ第一級、後三年ヲ第二級トシ專ラ野戦ニ使用ス故ニ平時ヨリ少數ノ幹部及戰用品

ヲ準備シ戰時ニ於テハ三兵種ヲ以テ特別兵團ヲ編成ス可キモノタリ

國民軍ハ服役八年ニシテ後備兵役ヲ終リタル者之ニ服シ平時ヨリ準備無キモ戰時ハ所要ニ應シ野戦ニ使用ス

補助軍一名不正規軍ハ亞刺比亞人及アルバニア人等ヨリ編成スル軍隊ニシテ掠奪慘酷至ラサル無ク有名ナル布爾牙利ノ大虐殺ヲ行ヒタルハ主トシテ此軍隊ナリ

前記改正案ハ千八百七十八年ニ至リ完成ス可キモノニシテ同年ニ至ラハ土軍戰時兵力ハ左ノ如クナルヘキ計算ナリ

常備軍	二十一萬人	<small>現役十五萬人 豫備役六萬人</small>
後備軍	十九萬二千人	
國民軍	三十萬人	
計	七十萬二千人	

然ルニ財政缺乏ノ爲年々規定ノ人員ヲ徵募スル能ハサリシニ因リ現役兵

常備軍ノ兵力

ノ數ハ著シク減少セシノミナラス定員ニ對シ徵募セサリシ人員ヲ直ニ後備役ニ編入セシヲ以テ後備役中軍事教育ヲ受ケサル者多數ニシテ國民軍ト著シキ差異ヲ生セサルニ至レリ情況此ノ如クナリシカ故ニ七十五年ノ末頃常備軍ノ兵力ハ野戰部隊十二萬八千、地方部隊一萬、合計十三萬八千人ニシテ豫定人員二十一萬人ニ對シ實ニ七萬二千人ノ不足ヲ來セリ尙他ノ調査ニハ總數十萬人ヲ超ヘサリシト云ヘリ而シテ此等ノ野戰部隊ハ近衛ヲ合シテ七軍團管區ニ分置シ步兵四十五聯隊、狙擊步兵四十三大隊(計百八十六大隊)騎兵二十五聯隊(百四十五中隊)野砲兵百五中隊(六百三十門)工兵十四中隊ヲ算シ又地方部隊ハ要塞砲兵七聯隊及地方編成部隊若干千八百七十七年一月調ニハ步兵百六十五中隊騎兵一中隊ヨリ成レリ定規ニハ軍團内ノ步騎兵ハ平時旅團師團ノ編合ヲ有ス可カリシモ開戰前土國ハ實ニ亂麻ノ如クニシテモンテネグロ、ヘルツェゴビナ、ボスニア其他亞細亞ニ蜂起セシ暴民ニ對シ戰爭ヲ繼續シ一時休戰ノ状態ニ在リシ塞爾維ニ對シテモ亦再戰ノ準備ヲ要シ加フルニ羅馬尼

ハ公然戰備ヲ施シ希臘モ亦宣戰ス可キ傾向アリシヲ以テ軍隊ハ移動間斷無ク爲ニ著シキ變動ヲ其建制ニ生シ甚シキハ常備軍、後備軍、國民軍相混同シ且軍隊ノ定員ハ補充ヲ受ケサルヲ以テ頗ル不同ナリ定規ニハ步兵大隊ハ八中隊ヨリ成リ大隊ノ定員七百七十四名又騎兵ハ一中隊百四十三騎ナルモ步兵大隊中或ハ二百五十人ニ過キサルモノアリ故ニ露軍ハ戰役間歩兵大隊ヲ平均六百五十人、騎兵中隊ヲ百騎ト推定セシモ實ハ遙ニ其以下ニ在リシモノノ如シ

千八百七十六年春ヘルツェゴビナ、ボスニアノ暴動起ルヤ豫備兵ヲ以テ常備軍ヲ戰時定員ニ増加シ同時ニ第一級ノ後備兵ヲ動員セリ續テ同年六月塞爾維、モンテネグロノ宣戰ニ當リ第二級ノ後備兵ヲ召集シ又志願兵及不正規兵ノ從軍ヲ許可シ千八百七十七年四月頃土軍ノ總兵力ハ約四十九萬四千人(内約七萬人不正規兵トス)ニ達セシモノノ如ク其内 Vidin, Kuskuk, Dobrudza, Silistria 以上ドナウ河ノ南岸ニ在リ Sumla, Trnovo, Gabrovo 以上布爾ガリヤノ利内ニ在リ Adrianopol 以上布爾ガリヤノ利内ニ在リ Varna

千八百七十七年頃土軍ノ總兵力



海洋艦隊

裝甲艦 二十二艘内二艘ハ最新式ナリ

木造艦 八十二艘内戰艦ニ使用シ得ヘキハ約三十艘ナリ

計 百四艘人員一萬五千砲七百六十三門

「下ナウ」艦隊

裝甲艦 五艘

木造艦 四艘

計 九艘人員六百四十砲二十二門

海洋艦隊ノ内建造中及艤裝セサルモノ竝ニ黑海ノ東岸及地中海ノ監視等ニ充テシモノヲ除キ殘餘裝甲艦六艘、木造艦十三艘ヨリ成ル一艦隊ハ海軍大將ホバルトパシアノ指揮ニ屬シ開戰當時黑海ノ西岸 Varina ニ碇泊セリ「下ナウ」艦隊ハ七十七年ノ初メヨリ増加シ開戰ノ時ハ裝甲艦十乃至十二艘、木造艦約十艘其他多數ノ運送船及小蒸汽船等ヲ有セリ

第三章 兩軍ノ兵器及戰法附羅馬尼ノ兵器

一 歩兵

露軍ノ歩兵

露軍ノ歩兵ハ三種ノ後裝銃ヲ有セリ「ベルダン」式連發銃「クルンカ」式銃及「カ」ルレ「式」銃是レナリ「ベルダン」式ハ露軍ノ約三分一（近衛歩兵三師團、選拔歩兵四師團、線列歩兵九師團及狙擊歩兵五旅團）之ヲ携帶シ銃中最良ノモノナリ口徑一〇、六密米、初速四百四十二米突、最大照尺千五百步、最大發射速度一分間二十發ニ達セリ此銃ノ威力斯ノ如ク優良ナリシモ最初歐洲戰地ニ出戰セシ軍隊中之ヲ携行セシモノハ只狙擊歩兵旅團ノミナリキ後ニ至リ増加シタル軍隊近衛、選拔軍團竝ニ歩兵第二十四師團ハ此銃ヲ携帶セリ「クルンカ」式ハ最初歐洲戰地ニ出戰シタル九個軍團ノ携帶セシモノニシテ本戰役ニ於ケル歩兵ノ主要ナル武器ナリ口徑一五、二密米、初速三百五米突、最大照尺千二百步下士及狙擊歩兵中隊ノ使用スルモノ若シクハ六百步一般兵卒ノ使用スルモノ最大發射速度一分間

十二發ナリ此銃ハ藥莢抽出ノ際屢故障ヲ生シ威力其他ノ點ニ於テ遙ニ土軍ノ使用銃ヘンリーマルチニ一式ノ下位ニ在リ故ニ戰役中某聯隊ノ如キハ全部土軍ノ鹵獲銃ヲ以テ其武装ヲ改メタルモノアリ「カルレ」式ハ彈道性ニ於テ「クルンカ」式ニ優リシモ紙製藥莢ヲ使用セシヲ以テ雨天ノ際ハ濕潤シテ用ヲ爲ササルコトアリ此銃ハ小亞細亞ニ出戰セシ軍隊ノ大部之ヲ携帶セリ彈藥數ハ各式トモ同シク各自携帶セル六十發ノ外聯隊彈藥車ニ一銃ニ六十發ヲ有セリ

抑露國カ土國ト戰端ヲ開カントセシハ一日ノ故ニ非ス實ニ宿世ノ企圖ナリ然ルニ劈頭出戰セシ軍隊カ「ベルダン」式ヲ有セスシテ比較的不良ナル「クルンカ」式ヲ携帶セシハ露軍ノ特有トモ見做ス可キ突擊戰法ヨリ來レルモノナリ當時露軍ハ千八百七十年戰ノ佛軍ハ「シアスポ」銃ノ優越ナリシ爲ニ守勢主義ニ傾キ大ニ攻擊精神ノ發揚ヲ妨害シタルモノトセリ又一彈必斃一人ノ主義ハ往古ヨリ露軍ノ主張ニシテ近距離射擊ニ非サレハ此目的

ヲ達スル能ハスト爲セリ之カ爲射擊距離遠大ノ如キハ同軍ノ意ニ介セサル所ニシテ其適證トシテ「ベルダン」式ノ最大照尺ヲ僅カニ千五百歩ニ制限シ戰役後ハ二千二百歩ニ改正セリ又「クルンカ」式ニ在リテモ二千歩ニ達スルニ拘ラス其照尺ヲ千二百歩ト爲シ而モ一般兵卒ノ爲ニハ更ニ六百歩ニ減縮セリ故ニ步兵ノ戰法ハ重點ヲ散兵射擊ニ置カス主トシテ橫隊ノ一齊射擊及銃劍突擊ニ置キタリ當時ノ操典ニ依ル步兵一聯隊ノ戰闘法ヲ例セハ先ツ三個ノ撒兵中隊戰役ノ經驗ニ徴シ各大隊ニ一中隊ノ撒兵ヲ附シ専ラ射擊術ヲ訓練セリヲ第一線トシ聯隊ノ主力ハ其掩護ノ下ニ最初ハ通常三線ト爲リテ前進ス各大隊ハ必要ニ應シ橫隊ヲ作り敵前三四百歩ニ接近セハ茲ニ立姿ノ儘猛烈ナル一齊射擊ヲ施行シ次ニ第一線若シクハ後方ノ大隊ヲ加ヘテ突擊ニ轉セリ露國當局者ハ獨佛戰役ノ實驗ニ鑑ミ散開戰闘ハ步兵ノ主要ナル戰闘法ナルコトヲ覺知シタリト雖モ未タ之ヲ軍隊ニ普及スルニ至ラスシテ開戰セリ故ニ此戰役間露軍ノ步兵ハ常ニ充分ナル射擊ノ準備ナクシテ突擊ヲ施行シ爲ニ失敗ヲ招キシコト多ク又

土軍ノ歩兵銃

成功セシ場合ニ於テモ毎ニ著シキ損傷ヲ蒙レリ  
 土軍ノ歩兵銃ハ「ヘンリーマルチニー」式及「スナイドル」式ノ二種ナリ「ヘンリーマルチニー」式ハ口徑一、四密米ニシテ其威力略露國ノ「ベルダン」式ト同シク土軍ノ大部百分七十之ヲ携帶セリ「スナイドル」式ハ口徑一、四、六密米ニシテ露軍ノ大部使用セシ「クルンカ」式ニ相當セリ故ニ土軍ノ小銃ハ露軍ニ優リシコト數等ナリト謂フ可シ然レトモ當時ノ土軍ヲ觀察シ去レハ其兵卒ハ皇帝竝ニ宗教ニ絶對ノ服從ヲ有シ且質素堅忍ニシテ殊ニ行軍力ニ於テハ模範ト爲ス可キ能力ヲ有セルニ拘ラス其指揮官ノ學識一般ニ乏シク殆ト步兵將校ノ全部十分九ハ下士出身ニ係リ平時ノ教練ハ重キヲ練兵場ニ於ケル軍隊ノ操縱ニ置キ野營ノ如キハ稀ニ見ル所ナリ故ニ其戰法ハ極メテ平凡ニシテ攻撃ハ通常專ラ正面ヨリ施行シ稠密ナル散兵線ヲ以テ遠距離ヨリ間斷ナク射撃ヲ行ヒツツ極メテ緩徐ニ行進シ其防禦ニ於ケルモ亦攻撃ノ時ト同シク過早ニ射撃ヲ開始シ一ニ射程内ノ全目標ヲ掃射スルコト

土軍ノ素質及歩兵戰闘法

ニ勉メタリ故ニ此戰役當初守勢ニ在ル土軍歩兵ハ優越ナル射撃速度ヲ利用シ遠距離ヨリ露軍ノ密集部隊ニ射撃ヲ行ヒ露軍歩兵ハ之ニ對シ平時ノ訓練ニ依リ飽クマテ近距離ニ前進セント力メ一奇觀ヲ呈セリ然レトモ露軍ハ其後屢土軍ノ銃火ヲ受ケ照尺ノ構造ト自己ノ技術ヲ問フニ違無ク二千歩ニ於テ射撃ヲ開始スルニ至レリ

二 騎兵

露軍騎兵ノ武器ハ其種類ニ由リ一樣ナラス龍騎兵ハ銃劍ノ附著セル騎銃及軍刀ヲ、驃騎兵及槍騎兵ハ軍刀ノ外前列兵ハ槍、後列兵ハ騎銃ヲ、胸甲騎兵ハ槍ト拳銃ヲ、又各中隊ノ内十六騎ハ騎銃ヲ、哥薩克騎兵ハ一般ニ槍、軍刀及騎銃ノ三種ヲ携帶セリ故ニ純然タル格闘騎兵ハ胸甲騎兵ノミニシテ他ハ全部若シクハ半部徒歩戰ヲ爲シ得ヘキ性能ヲ有セリ

千八百六十六年普墺戰役後騎兵ノ用法ニ大變化ヲ來シ普國ハ此實驗ニ鑑ミ七十年戰役ニ當リテハ從來ノ如ク騎兵ノ大集團ヲ豫備ニ貯フルコト無

露軍騎兵ノ種類兵器及戰法

ク軍ノ前方ニ在リテ獨立搜索ニ任セシメテ戰略的使用ニ一新生面ヲ開ケリ露國ニ於テモ其後銳意騎兵ノ用法ニ就キ研究ヲ積ミ其他戰略上ノ新任務ニ對シ運動性及持久力ノ養成ニ多大ノ力ヲ用ヒ又獨立力ヲ附スル爲大ニ徒歩戰ヲ獎勵シ本戰役前驃騎兵及槍騎兵ノ後列ニモ騎銃ヲ交附シタル等略近代戰術ノ要求ニ適セリト雖モ其實施ニ當リテハ尙舊套ヲ脱セス教練モ亦依然練兵場ノミニ限り他兵種トノ協同動作及搜索勤務ノ如キハ甚タ不完全ナリキ其他北米戰爭ノ結果敵ノ背後連絡線ニ對シ優勢ナル騎兵ヲ使用スルノ利ヲ認メ日露戰役ニ於ケルミシチ<sub>ン</sub>コ及マドリトフ挺進騎兵ノ如ク此戰役ニ於テモ屢此用法ヲ實行セリ

土軍騎兵ノ兵器

土軍騎兵ノ武器ハ龍騎兵ハ軍刀及騎銃ヲ槍騎兵ハ其三分ノ一ハ騎銃ヲ他ハ槍ヲ持テリ此騎兵ハ主トシテ亞刺比亞及小亞細亞人ヨリ成リ平時佛國ノ將校ニ訓練ヲ受ケ戰場ニ於テハ其數遙ニ懸隔セル露軍ノ騎兵ニ對シ何等爲スコト無カリキ殊ニ高加士ノ移住賤民ヨリ成リシチエルキオス不正

規騎兵ノ如キハ當ニ戰場ノ用ヲ爲ササルノミナラス反テ自國ノ良民ニ危害ヲ與ヘタリト云フ

## 三 砲 兵

露軍ノ砲兵

露軍ノ砲兵ハ千八百六十六年ヨリ七十年ニ至ル僅カ四箇年餘ノ間ニ悉ク滑腔砲ノ舊態ヲ離レ施條砲ノ新時代ニ入レリ砲種ハ九斤、四斤及三斤(山砲)ノ三種ニシテ共ニ楔狀閉鎖機ヲ有スル黃銅後裝砲ナリ九斤砲ハ口徑一〇、六七珊米、初速三百二十米突、最大射程約三千二百米突ニシテ一中隊ノ携行彈藥ハ二輪彈藥車ヲ有スル中隊ニ在リテハ一門ニ約百二十五發、榴彈榴霰彈各五十八、霰彈九又四輪彈藥車ヲ有スルモノニ在リテハ約百三十發、榴彈六十二、榴霰彈六十、霰彈八ナリ四斤砲ハ口徑八、六八珊米、初速約三百米突、最大射程約二千六百米突ニシテ一中隊ノ携行彈藥ハ二輪彈藥車ニ在リテハ一門ニ約百三十七發、榴彈、榴霰彈各六十四、霰彈九又四輪彈藥車ニ在リテハ約百五十九發、榴彈、榴霰彈各七十六、霰彈七ナリ三斤山砲ハ口徑七、六二珊米、



初速約二百十米突、最大射程約千五百米突ニシテ砲ハ分解シテ馱馬ニテ運搬シ携行彈藥ハ一門ニ九十八發(榴彈、榴霰彈各四十二、霰彈十四)ナリ  
開戰當時露軍ノ砲兵ハ學理ノ研究不充分ナリシト演習用彈藥ノ支給不足ナリシトニ因リ未タ新式火炮ノ用法ニ熟セス從來射撃ニ方リ中隊長ハ射距離及射撃開始ヲ命スルノミニシテ修正ハ全ク砲車長ノ擔任ニ屬セシメシカ戰役ノ當時纔カニ中隊長自ラ夾又法ニ依リテ修正スルコトニ改正セリ而モ極メテ幼稚ノモノナリシナリ射撃ノ演習ハ平時射撃場ニ於テ單ニ顯著ナル目標ニ對シ基本射撃ヲ行フノミニシテ戰鬪射撃ノ如キハ未タ施行セス故ニ戰場ニ於テ一旦不明瞭ナル目標ニ遭遇セハ其效力ノ少キコト想像ニ難カラス當時ノ彈丸ハ掩體ノ後方ニ在ル敵ニ對シテハ斜射ノ外其效力殆ト無ク散兵ニ對スル效力モ亦著シカラス之ニ反シテ掩體ニ對スル破壞力ハ概シテ目的ヲ達セリ又集團砲兵ノ利ハ當時既ニ之ヲ認メシモ其實行ノ方法ハ單ニ許多ノ砲兵ヲ一連ノ陣地ニ集合スルヲ以テ足レリトセ

## 土軍ノ砲兵

リ之ヲ要スルニ此期ニ於ケル露軍ノ砲兵ハ未タ時代ニ適應セル發達ヲ爲サス高等指揮官ハ砲兵ニ關スル知識ヲ缺キ歩砲兵協同動作ノ如キハ全ク行ハレスシテ各別ニ戰鬪セルノ觀ヲ呈セリ

土軍ノ火炮ハ何レモ後裝式ニシテ六斤、四斤及三斤(山砲)砲ノ三種トス四斤砲ハ鋼鐵製ニシテ全砲數ノ三分ノ一ヲ占ム三斤砲ハ青銅製ニシテ六斤砲ハ金質明ラカナラス以上ノ外當時ノ最新式タル「クルップ」砲若干ヲ混用セリ故ニ備裝ノ點ニ於テハ露軍ト大差ナク且訓練ニ於テモ土軍ノ砲兵ハ當時他兵種ヲ凌駕セルヲ以テ露軍ニ讓ラス只砲數ニ於テ著シク劣リタレハ戰鬪間常ニ沈黙セリ

## 四 羅馬尼ノ兵器

羅馬尼ノ常備歩兵ハ「ピーボデー」式速射銃ヲ、地方軍ハ「ドライゼ」式及露國ノ「クルンカ」式銃ヲ、騎兵ハ刀及騎銃ヲ、砲兵ハ大部分九斤及四斤ノ鋼鐵製「クルップ」式ヲ有セリ

### 第四章 戰地ノ概要

露土兩軍作戰  
地總圖參照

露土兩國ハ亞細亞ニ於テハ領土相接スルモ歐羅巴ニ在リテハ奧匈國ト黑海トノ間ニ介在セル羅馬尼ノ中間國ヲ隔テテ相對シ黑海沿岸ニ於テハ相隔ツルコト僅カニ十里餘ニ過キサルモ之ヨリ西方ニ至ルニ隨ヒ漸次相隔離スルコト甚タシ

露國ト羅馬尼トノ境ニ <sup>ブルート</sup>Prut 河アリ融雪期 三月下旬乃至四月上旬ニ始マリ通常六乃至八週間繼續シ六月初旬ニ至リ終了スルニハ河水汎濫シ大軍ノ渡過頗ル困難ナリ <sup>ブルート</sup>Prut 河左岸ノ地ハ露領ベサラビアニシテ露ノ本國ヨリ同地ニ連絡スル唯一ノ鐵道線ハ <sup>ベンダ</sup>Bender ノ東方ニ於テ <sup>バルタ</sup>Balta-Odessa 線ニ接續シ <sup>キズニウ</sup>Kiszniw ヲ經テ <sup>ヤッ</sup>Jassiニ達ス

#### 一 羅馬尼公國

羅馬尼國ハ南境 <sup>ドナウ</sup>Donau 河ヲ以テ土領布爾牙利ト相接壤シ其面積四百二十九萬七千方吉米、人口約四百五十萬ヲ算ス住民ハ希臘教ヲ奉シ露國ニ好意

地勢

交通網

ヲ表ス地勢奧匈國ニ接スル一帶ノ山地ヲ除ケハ概ネ平低ニシテ <sup>ドナウ</sup>Donau 河數多ノ朝流北方山地ヨリ發シテ斜ニ東南ニ貫流ス之カ爲水利甚タ便ナルノミナラス河川ノ多クハ橋梁若クハ渡船設備ヲ有シ減水期ニハ處々徒渉スルニ難カラサルヲ以テ作戰上ニ甚タシキ不利ヲ呈セス首府 <sup>ブカレスト</sup>Bukarest 附近及其西ノ地方ハ土地豐饒人口最モ稠密ニシテ比較的狹小ナル地域ニ大軍ヲ集中スルヲ得ヘシ然レトモ「ライ」麥 裸麥ノ一種 及燕麥ハ他ノ農產物ニ比シテ產額豐富ナラス故ニ長時日ニ互リテハ露軍ヲ給養スルニ足ラス「ライ」麥及燕麥ハ露軍ノ主要ナル給養品タルヲ以テ露軍ハ開戰後重燒 <sup>ブカレスト</sup>Bukarest ノ東南 <sup>ドナウ</sup>Donau 河ト <sup>ヤロミタ</sup>Jalomita 河トノ中間地方ハ人煙稀少ノ瘠地ニシテ曠野ヲ形成ス羅馬尼ノ道路ハ降雨ニ當リ人工道 砂利又ハ碎石ヲ以テ構築セシモノノ如シヲ除クノ外泥濘ト爲リ軍隊特ニ車輛ノ通過困難ニシテ其數モ大軍ノ通過スルニ際シテハ不足ヲ免レス即チ其主要ナルモノヲ舉クレハ <sup>ブルート</sup>Prut 河ヨリ <sup>ブカレスト</sup>Bucarest, <sup>ガラツ</sup>Galatz ノ線ニ通スルモノ四條アリ <sup>スキラン</sup>Skulany-Jassi-Bacau-Focsani 人工道 <sup>ウゲン</sup>Ungeni-Jassi-Birlat-Iecuciu-Galatz 人工道 <sup>レオ</sup>Leovo-

Galatz 道 Prut 河右岸 Bolgrad-Reni-Galatz 道是レナリ其以西中部羅馬尼ニ通スルモノハ僅カニ Focsani-Ploesci-Bukarest 人工道 Galatz-Braila-Bukarest 道ノ二條ニシテ之ヨリ西方ニ通スルモノハ Ploesci-Targovistea-Slatina-Calafatu 道 Bukarest-Alexandria 道ノ二條トシ尙 Bukarest-Pitesci 道アリ前記諸道路ヨリ Donau 河岸ニ通スル Craiova-Rahovo 人工道 Alexandria-Turnu-Magurele (若クハ Zimnicea 道) Bukarest-st-Giurgevo 人工道 Bukarest-Ottenia 道 Braila-Calarasi 道等數多ノ支路アリ鐵道ハ Jassi-Pascani-Marnasesci-Iecuciu-Barbosi-Braila-Bukarest-Pitesci-Eisernes Thor (鐵門)ノ一條ニシテ尙一條ノ支線即チ Bukarest-Frutesci 線及 Iecuciu-Birlat 線ヲ有ス 露軍ハ戰役中線ヲ敷設シ軍用ニ供セリ 元來此地ノ鐵道ハ露國ノ鐵道ト軌幅ヲ異ニシ 露國ニ在リテハ一米突五三、羅馬尼亞ニ於テ乗換又ハ積換ヲ要シ又軌盤平低ニシテ雨水ノ爲ニ容易ニ洗滌セラレ橋梁モ脆弱ニシテ河水汎濫期ニ際シテハ屢破壊シ加フルニ停車場ノ待避線工場等ノ設備完全ヲ缺キ輪轉材料モ少數ニシテ日々四乃至五列車ノ軍用列車ヲ運轉シ得ルニ過キス而モ其所有權ハ諸

會社ニ屬セルヲ以テ之カ使用ハ甚タ困難ナルヲ免レス 事情此ノ如シ故ニ露軍豫備重燒麵包ヲ輸送スルニ當リ奧匈國鐵道ニ由リ Kovvoo (露國西南境鐵道分歧點) Lemberg-Pascani-Jassi ヲ經テ實施セリ

二 Donau 河

Donau 河ハ全長七百二十五本邦里 Eisernes Thor (鐵門)ニ至リ始メテ羅馬尼亞ノ西境ニ出テ之ヨリ東南方 Vidin ニ至リ次テ大環形ヲ畫シツツ東方ニ流レ Silistria 附近ヨリ急ニ方向ヲ北方ニ轉シ Galatz ニ至リ更ニ東方ニ向ヒ後三條ニ分歧シ黑海ニ注ク Eisernes Thor (鐵門)ヨリ河口ニ至ル迄約二百本邦里アリ此間平水ニ於テハ河幅七百五十乃至千五百米突流速一秒時ニ約一米突二〇、水深三米突ヲ下ラス河上到ル處橋梁無シト雖モ舟楫ノ便多大ニシテ汽船及帆船等航行スルヲ得ヘシ 土國下ナウ艦隊ハ鐵門迄溯航シ黑海艦隊モ Silistria 附近迄水量大ナルトキハ Oltenia 迄溯航スルコトヲ得 一年中最小水量ノ時期ハ九月初旬ヨリ十月中旬ニ至ル間ニシテ十二月ヨリ二月ニ互リ流水多ク 千八百七十七年ヨリ七十八年ニ至ル冬季ニ於テハ流水ハ十二月中日ヨリ氷塊再ヒ動搖ヲ始メタリ三月下旬ヨリ八月初旬迄並ニ秋季十月下旬ヨリ十一月ニ互リ

河川ノ性質

渡河點

屢洪水アリ 春季三月下旬ヨリ六月初旬ニ至ルモノハ羅馬尼西北境諸山及巴爾幹山七月末又ハ  
 ルコトアリ 秋明ノ洪 渡河及軍橋ノ維持共ニ困難ナリ 河岸ハ概シテ右岸高ク往  
 々急峻ナル斜面若シクハ斷崖ヲ形成スルモ左岸ハ平低濕潤ノ沼澤地ニシ  
 テ濕草繁茂シ 跋涉困難ナリ 増水ニ際シテハ附近一面河水ノ溢ルル所ト爲  
 リ 下流ニ至ルニ隨ヒ益甚タシ 今全線ニ於テ比較的良好ノ渡河點ヲ舉クレ  
 ン Vidin, Rahovo, Turnu-Măgurele, Zimnicea, Slobodsea (Slobozia) Giurgevo, Oitenija,  
 Silistria, Hirsova, Braila, Galatz 及 Reni 等アリト雖モ多クハ土國要塞ノ制扼スル  
 所ト爲レリ 即チ Donau 河岸土國ノ要塞ヲ列舉スレハ Vidin, Rahovo, Nikopoli,  
 Ruskuk, Turtukai, Silistria, Hirsova, Măcin, Tulca 等ニシテ概シテ舊式ノ要塞ニ過  
 キサルモ Vidin, Ruscuk, Silistria ハ相當ノ防禦設備ヲ有セリ

三 Donau Balkan

Donau 河巴爾幹山及黑海ヲ以テ圍メル地方ヲ Donau Balkan トス 面積五萬五  
 千八百方吉米 人口約百五十萬 其約十分ノ四ハ回々教ノ信者ト爲ス 同地方

河岸要塞

ノ大部分ハ巴爾幹山ノ北方斜面ニシテ巴爾幹山ニ近キ處ニ於テハ山地ヲ  
 成スモ北方ニ至ルニ隨ヒ漸次ニ低下シ Donau 河畔ニ至リテハ處々平地ナ  
 リ 巴爾幹山脈ヨリ發スル Donau 河ノ諸潮流相並行シテ南ヨリ北ニ貫通シ  
 處々深谷ヲ成スモノアリ 氣候ハ低地暑ク山地寒シ 冬季十一月中旬ヨリ三月迄屢  
 ニ達ス

Babadag

Donau 河黑海及 Cernavoda, Kustendje 間ノ土壘「トロヤン」ヲ以テ包メル Donau Bal-  
 kan ノ東北部ノ地方ヲ Babadag ト云ヒ Galatz 附近ニ於テ著シク羅馬尼國內  
 ニ突出シ露國ト羅馬尼中部トノ連絡線ヲ脅威セリ而シテ其東北部ハ卑濕  
 ナルモ他ハ平夷ナル郊原ニシテ河川森林ニ乏シク住民稀少飲料水ヲ得ル  
 ニ困難ナリ

Dobrudsza

Babadag ノ南方 Silistria, Varna ノ線ニ至ル地方ヲ Dobrudsza トス 概ネ平地ニシ  
 テ全地河川無ク森林無ク道路モ亦概ネ不良ナリ之ヲ要スルニ Babadag 及  
 Dobrudsza 地方ハ大軍ノ作戰ニ適當ナラス

東部布爾牙利

Silistria-Varna ノ線以西 Ruscuk-Osmanbazar ノ線以東ノ地ヲ東部布爾牙利トス  
 Ruscuk, Gumla, Varna 及 Silistria 四要塞ノ存スル處ナリ Ruscuk 要塞ハ守兵約二  
 萬人ヲ容ル可キ設備ヲ有シ其周圍約十一吉米、Gumla 要塞ハ守兵六萬人ヲ  
 容ル可キ設備ヲ有シ其周圍約三十三吉米、Varna 要塞ハ海岸要塞ニシテ十  
 萬人ヲ容ル可キ設備ヲ有シ其周圍約三十六吉米、Silistria 要塞ハ二萬人ヲ容  
 ル可キ設備ヲ有シ其周圍約十三吉米アリ世ニ此四要塞ヲ四角要塞ト稱シ  
 中部羅馬尼地方ヨリ Donau 河ヲ渡リ前進スルモノニ對シ戰略的側面陣地  
 ヲ形成セリ而シテ其西正面ハ戰役前新ニ設置セル Razgrad 要塞ニ因リテ一  
 層堅固ニ爲セリ全地概シテ森林ニ富ミタル丘陵地ニシテ處々深谷ノ爲分  
 斷ス住民ノ大部ハ殆ト回々教徒ニシテ露軍ノ爲ニ憂フ可キモノナリキ然  
 ニ開戦スルヤ土耳古人ノ大部分ハ此地方ヲ去リ殘留セル回々教徒モ露軍ノ宿營スル地點ニ於テ  
 ハ土耳古人ニ内應セス又武器ヲ執リテ露軍ノ連絡ヲ斷タントスル等ノ行動ニ出テサリキ其原因  
 ハ武器ヲ奪ハレシニ因ルト雖モ時勢ノ變遷ニ基ツクモノニシテ想フニ平和ナル布爾牙利人ト相  
 提携シテ幾百ノ星霜ヲ閱シ物質上ノ恩義ヲ受ケシコトモ屢ニシテ漸次爭鬪ノ傾向ヲ離レ且其宗  
 教上ノ感情ヲ忘レ 道路ハ多ク林間ノ隘路ニシテ其良好ナルモノハ Ruscuk-Raz-

四角要塞

中部及西部布爾牙利

grad-Eski-Dzuma(Eski Dzumnaja)-Osmanbazar (Osmanpazar) 人工道 Razgrad-Gumla-Varna  
 道及 Silistria-Varna 道トス  
 Ruscuk-Osmanbazar ノ線以西 Timok 河以東ニ在ル Donau 河ト巴爾幹山脈間ノ  
 地ヲ中部及西部布爾牙利トス土地概ネ肥沃ニシテ農産物ニ富ミ人口モ亦  
 比較的稠密ナレハ大軍ヲ給養スルニ足レリ Donau 河ニ注ク數多ノ潮流ハ  
 多クハ水淺クシテ大ナル障碍ヲ呈セサルモ其東岸ハ西岸ニ比スレハ概ネ  
 高ク西方ニ面シテ防禦線ヲ成シ Jantza 河畔ノ Bjela(Bela) 附近ハ特ニ良好ナ  
 ル陣地ヲ形成ス道路網ハ東部布爾牙利ニ比スレハ概シテ良好ナルモ雨期  
 ハ泥濘ニシテ軍隊ノ運動ヲ妨害ス其主ナルモノヲ舉クレハ南北ニ通スル  
 ハ Ruscuk ヨリ Bjela 同地ヨリ Sistovニ 經テ Inova(Inovo)ヲ經テ Sipka 若シクハ Elena ニ通  
 スル人工道 Nikopoli ヨリ Plevna ヲ經テ Orhanje 若シクハ Trojan ニ通スルモノ  
 人工道ヨリ Lompalanka-Berkovica 人工道ニシテ其東西ニ通スルハ Donau 河右岸ニ  
 沿フ Ruscuk-Sistov-Nikopoli-Lompalanka-Vidin 道 Bjela-Plevna 道及 Inova-Lovca-

ヤンボリヤ Jablonica 道等 ニシテ Plevna, Bjela, Lovca 及 Trnova 等ハ重要ナル道路ノ集合  
點タリ

當時鐵道ハ Cernavoda-Kistendje 線及 Ruscuk-Varna 線ノ二條アリシノミ

#### 四 巴爾幹山脈

### 山脈ノ高幅

巴爾幹山脈ハ布爾牙利 Trans Balkan 兩地ノ連絡路ヲ遮斷ス同山脈中最高ノ  
部分ハ Trojan 南方ノ一帯ニシテ最高標高二千三百餘米突之ニ次クモノハ  
Berkovica 南方ノ一帯(最高標高千九百餘米突)及 Sofia 北方ノ一帯、Trnovo 南方  
ノ一帯(最高標高千乃至千四百米突)等ニシテ Zivno 附近ヨリ以東黑海沿岸  
ニ至ル間ハ漸次東方ニ低下シ標高平均七百五十米突ト爲ル山脈ノ幅ハ五  
六十吉米ニ跨リ村落物資ニ乏シク軍隊ノ給養ニ不便ナリ其北斜面ハ緩徐  
ニ Donau 河ニ向ヒテ降下シ概ネ森林ニ富ムト雖モ南斜面ハ概シテ急峻ニ  
シテ處々斷崖ヲ成シ又樹木無クシテ秃山ヲ成ス處アリ巴爾幹山脈ヲ南北  
ニ貫通スル主要ナル諸道路ハ中部布爾牙利ヨリ Marica 河ノ平地ニ至ルモ

### 通過路

ノト西部布爾牙利ヨリ Sofia 高野ニ互ルモノトニ大別シ得ヘキモ後者ハ君  
士坦丁堡ニ到ルニ大ナル迂路タリ今其重要ナル山路ヲ擧クレハ Eski-Dzuma-  
Jamboli(Jambo) 道上ノ Kazan 峠 Trjevna-Magliz 道上ノ Trjevna 峠(標高約千二百  
米突) Rusnik ヨリ Adrianopol ニ通スル大街道上ノ Sipka 峠(標高約千三百米突)  
開戰當時峠附近尙數吉米 Plevna-Sofia 人工道上ノ Orhanje 峠(又 Araba Konac 峠ト稱ス  
米峠ノ改築ヲ終了セス) 巴爾幹山路中最良ノモノトス Lompalanka-Sofia 人工道上ノ Ginci 峠(標高約千  
標高約九百米突)等ニシテ其他 Kazan 峠附近及其以東ニ若干條ノ騎小徑 Trjevna 峠  
四百米突等ニシテ其他 Kazan 峠附近及其以東ニ若干條ノ騎小徑 Trjevna 峠  
ト Kazan 峠ノ中間ニ約三條 Sivo 峠、Blena 峠、Trojan ノ南方及東南方ニ約三條 Orhanje  
峠ノ東西ニ約五條 Ginci 峠ノ東方 Isker 河右岸ニ約二條尙山脈ノ各處ニ數多  
ノ徒歩道アリ以上巴爾幹山脈ヲ貫通スル諸山路ハ其南麓ニ竝進セル良路  
Burgas-Sivno-Kazanlik-Karlovo-Sofia 道ニ由リテ連絡シ以テ北方ニ對スル巴爾  
幹山脈防禦ヲ容易ナラシム之ヲ要スルニ巴爾幹山脈ハ Donau 河ト共ニ北  
方ニ對シ良好ノ防禦線ヲ形成シ土都ニ近迫セントスル露軍ノ爲ニ障碍タ

ルヲ免レサレトモ世人ノ呼稱スルカ如キ大障碍ニ非ス只山系ノ大部ハ降雪期永ク通常九月ノ終リヨリ降雪アリ翌年六月ニ至リ融解ス殊ニ冬期積雪ノ際ハ軍隊ノ通過頗ル困難ナリトス

五 Trans Balkan

巴爾幹山脈ノ南方黒海 Agis 海(多島海)地方ヲ Trans Balkan ト稱ス即チ黒海沿岸ノ地君士坦丁堡市附近 Marica 平地 Sofia 高野多島海沿岸地方ヨリ成ル Istrandza 山脈ノ東方黒海沿岸ノ地ハ貧弱ナル地方ニシテ Burgas 港ハ地中海沿岸中良港ノ一タリ

土都君士坦丁堡ハ波狀形ノ荒蕪不毛ノ平原圍繞シ其陸地正面ノ防禦トシテハ往昔ノ圍壁二三ノ防禦兵舎及木舎ヲ有スルノミ戰役ノ末ニ至リ防禦工事ニ著手セリ Marica 平地ハ人口稠密ニシテ住民ハ Adrianopol 以北ハ布爾牙利人ニシテ其以南ハ土耳古人トス土地肥沃ニシテ灌漑ノ便アリ到ル處農耕ヲ作シ穀類野菜家畜牧草ノ産額ニ富ミ大軍ヲ給養スルニ足ル此平地ヲ貫通スル Madi-

ria 河ハ平水ニ於テハ Philippopol ヨリ上流ハ數多ノ徒涉點アルモ其下流ハ徒涉ス可ラス而シテ Adrianopol ヨリ下流ハ舟楫ノ便アリ河幅ハ Philippopol ヨリ Adrianopol 間約二百餘米突其下流河口ニ至ル間平均三百二十米突橋梁ハ Semenli 附近ニ二個内一個ハ鐵道橋 Mustafapasha, Adrianopol 附近ニ各一個 Dimotika 附近ニ鐵道橋一個アリ Adrianopol 及 Philippopol ハ共ニ Marica 平地ノ主要ナル市ニシテ Sofia 及中部布爾牙利地方ヨリ君士坦丁堡ニ至ル鐵道及大街道上ニ在リ特ニ Adrianopol ハ土國第二ノ首府タリ戰役中土國ハ此地ニ約六萬人ヲ容ル可キ半永久築城ヲ施セリ Sofia 高野ハ Donau 河諸朝流及多島海諸朝流ノ水源地ニシテ地味豊饒四周皆山加フルニ人口稠密ナリ住民ノ大部ハ布爾牙利人トス Sofia 市ハ各方面ヨリ通スル道路ノ集合點ニシテ中部巴爾幹半島ノ主要ナル都市タリ多島海沿岸ノ地ハ Rhodope 山脈ノ支脈近ク迫リ樹木翁鬱トシテ繁茂セルモ人烟寂寞ノ僻地ニシテ住民ハ希臘人及土耳古人ヨリ成リ概ネ海岸ノ谷地ニ棲息ス Enos, Dedeagac 兩港ハ此地方ニ於ケル要點タリ

Trans Balkan ニ於テハ東西ニ延長セル二條ノ良路アリテ道路網ノ幹線ヲ成セリ即チ其一ハ巴爾幹山脈ノ南麓ニ竝行スル Burgas-Sivno-Kazanlik-Karlovo-Sofia 道ニシテ他ハ塞爾維國 Belgrad ヨリ Nis, Sofia, Philippopol, Adrianopol ヲ經テ君士坦丁堡ニ通スル人工道トス此二條ノ幹線間ヲ連絡スルニ數多ノ竝行路アリ Tatar Bazardzik-Vladica 道 Philippopol-Karlovo 道 Paphos-Eskizagra(Starozora) 道 Adrianopol-Sivno 道 Lüle Burgas-Kirkilis-e-Sizopol Burgas 東南方 道 Akkalka-Sivno 道 Tatar Bazardzik ノ西方 Bjelowo ヨリ Adrianopol ヲ經テ君士坦丁堡ニ至ル幹線及二個ノ支線アリ即チ Semeli-Jamboli 及 Adrianopol ノ南方 Dimotika ヨリ起リ海岸ニ至ルノ線是レナリ

六 黒海

黒海ノ南部及西部沿岸ハ土領ニシテ其東部及北部沿岸ハ露領ニ、西北部沿岸ノ一部ハ羅馬尼領ニ屬ス  
露領沿岸ハ概シテ屈曲多ク良好ナル港灣ニ富シ Sewastopol, Nikolajew 軍港 Oukow, Kerç 要塞 Odessa ノ商港等アリ

Sewastopol ハ世界ニ於ケル良港ノ一ニシテ戰略上最モ重要ナル位置ヲ占メシモ Krim 戦役ノ爲ニ受ケタル創痍未タ癒ヘス軍事上ノ價值漸次 Nikolajew ニ移リシカ開戦前急ニ防禦設備ヲ増加シ差堅固ナル根據地ト爲レリ Nikolajew ハ港灣トシテハ Sewastopol ニ劣ルモ Krim 戦役以來軍港ノ設備ヲ加ヘシニ因リ露國黒海艦隊ノ爲最良ノ根據地ト爲リ Oukow 要塞其灣口ヲ閉塞ス Kerç 要塞ハ黒海沿岸中最モ堅固ナルモノニシテ Asov 海ノ咽喉ヲ扼シ Odessa 商港ハ外海ニ暴露セルモ戦役前必要ナル防禦設備ヲ有スルニ至レリ  
土領沿岸ハ地勢屈曲ニ乏シク Varna, Burgas(以上歐羅巴)土耳其(Sinope, Trebizont, Batum) 以上亞細亞)土耳其等ノ海岸諸要塞アリ就中 Varna 要塞ハ最モ堅固ナルモノナリ  
君士坦丁堡ハ土國軍港中最モ重要ナルモノニシテ土國海軍ノ中央根據地トシテ充分ナル設備ヲ有セリ



附記 露國ハ千八百十二年 Bukarest<sup>ブカレスト</sup> 平和條約以來將來ノ戰地トシテ土國ノ調査ヲ始メ爾來數十年間大ナル困難ヲ冒シツツ其歩ヲ進メ千八百六十八年ニ至リ軍事統計表ヲ發刊シ且大佐アルタマノフ巴爾幹半島十<sup>ウエルスト</sup>分<sup>四十二萬</sup>兵要地圖ヲ訂正刊行セリ然レトモ尙不完全ナリシヲ以テ陸軍省ハ動員下令後カニツ著巴爾幹半島七<sup>ウエルスト</sup>圖ヲ露語ニ翻譯刊行シ尋テ開戰後奧國陸地測量部編纂七<sup>ウエルスト</sup>圖<sup>舊式三</sup>圖<sup>トス</sup>得歐羅巴土耳其古ニ於ケル道路誌<sup>布爾牙利及巴爾幹山ノ道路</sup>ヲ詳細ニ説明セルモノトス七百五十部ヲ作戰軍ニ交附セリ然レトモ尙未タ完全ナラスシテ多クノ誤謬ヲ免レサリキ其著シキモノヲ例セハ巴爾幹山脈ノ價值ヲ認ムルコト過大ニシテ千八百七十七年ノ冬季殆ト休戰セントセシカ如キ又布爾牙利ヲ荒蕪不毛ノ地トシ不必要ナル多大ノ糧秣及車輛ヲ輸送シ無用ノ失費ト多クノ時間ヲ要セシカ如キ是レナリ

## 第五章 兩軍ノ作戰計畫

### 一 露國ノ作戰計畫

露國參謀本部ハ千八百七十六年夏土國ニ對スル作戰計畫ヲ立案セリ其計畫ニ依レハ戰爭ノ主目的ヲ達成スルニ巴爾幹半島ニ於テ土軍ト交戦スルヲ要スルモ若シ露軍ニシテ小亞細亞ノ大ナル地域ヲ占領センカ土國政府ヲ動かシテ速ニ戰爭ノ目的ヲ達成ス可ク而モ此方面ニ於ケル彼我ノ交戦ハ歐洲列國ノ干涉ヲ受クルノ虞少ナキノ利アルヲ以テ主作戰ヲ巴爾幹半島ニ獨立セル支作戰ヲ小亞細亞ニ實施セサル可カラストセリ又當時露國參謀本部ハ土軍ノ兵力訓練統帥及戰術等遙ニ我軍ニ劣ルモノトシ尙ボスニア、ヘルツェゴビナノ叛徒及モンテネグロ、塞爾維ニ對スル戰鬪ニ因リ著シク兵力ヲ殺キ且軍ノ建制ヲ破レルカ故ニ巴爾幹半島ニ於テ我軍ニ對抗シ得ヘキ兵力ハ十五六萬ニ過キサルモノトシ又一方ニ於テハ羅馬尼國ノ

露國參謀本部ノ作戰計畫

協力ヲ豫期セリ シ内心既ニ露國ニ左袒セリ然レトモ露羅兩國間外交上ノ形式ニ就テハ當時未タ確乎タル協定アラザリキ元來羅馬尼政府ハ其軍ヲ露軍司令官ニ隸屬セシムルカ或ハ該軍  
ント欲シ露國ハ羅馬尼軍ヲ速ニ露軍ニ聯合シテ開戦ノ初期ヨリ戰闘ニ協力セシムルカ或ハ該軍  
ヲDonau河左岸ニ於ケル戰闘ニノミ使川セント欲セシヲ以テ兩國ノ協議一決セス空シク時ヲ移シ  
七十七年四月十六日ニ至リ始メテ兩國ノ調印ニ依リ露軍ハ羅馬尼ノ領土ヲ自由ニ通過シ友軍ト  
シテ待遇セラレ尙同國內ノ鐵道ヲ使用スルノ特權及軍需品宿舎等ノ供  
給ニ特別ナル便利ヲ得後セルニ第二會戰後ニ至リテ兵力ノ協力ヲ得タリ  
 故ニ露軍ハ比較的微弱ナル兵力ヲ以テ開戦スルモ能ク目的ヲ達シ得ヘシト思惟スルニ至レリ又外交上ノ關係特ニ英國ノ土國ヲ助ケンコトヲ顧慮シ波羅的海及黑海沿岸ノ防備ヲ嚴ニシ殊ニ巴爾幹半島ニ作戦スル軍ノ背後ヲ掩護スル爲ニ塙國ニ對シテ國境ヲ監視スルヲ必要ナリト認メタリ因テ四軍團約十六萬人ヲ基幹トスル一軍ヲ歐羅巴土耳其古ニ四師團ヲ基幹トスル一軍ヲ小亞細亞ニ出シ兩軍共ニ攻勢ヲ取ラシメ別ニ二軍團ヲ以テ黑海沿岸ヲ守備シ數箇師團ヲ以テ塙國國境ヲ監視シ兼テ全軍ノ豫備ト爲サントセリ 露國ハ黑海艦隊ヲ援助スル爲ニ波羅的海艦隊ヲ回航セシメ之ヲシテBosphorus海峡ヲ突破シテ黑海ニ進入セシメントスルカ如キコトハ固ヨリ不可能ニシテ又地中海方面ヨリ土國沿岸及君士坦丁堡ヲ脅威シテ土國ノ海軍ヲ西方ニ牽制セントスルコトモ亦英國ト外交上ノ葛藤ヲ起ス可キ慮レアリシヲ以テ波羅的海艦隊ハ只英國ノ開戦ス可キ場合ヲ顧慮シ同海外外交上ノ葛藤ヲ起ス可キ慮レアリシヲ以テ沿岸ノ防禦及敵國ノ

作戦軍ノ區分

商船ヲ破壊スルニ任セシムルニ至レリ

露國皇帝ハ右ノ計畫ニ基ツキ既ニ外交ノ關係ニ於テ述ヘタル如ク七十六年十一月十三日第一次ノ動員 附錄第一參照ヲ令シ左ノ如ク軍ノ編組ヲ定メ動員完了ニ續キテ國境ニ集中セシメタリ

巴爾幹半島作戦軍 附錄第三參照以下單ニ作戦軍又ハ軍ト稱ス

軍司令官ニコラヴス、ニコラエヴィチ親王ノ率キル第八第九第十一及第十

二軍團竝ニ軍團所屬外ノ軍直屬諸部隊 狙撃步兵第四旅團高加士哥薩克騎兵師團下ン哥薩克獨立騎兵旅團以上ノ騎兵

團ハ集中地ニ於テ編成セラレ下ン哥薩克騎兵第二十三第二十九第三十一第三十四第三十五

第三十七及第四十聯隊第三十五聯隊ヲ除キ其他ノ聯隊ハ集中地ニ於テ各軍團ニ配屬セラレ

騎砲兵第八第十中隊兩中隊共第十一軍團ニ配屬セラレ但シ第八中隊ハ五月初旬ニ至リ騎兵

第十一師團所屬下ン哥薩克騎兵第四中隊ト交代シ騎兵第十一師團ノ團結内ニ入レリ工兵第

二旅團ノ架橋兵第三第四大隊、工兵 合計步兵百大隊半、騎兵百四十九中隊、砲四百

七十二門、工兵三大隊、架橋四大隊、鐵道一大隊、攻城砲兵二大隊、海兵若干

小亞細亞作戦軍 同軍ニハ皇帝ノ代理者トシテミハエル、ニコラエヴィチ親王差遣セラレタリ

騎兵將官ロイスメリコフノ率キル高加士選拔步兵師團、步兵第十九第

三十九第四十一師團、高加士狙擊步兵旅團、狙擊步兵第五旅團、高加士騎兵師團、高加士工兵旅團<sup>三大隊</sup>、高加士哥薩克騎兵百三十五中隊、高加士哥薩克步兵三十二中隊、高加士哥薩克砲兵八中隊<sup>六十</sup>、合計步兵七十二大隊<sup>小亞細亞</sup>、細亞作戰軍<sup>ニ</sup>屬スル步兵<sup>聯隊</sup>八四大隊編成ヲ有ス、哥薩克步兵三十二中隊、騎兵百五十一中隊、砲二百五十六門、工兵三大隊

海岸軍<sup>附錄第四參照</sup>

「オデッサ」軍管區司令官セメカ<sup>ニコラヴス、ニコラエ</sup>ノ率キル第七第十軍團

竝ニ地方諸大隊、要塞部隊及黑海艦隊ノ船員

（奧國國境監視軍兼總豫備軍）

步兵第一第十七第十八第三十五師團、狙擊步兵第三旅團及<sup>ドン</sup>哥薩克

騎兵第一師團<sup>後ニ至リ步兵第一第三十五師團ハ騎兵第十三師團ヲ合シ第十三軍團ト爲</sup>

七十七年三月頃作戰軍司令官<sup>當時ノ規定ニ依レハ作戰軍司令官ハ作戰計畫ヲ立案シ</sup>

休戰ヲ締結シ一時軍司令部ノ各部長及其補助官竝ニ軍團長師團長ヲ任命シ一部ノ勳章ヲ授與ス

巴爾幹半島  
作戰軍司令  
官ノ作戰計  
畫

ルノ權ヲ及其隸下ニ在ル軍管區竝ニ作戰地域内ノ州縣ニ對シテ下ス所ノ命令ハ勅命ト同様ノ效

カヲ有セリノ立案シタル作戰計畫ノ概要左ノ如シ

土軍カ巴爾幹半島ニ於テ露軍ニ對シテ用キ得ヘキ兵力ハ約十五萬八千人ニシテ第一線トシテ<sup>ドナウ</sup>河畔ニ約九萬二千人、第二線トシテ<sup>ニツシユ</sup>ヨリ

<sup>ブルナ</sup>Varnaニ至ル間ニ約三萬二千人、第三線トシテ巴爾幹山ノ南方<sup>ソフィヤ</sup>ヨリ

<sup>アドリアノポリ</sup>Adrianopol間ニ約二萬人及君士坦丁堡ニ約一萬三千人ニシテ全般ノ形勢

上<sup>ドナウ</sup>Donau河上ノ強大ナル艦隊及<sup>ウイヂン、ニコポリ</sup>Vidin, Nikopoli, Ruseuk, Silistria竝ニ<sup>ツルツカイ</sup>Turtukai

等ノ河岸要塞ヲ利用シ<sup>ドナウ</sup>Donau河右岸ニ於テ防勢ヲ取ルナラン然レトモ

土軍萬一羅馬尼ニ進入シ來ルモ是レ自ラ死地ニ陥ルモノナルヲ以テ反

テ我軍ノ利トスル所ナリ

作戰目標ヲ君士坦丁堡トシ要塞ノ攻守等ニ時日及兵力ヲ費スコト無ク

一氣呵成ニ猛烈ナル攻勢ヲ取り敵ヲ壓倒セントス之カ爲ニ七十七年四

月中旬以前ニ國境ヲ越エ先軍ノ主力ヲ中部羅馬尼ニ開進セシメ汎濫期

ニ先タチ<sup>ルスタツク</sup>Ruseuk以西ニ於テ<sup>ドナウ</sup>河ヲ渡リ要スレハ要塞ノ攻圍ニ増加

部隊ヲ充用シ主力ハ之ニ顧慮スルコト無ク捷路ヲ取り巴爾幹山徑ヲ越  
 エ *Marica* 河谷ヨリ君士坦丁堡ニ直進シ 露國政府ハ露軍カ巴爾幹山ヲ越エテ遠ク南方ニ進ムトキハ歐洲列國特ニ英國ノ反感ヲ買ハンコトヲ虞レ戰爭ノ範圍ヲ制限スルノ意アリシヲ以テ宣戰布告後 別ニ一兵團ヲ  
 ニ於テモ巴爾幹山ニ至ルマテノ布爾牙利ノ地ヲ占領スルニ止メントセリ  
 下流 *Donau* 河地區ニ出シテ軍主力ノ開進ヲ掩護シ尋テ主力ニ先ンシテ  
*Dobrudsza* ニ進入シ東北方ヨリ四角要塞ヲ脅威セシメ以テ間接ニ軍主力  
 ノ *Donau* 河渡過ヲ容易ニシ且軍ノ後方連絡線ヲ掩護セシメントス此間  
*Donau* 河上ニ在ル土國艦隊ヲ殲滅スルカ或ハ其運動ヲ拘束ス可キ方法  
 ヲ講スルヲ要ス

其後露國政府ハ土軍ノ輕視ス可カラサルヲ覺リ七十七年四月十五日第二  
 次ノ動員附錄第ヲ令シ尋テ五月九日第一次動員部隊ノ國境ヲ發シテヨリ約二週間ノ後 諸軍ノ編組ヲ改メ  
 作戰軍ニ第四軍團及奧國ノ監視ニ任セシ第十三第十四軍團豫備步兵十大  
 隊工兵第二旅團架橋兵第三第四大隊ヲ缺ク此兩大隊ハ七十六豫備工兵一中隊要塞砲  
 兵一大隊ト一中隊海兵若干ヲ増加シ是ヨリ先海岸軍ヨリ混成約一旅團ノ兵力ヲ割キ一時作戰軍ニ増加セリ 奧國國境

監視軍トシテ步兵第二第三師團及ドン哥薩克騎兵第二師團第二次動員ノ哥薩克騎兵六十中隊ノ内ヨリ編成ヲ充テ又小亞細亞作戰軍ニ步兵第二十第二十一第三十八師團ヲ増加  
 セリ是ニ於テ巴爾幹半島作戰軍ハ六月上旬ニ於テ步兵百八十二大隊半騎  
 兵二百十三中隊半砲八百二門工兵五大隊ト一中隊外ニ二中隊鐵道兵二大隊架橋  
 兵四大隊攻城砲兵三大隊ト一中隊海兵八中隊ト爲リ之ニ海岸軍ノ二軍團  
 ヲ合算スレハ步兵二百三十大隊半騎兵二百四十九中隊半砲一千十八門ヲ  
 算スルニ至レリ當時露國參謀本部ハ以爲ヘラク目下塞爾維ハ土國ト講和  
 セシヲ以テ其協力ヲ望ム能ハサルモ羅馬尼兵及布爾牙利兵若干ハ露軍ニ  
 協力ス可ク又モンテネグロハ今ヤ土國ト交戰中ニ在リ而シテ土軍ハ其一  
 部ヲ之ニ分割ス可キカ故ニ前記ノ兵力ヲ以テセハ目的ヲ達成スルニ餘リ  
 有リト

二 土軍ノ作戰計畫

土軍ハボスニア、ヘルツェゴビナ、塞爾維、アルバニア地方ノ叛徒鎮壓若クハ守

備、モンテネグロニ對スル戰鬪竝ニ小亞細亞、亞刺比亞及亞弗利加沿岸ノ守備ノ爲ニ多數ノ兵力ヲ要セシニ因リ露軍ニ對抗シ得ヘキ兵力ハ計畫上巴爾幹半島ニ於テ約十九萬内外、小亞細亞ニ於テ約七萬内外ニ過キスト爲セシカ如シ

土國ノ作戰計畫ハ高等諮詢府タル軍事會議ノ司ル所ニシテ開戰前未タ確定セサリシカ如シ然レトモ何レノ方面ヨリ見ルモ守勢作戰ヲ取ラントシタルハ疑ヒ無キ事實ナリ即チ布爾牙利内及塞爾維ノ東境附近ニ在ル諸隊(軍ノ主力)ヲDonau河畔ニ集中シ羅馬尼ヲ經テ前進スル露軍ニ衝リ別ニ在小亞細亞ノ主力ヲKizernin<sup>エルセルム</sup>及其附近諸要塞ニ集中シ高加士地方ヨリスル露軍ノ進入ヲ防支セントセリ而シテDonau河畔ニ集中セシ軍カ同河左岸ニ進出シテ羅馬尼ヲ以テ戰地ト爲ス可キカ或ハ同河右岸ニ於テ敵ヲ待ツ可キカニ就テハ將ニ開戰セントスル秋ニ臨ミテモ軍議尙一決セス初メ土帝ハ露軍ノ未タ羅馬ニ進入セサルニ先タチ同國ニ進入シ露軍ヲ迎ヘントス

ルノ意アリ之カ爲既ニVidin<sup>ウイヂン</sup>及Dilisoria<sup>ジリストリア</sup>ニ莫大ナル渡河材料ヲ準備セシモ當時土軍ノ出師準備之ニ伴ハサルノミナラス羅馬尼國ニ進入スルニ就テハ巴里條約ノ規定ニ依リ列國ノ意向ヲ質スノ必要アリ時ノ推移ト共ニ此案ヲ廢棄セサル可カラサルニ至リ遂ニ開戰當初Donau河右岸ニ於テ敵ヲ待ツニ決セリ然レトモ攻勢移轉ノ方式ニ就テハ俄ニ決定セス元帥アブヅルケリムパシアル<sup>布爾牙利ニ集中セ</sup>ル軍ノ總司令官<sup>ヲ加ヘテ</sup>土都ニ開カレタル軍事會議ノ席上ニ於テ露軍ハ四角要塞ノ西方地區ニ於テDonau河ヲ渡ル可キヲ以テ之ヲ側面ヨリ攻撃スルヲ可トセリ之カ爲ニVidinニ在ルオスマンパシアノ率キル軍隊ノ内西部布爾牙利ニ使用シ得ヘキ兵力ヲ中樞トシ之ヲPlevna<sup>プレヴナ</sup>、Lovca<sup>ロヴカ</sup>ノ線ニ集合セント欲セシモ其後ニ至リ土帝ハ敵ヲ内地ニ誘致シ之ト對戦スルヲ可トシ主力ヲ四角要塞ニ集合スルニ決セリ四月二十日土帝ヨリ陸軍大臣ニ與ヘタル文書局ノ覺書ニ依レハ其決心ノ理由ヲ了解スルニ足ルモノアリ曰クMacin<sup>マチン</sup>、Horri<sup>ホリ</sup>、Vidin<sup>ウイヂン</sup>ニ至ルDonau河ノ全防禦線ヲ扼守スルハ實

行シ難キヲ以テ開戦スルヤ敵ヲ内地ニ誘致シテ戦フ可シ斯クテ敵敗北セ  
 ハ我軍ハ彼等ヲシテ Donau 河ヲ越エテ退却スルノ已ムヲ得サルニ至ラシ  
 メ續テ Prut 河迄之ヲ追撃ス可シ若シ反對ノ結果ヲ生シタル場合ハ我軍ハ  
 巴爾幹山ニ向ヒ退却シ Varna, Burgas 及巴爾幹山ニ於ケル重要ナル諸地點ヲ  
 固守シテ敵ノ前進ヲ拒止ス可シ之カ爲ニ強大ナル兵力ヲ Ruseuk, Silistria,  
 Sumla, Varna ノ要塞地區ニ置キ一部ヲ以テ右翼 Kistendze (Kistendje), Cernavo-  
 va ノ線ヲ又一部ヲ以テ左翼 Sistor, Rahovo ノ線ヲ守備シ別ニ一部隊ヲ Vidin  
 附近ニ置キ以テ羅馬尼軍ヲ監視シ且露軍ト塞爾維軍トノ連合ヲ妨ケシム  
 ルヲ要スト蓋シ土軍ノ作戦ハ此最後ノ案ニ依リテ指導セラレタルモノノ  
 如シ

### 第六章 露軍ノ開戦前ニ於ケル情況

一 ベサラビアニ於ケル集中附圖第一  
參照

集中計畫及  
其實施ノ概

露國參謀本部ノ計畫ニ依レハ作戦軍ノ集中ハ動員輸送終了七十六年十一月後  
二十日ト豫定ス後  
 直ニ輸送ヲ開始シ Zmerinka, Buzula, Bala, Razdielnaja, Bender, Kisziniew ノ諸停車  
 場ニ下車シ第八軍團ノ内歩兵第十四師團及騎兵第八第十一第十二軍團並ニ「ドン」哥  
 薩克騎兵四聯隊ヲ第一線ト爲シベサラビアノ中部 Kisziniew 附近ヲ中心ト  
 シテ西南ニ面シ正面約二百吉米縱深約百吉米間ニ、又第九軍團及「ドン」哥薩  
 克騎兵六聯隊、高加士哥薩克騎兵三聯隊ヲ第二線トシ鐵道線ニ沿ヒ Winnica,  
 Zmerinka, Buzula, Olwioopol Buzula ノ東 間ニ七十七年一月二日迄ニ集中ヲ完了ス  
 可カリキ露國內地ヨリベサラビアニ通スル鐵道ハ Buzula ヨリ一線ト爲レリ又輪轉材料  
 豐ナラス殆ト凡テノ線路單線ナルヲ以テ充分ナル輸送力ヲ望ミ得サリシナリ然ル  
 ニ動員輸送ノ終了ハ豫定ヨリモ遅延シ十二月二日ニ至リ始メテ集中輸送  
 ヲ開始シ七十七年一月上旬迄ニ其戰鬪部隊ノミ概ネ指定ノ地ニ到著スル  
 ヲ得タリ此集中輸送ハ計畫部及軍隊ノ未タ嘗テ經驗セサル大輸送ニシテ  
 計畫部ハ其計畫ニ周密ヲ缺キ軍隊ハ輸送ニ慣レス又規則ヲ確守セス加フ  
 ルニ時恰モ冬期ナリシヲ以テ屢意外ノ混雜ト溢滯トヲ來セリ

集中後ノ情

集中地ニ在ル諸隊ハ其後概ネ現在地ニ在リテ全冬期ヲ經過シ此間ヲ利用シテ諸種ノ演習ヲ施行セリ特ニ歩兵ハ重キヲ射擊術並ニ豫備兵ノ教育ニ置キ又騎兵ハ長途騎乘ニ砲兵ハ徵發馬匹ノ調教及射擊ニ架橋兵及海兵ハ架橋及水雷敷設ニ就テ各大ニ練習スル所アリ而シテ軍司令官ハ躬ラ各隊ヲ檢閲シ又幕僚ヲシテ之ヲ行ハシメ以テ軍隊ノ志氣ヲ振起シ且平時教育ノ不足ヲ填補スルニ勉メリ

宣戰布告及  
詔勅

露帝ハ四月二十日皇太子アレクサンドルアレクサンドルヴィチト共ニ露都ヲ發シテ集中地ニ到リ諸隊ヲ檢閲シ二十四日左ノ詔勅ヲ軍人ニ下シ同時ニ首相ゴルヂャコフヲシテ伯林維納巴里倫敦及羅馬ニ駐劄セル各全權公使ヘ宣戰ノ通牒ヲ發シ以テ當該駐劄國ノ政府ニ通告セシメ五月一日夜  
Kisimew<sup>キシメフ</sup>ヲ出發シ露都ニ歸レリ

朕ハ土耳其ニ於ケル基督教民カ暴戾ナル政府制裁ノ下ニ多年苦惱セルヲ見テ常ニ深ク同情ヲ表セリ是レ爾臣民ノ周ネク知悉セル所ナリ此等

教徒ノ境遇ヲ匡濟シ其地位ヲ安全ナラシメントスルハ蓋シ我國上下ノ希望ニシテ能ク朕ノ旨ニ副ヘリ今ヤ國民ハ巴爾幹半島ニ於ケル基督教徒保護ノ爲ニ身ヲ挺シテ其犠牲ニ供セントスルノ意氣自ラ炳々然タリ朕カ忠良ナル臣民ノ身體及幸福ハ朕カ社稷ノ爲ニ最モ貴重ナリ朕カ在位治國ノ間ハ朕カ疆土ノ爲ニ正ニ平和ノ利福ヲ保持センコトヲ努メテ休マサルナリ主トシテヘルツェゴビナボスニア及布爾牙利ニ於ケル慘事ニ對スル措置ニ就キ切ニ此意ヲ致セリ朕ハ實ニ此諸邦ノ爲ニ躬ラ意圖ヲ擴張シ與國及友邦タル歐洲列強ト協同シ以テ救濟ノ實ヲ舉ケントシ爰ニ二年間ノ久シキ土耳其政府ニ其改革ヲ促シヘルツェゴビナボスニア及布爾牙利ニ於ケル地方官憲ノ横暴ヲ禁遏センコトヲ以テセリ抑此改革ノ實行ニ關シテハ土耳其政府夙ニ全歐洲ニ對シ自ラ其責ニ任スヘキコトヲ誓言セリ然リ而シテ單ニ朕カ誠意ノミナラス尙他邦ヨリモ朕カ意ヲ諒シ屢忠言勸告セルニモ拘ラス今尙所期ノ目的ヲ達成シ得サルニ

非スヤ

朕カ意ハ固ヨリ可及的平和手段ヲ以テ土耳其政府ヲ説得セントスルニ在リ因テ友邦政府ニ此意ヲ致シテ特ニ議定書ノ調製ヲ謀リ之ニ君士坦丁堡會議ノ決議要項ヲ附載シ以テ土耳其政府ニ朕カ平和的意圖ノ極メテ切ナルヲ告ケ尙此國際上ノ懸案ニ對シ列國ト其步調ヲ一ニセンコトヲ要求セリ然ルニ此畫策モ亦空シク水泡ニ歸シ土耳其政府ハ歐洲基督教國ノ合議的希望ヲ容レスシテ議定書ノ示セル提案ニ對シ頑トシテ同意スルヲ拒メリ

朕惟フニ平和策ノ施ス可キモノ是ニ至リテ既ニ竭キタリ今ヤ方ニ土耳其政府ノ頑冥ニ對シ決然タル行動ニ出テサルヘカラス而シテ其行動タルヤ專ラ正義公道ヲ以テ我帝國ノ尊嚴ヲ毀損セサルヲ要ス畢竟土耳其政府ハ朕カ勸告ヲ拒絕シ我國ヲシテ干戈ヲ執ラシムルモノニシテ朕是ニ於テ天帝ノ至仁ナル佑助アルヲ信シ茲ニ朕カ臣民ニ告クルアラント

ス嘗テ全國舉テ朕ニ宣誓セシ所今應ニ之ヲ躬行實踐スヘキノ機ニ遭遇セリ朕ハ曩ニ言明セシ如ク我國名譽ノ爲ニ斷乎トシテ獨立ノ行動ヲ執ルニ躊躇セサルナリ

朕ハ朕カ信賴スル軍隊ノ爲ニ天祐ヲ祈ルト共ニ勇敢ナル將卒ノ奮然起チテ斯教ノ仇敵タル土耳其國ニ進發センコトヲ命ス

是ヨリ先軍團外ニ獨立セル哥薩克騎兵諸聯隊ヲ師團又ハ獨立旅團ニ編合シ或ハ軍團ニ配屬セリ又三月下旬ニ至リテハ日ナラスシテ開戦スヘキヲ豫期シ諸隊ヲ國境ニ近接セシメタリ即チ四月二十四日宣戦布告前夜ニ於ケル諸隊ノ位置左ノ如シ

第十二軍團ハ騎兵第十二師團ヲ以テ *Boroki* 附近ニ其他ヲ以テ *Bielej, Ungeni* 附近ノ地ヨリ *Orgeljew* 間ニ第八軍團ハ騎兵第八師團ヲ以テ *Ungeni, Bielej* 間ニ其他ヲ以テ *Kiszniw, Tiraspol* 間ノ地區ニ第十一軍團ハ騎兵第十一師團ヲ以テ *Kiszniw* 附近ニ步兵第十一師團ヲ以テ *Kebiei* 附近ニ步兵第十四一聯隊第二十

四月二十四日  
露軍ノ位置



大隊欠砲兵第十一旅團第二中隊ハ「ドン」哥薩克騎兵第二十九第三  
 十一第四十聯隊同騎砲兵第八第十中隊ト共ニ Nowatobolgaria ニ在リ  
 テ Dniester 河ノ兩岸 N. W. Kauszany 及 Iraspol 附近ニ、又四月十六日ヨリ第十  
 一軍團長ノ指揮ニ入りタル第七軍團海岸ノ内中將ウレウキンノ指揮セ  
 ル第三十六師團(步兵第一旅團及砲兵第三十六旅團第二第三第六中隊欠  
 「ドン」哥薩克騎兵第七聯隊ノ一中隊、槍騎兵第七聯隊及騎砲兵第十三中隊  
 チ以テ Tatar Bunar 附近ニ位置セリ第九軍團ハ第二線ト爲リ步兵第五師  
 團ヲ以テ Winnica 附近ニ其他ヲ以テ Baku, Ananiev 間ノ地區ニ在リ獨立「ド  
 ン」哥薩克騎兵旅團ハ Bielzy 、「狙撃步兵第四旅團ハ Guragalbina 、「作戰軍司  
 令部」竝ニ高加士騎兵師團及其他ノ軍直屬部隊 「ドン」哥薩克騎兵第三十五聯隊、工  
 兵第三旅團(工兵第七大隊及鐵道  
 第三大隊ハ Skafary 同第五大隊ハ Bieszkan 附近ニ位置シ、宣戰報告ト同時ニ「ド  
 ン」河橋梁ノ修築ニ任スヘキモノナリ)架橋兵第三第四大隊、衛兵、海兵、攻城砲兵等ハ Kizniw 及  
 其附近ニ在リ

二 塙國監視軍、海岸軍、羅馬尼亞軍竝ニ小亞細亞軍ノ概況露土兩軍作戰地總圖參照

塙國監視軍及海岸軍ハ千八百七十六年十二月作戰軍ノ集中開始ト前後シ  
 テ運動シ一月上旬塙國監視軍ハ Dniester 河ノ上流地域(匈牙利ノ東北境)ニ  
 到達シ海岸軍ハ一部ハ徒歩、主力ハ鐵道ニ由リテ Odessa 附近竝ニ Krim 半島  
 ニ到リ該地沿岸ノ守備ニ任セリ同軍ハ是ヨリ先既ニ黑海沿岸ニ於ケル主  
 要ナル地點 Odessa, Sewastopol, Keré 等ニ於ケル在來ノ城池ヲ補修シ多數ノ火  
 砲ヲ配置シ水雷ヲ以テ港口ヲ閉塞シ糧食用水ヲ準備シ七十七年春既ニ其  
 大半ヲ終リ尙營々トシテ工事ヲ繼續シ又御獵遊艇及快速力ヲ有スル汽船  
 ニ武装シ警戒竝ニ水雷艇、水雷母艦等ノ役務ニ使用セリ四月中旬ニ至リ第  
 七軍團ハ中將ウレウキンノ指揮スル一兵團ヲ分割シテ作戰軍ニ増加シ主  
 力ヲ以テ Alkerman, Odessa 附近ニ、第十軍團ハ Krim 半島ニ在リ  
 露國ト羅馬尼亞トノ關係ハ既ニ述ヘタル如ク未タ統一的ニ土國ニ對シテ敵  
 對行爲ニ出ツルニ至ラザリシモ羅馬尼亞ハ土國兵ノ進入ニ對シ自國ノ領土  
 ヲ保護セントセリ然ルニ同國ノ動員セル全兵力ハ八萬乃至十萬人、砲百八

十門ヲ算スルモ軍隊ノ徵募及編成ニ多大ノ時日ヲ要シ開戦ノ當初延長セ  
 ル Donau 河ノ守備ニ使用シ得ル兵力ハ其約三分一ニ達セス羅馬尼ハ此兵  
 力ヲ以テ Vidin ノ對岸 Calafatu ヨリ Galatz 附近ニ互ル Donau 河ノ線ヲ警戒  
 セリ即チ第一軍團ハ Calafatu 附近ニ位置シ Vidin ノ對岸ヨリ Iiu 河口ニ至ル  
 間ヲ守備シ第二軍團ハ一部ヲ以テ其下流 Oltu 河ニ至ル間ヲ監視シ主力ハ  
 Giurgevo, Oltenija 附近ニ位置シテ Bukarest ヲ掩護シ一部ヲ以テ其下流 Calarasi,  
 Braila 附近ヲ守備セリ斯ノ如キ状態ニ於テ四月下旬土軍ト射撃ヲ交換セ  
 シモ未タ眞面目ノ戰鬪ヲ惹起スルニ至ラザリキ  
 小亞細亞作戰軍ハ七十六年末ヨリ七十七年一月ニ互リ高加士ノ南部ニ於  
 テ近ク國境ニ集中セシモ爾後大ナル變化無シ

### 第七章 露軍ノ羅馬尼ニ於ケル開進

附圖第  
二參照

#### 一 前進計畫

露軍司令官ハベサラビア州滯在中其作戰計畫ニ基ツキ開戦後直ニ軍ヲ羅  
 馬ニ進メ爾後 Nikopoli, Sistor 間ニ於テ Dunau 河ノ渡過ヲ準備セント欲シ  
 豫メ前進ニ關スル計畫ヲ爲シ先ツ Jalomija 河口ヨリ黑海ニ至ル Donau 河ノ  
 線ヲ警戒セシムル爲ニ一兵團ヲ編組シ又別ニ一部ヲ以テ Jalomija 河口ヨ  
 リ上流 Iiu 河口ニ河以西ノ地域ハ羅馬尼軍ヲニ至ル間ヲ警戒セシメ主力ハ三縱隊  
 ト爲リ大部ハ徒歩、一部ハ鐵道ニ由リテ共ニ Bukarest 附近(一部ハ Sulatina)ニ開  
 進セシムルニ決シ四月十五日之ニ關スル計畫ヲ諸隊ニ發表セリ其概要左  
 ノ如シ

第十一軍團長中將シァコウスコエハ歩兵第十一師團、哥薩克騎兵三聯隊  
 [下]哥薩克騎兵第二十聯隊、同騎砲兵一中隊、中將ウエレウキンノ率キル混成旅團、  
 九第三十一第四十聯隊、砲兵第三十六旅團ノ第一第四第五中隊、工兵第七大隊、攻城砲兵第  
 十六師團ノ第二旅團、砲兵第一中隊及騎砲兵第十三中隊  
 一集團及黑海海軍支隊ヲ指揮シ下流「ドナウ」兵團ト爲リ其主力ヲ Braila,  
 Reni 附近ニ置キ Jalomija 河口ヨリ黑海沿岸ニ至ル Donau 河ノ線ヲ守備ス

下流 Donau  
地區ノ掩護

中部 Donau  
地區ノ掩護

但シ工兵第七大隊攻城砲兵第一集團、黑海海軍支隊ハ宣戰布告ト同時ニ  
 鐵道ニ由リ Bender ヨリ Braila ニ輸送セラルルモノトス  
 騎兵第八師團ハ Alexandria ニ前進シ Jiu 河口ヨリ Vede 河口ニ至ル Donau  
 河ノ線ヲ警戒ス  
 高加士哥薩克騎兵師團長中將スコベレフノ指揮スル狙撃步兵第四旅團  
 哥薩克步兵二中隊、高加士哥薩克騎兵師團山砲二中隊ハ Bukarest ノ南方  
 Dacia ニ前進シ Vede 河口ヨリ Treceior 湖ニ至ル Donau 河ノ線ヲ警戒ス  
 步兵第三十二師團長中將アッレルノ指揮スル步兵第三十二師團(步兵第  
 二旅團及砲兵第三第四第五第六中隊欠)ハ鐵道ニ由リ Bukarest ニ輸送セ  
 ラレ後 Otenia ニ到リ同地ヲ守備ス但シ Braila 附近鐵道橋掩護ノ爲 Braila  
 ニ下車シ一時下流「ドナウ」兵團司令官ノ指揮ニ入ルモノトス  
 騎兵第十一師團長中將タチスチエフノ指揮スル步兵第三十二師團ノ第二  
 旅團同砲兵第三第四第五第六中隊及騎兵第十一師團ハ Jalomir 河ノ左岸

軍主力ノ前  
進

Oltarasi ノ北方ニ在ル Slobozia ニ至リ Otenia ヨリ Jalomir 河口ニ至ル Donau  
 河ノ線ヲ警戒ス但シ騎兵第十一師團ヲ除キタル他ノ部隊ハ Braila 迄行軍  
 ノ後一時下流「ドナウ」兵團司令官ノ指揮ニ入ルモノトス  
 前記四個ノ部隊中騎兵第八師團ハ騎兵第十二師團長中將ドリーゼン又  
 殘餘ノ部隊(步兵第三十二師團欠)ハ第八軍團長中將ラデツキーノ部署ニ  
 依リテ行軍シ何レモ Ploesci, Filipesi, Braila ノ線ヲ通過シタル後必要ナル  
 警戒部署ヲ取ルヲ要ス  
 第九軍團 最初ハ全部の Donau ニ鐵道輸送セラハ步兵第五師團「ドン」哥薩克騎兵第三  
 十四聯隊ヲ以テ Băneasa (Bukarest ノ北方ニ在リ)ニ其他ヲ以テ Mălina ニ第十  
 二軍團ハ騎兵師團ヲ以テ Bukarest ノ南方 Copaceni ニ其他「ドン」哥薩克騎兵第  
 三十七聯隊ヲ除ク 同聯隊ハ Băneasa)ヲ以テ「ドン」哥薩克獨立騎兵旅團及烏拉爾  
 哥薩克騎兵一中隊ト共ニ Alexandria ニ、後ニ至リ第十二軍團ノ主力ハ Bukarest 第八軍  
 團(騎兵第八師團欠)ハ Plumbuita (Bukarest ノ北方ニ在リ)ニ「ドン」哥薩克騎兵

行軍ノ區處

第二十三聯隊ブルカレストハ Bukarest 附近ニ、攻城砲兵第三、第四集團スラチナハ Slatinaニ、同第一二集團ハ架橋兵第三、第四、第五、第六大隊、架橋廠及近衛海軍支隊ト共ニ Banestiニ到ル露軍カ Bukarestヲ舍營地ニ充テサルハ羅馬尼トニ到ルノ協約ニ基ツキ同國ノ國權ヲ尊重セシニ因ル 徒歩部隊ハ三縱隊ト爲リ四月二十四日各其先頭ヲ以テ國境ヲ越エ五月十二日ヨリ六月二十三日迄ニ指定ノ地ニ到著ス以下附圖第一

右縱隊(騎兵第八師團、同第十二師團)ドン哥薩克獨立騎兵旅團、同第三十七聯隊第十二軍團所屬ハ騎兵第十二師團長中將ドリーゼンノ指揮ニ依リ騎兵第八師團ヲ先頭ノ二梯隊トシ他ヲ四梯隊ニ區分シ四月二十四日其先頭ヲ以テ Skulany, Ungeniノ線ヨリ Jassi, Roman, Beau, Pocsani, Buzeu, Ploesciヲ經テ前進シ五月十四日ヨリ同十八日迄ニ前記各指定ノ地點ニ到達ス

中央縱隊(第十二軍團騎兵第十二師團ヲ缺キ烏拉ハ同軍團長ノ指揮ニ因リ之ヲ、爾哥薩克騎兵一中隊ヲ附ス)ハ同軍團長ノ指揮ニ因リ之ヲ五梯隊ニ區分シ四月二十六日其先頭ヲ以テ Skulany, Ungeniノ線ヨリ Jassi, Vaslui, Birlut, Pocsani, Ploesciヲ經テ Alexandria後ニ至リ Bukarestノ南方ニ變更セラルニ前進シ五月二

十三日迄ニ同地ニ到達ス

左縱隊(スコベレフ中將ノ指揮スル部隊狙撃歩兵第四旅團、哥薩克歩兵二中隊、第八軍團、右縱隊ニ屬スル騎兵第十一師團、ドン哥薩克騎兵第二十三聯隊及工兵、第五大隊)ハ第八軍團長中將ラデツキーノ指揮ニ屬シ之ヲ十梯隊ニ區分シ四月二十四日其先頭ヲ以テ Leovoレオボノ東北方國境ヲ發シ中將スコベレフノ指揮スル部隊及ドン哥薩克騎兵第二十三聯隊ハ先頭ノ三梯隊、騎兵第十一師團ハ工兵第五大隊ト共ニ其後方ノ二梯隊ト爲リ共ニ Leovo, Falcu, Galatzガラツヲ經テ Braiaブライラニ前進シ尋テ中將スコベレフノ率キル部隊及ドン哥薩克騎兵第二十三聯隊ハ Uziceniウジチニ、Inkerestインケレストノ東北方チナヲ經テ前進シ五月十六日迄ニ Dritaドリタニ又騎兵第十一師團ハ Donauドナウ河ニ沿フテ前進シ同第一旅團、騎砲兵第十八中隊ヲ以テ五月十二日 Djoboziaジボゾヂヤニ、同師團ノ殘餘ハ同十四日 Obilociオビロチ、Kukurestククレストニ達シ殘餘ノ五梯隊(第八軍團)ハ Braiaブライラニ止リ工兵第五大隊同地ニ止リ第十一軍團長ノ 隸下ニヨリ Urziceniウジチニヲ經テ五月二十三日迄ニ Plumbuitaプルムブイタニ達ス

鐵道ニ由リ輸送セラル可キ部隊ハ第九軍團步兵第三十二師團(步兵第二旅團及砲兵四中隊)架橋兵諸大隊其他ノ諸材料及豫備糧秣トス但シ步兵第五師團ハ目下ノ集中地タル Winnica ヨリ Bender 迄輸送セラレ爾後(ド)ン哥薩克騎兵第三十四聯隊第九軍團所屬ト共ニ四梯隊ト爲リ徒步行軍ニテ左縱隊ノ進路ヲ經テ Banesa ニ到リ又步兵第三十二師團(步兵第二旅團及砲兵四中隊)ハ一時 Yrala ニ下車シ後更ニ Bukarest ニ輸送セラル

二 前進實施ノ情況

右縱隊ハ四月二十四日其先頭梯隊騎兵第八師團第一旅團及騎砲兵第十五中隊ヲ以テ直ニ Jassi ニ到リ爾餘ノ諸梯隊ハ翌二十五日ヨリ中央縱隊ハ二十六日ヨリ何レモ Skilany 北方ノ橋梁ヲ渡過シ得ル如ク宿營地出發前進セリ然ルニ二十四日迄ニ終了ス可カリシ Skilany 橋梁ノ修理二十六日ニ至リ始メテ完成セシ故ニ此間右縱隊及中央縱隊ハ豫定計畫ニ從ヒ依然行進ヲ繼續シテ同橋梁ニ向ヒテ來集シ其完成ト共ニ各隊先ヲ爭ヒ相混淆シテ渡過ス偶雨荐リニ到リ道路

右縱隊及中央縱隊ノ行動

泥濘ト爲リ車輛ノ運轉自由ナラスシテ途中ニ遲留スルモノ多シ因テ兩縱隊ハ休憩日ヲ利用シ辛ウシテ諸隊ヲ整頓シ行進ヲ繼續ス斯クテ騎兵第八師團ハ Bukarest, Alexandria 間ニ於テ降雨ノ爲ニ橋梁ノ破壊セルヲ以テ迂回セシニ拘ラス五月十四十五ノ兩日ニ Alexandria ニ到著シ二十日夕迄ニ Corabia 附近ヨリ Vede 河口ニ至ル間ノ警戒配備ニ就クヲ得タリ五月二十二日露國ト羅馬尼亞河以西ハ羅馬尼亞軍ニ讓リテ露軍ハ漸次 Olteu 河以東ニ其警戒正面ヲ短縮セリ又騎兵第八師團ハ六月十一日中將スコベレフノ率キル部隊ヨリ狙撃步兵第十四大隊及砲兵第十四旅團ノ第四中隊ヲ第一八軍團ヨリ步兵第九師團ノ步兵第三十五聯隊及砲兵第九旅團ノ第三中隊ヲ増加セラレ此等ノ諸隊ヲ以テ Ninnicea 附近ヲ守備ス

騎兵第十二師團烏拉爾哥薩克騎兵一中隊(欠)ハ五月十七日及十八日ニ Copaceni 及(ド)ン哥薩克騎兵旅團ハ二十日 Alexandria ニ(ド)ン哥薩克騎兵第三十七聯隊ハ十八日 Banesa ニ到達セリ

中央縱隊ハ五月六日其先頭ヲ以テ Teuciu 附近ニ達セシニ是日豪雨アリ諸橋梁流失セシヲ以テ迂路ヲ取リテ行進シ途中 Alexandria ニ到ル可キ計畫ヲ變更セラレ五月二十六日乃至六月三日ニ悉ク Bukarest 西南方ノ舍營地ニ到

左縱隊ノ行

著セリ

左縱隊ノ先頭梯隊高加士哥薩克騎兵師團第二旅團欠ハ四月二十四日 レオボニ到リ二十五日該地ノ橋梁ヲ通過セントセシニ プリト河増水シテ兩岸ノ低地ニ汎濫シ其幅員五吉米ニ及ヒ到底橋梁ニ達スルヲ得サルヲ以テ同河左岸ニ沿ヒ フアルチ對岸ニ行進シ船ヲ求メテ河ヲ渡レリ第二梯隊高加士騎兵師團第二旅團ハ レオボニ滞在シ橋梁ニ達ス可キ長キ束柴路ノ構築ヲ待チシモ作業ノ進捗遅々タリシヲ以テ四月二十七日第一梯團ト同シク フアルチ附近ニ於テ船ニテ渡過セリ第三梯隊狙撃歩兵第四旅團哥薩克歩兵二中隊下ハ完成セル レオボノ束柴路ニ由リテ五月一日右岸ニ移レリ然ルニ同夜亦強雨アリテ構築セル道路破壊シ再ヒ渡ルヲ得ス此間後續セル諸梯隊陸續トシテ レオボニ到著シ忽チ給養ノ困難ニ陥レリ是ニ於テ左縱隊司令官ハ大ニ狼狽シ俄ニ フアルチ附近ノ渡河點ヲ偵察セシメ同時ニ既ニ渡河ヲ畢レル中將スコベレフノ率キル部隊ヲ ガラツニ停止セシメタリ此部隊ハ後軍司令官ノ命然ルニ其後軍司令官ヨリ派遣セル工兵第三旅團令ニ依リ前進ヲ續行セリ

長少將リヒテル來著シテ縱隊司令官ニ フアルチニ橋梁ヲ轉設ス可キ意見ヲ具申セシカハ同司令官ハ其具申ヲ容レ且諸隊ヲシテ同處對岸ニ行進セシメ橋梁架設作業ノ完了スル迄船ニ頼リ渡河ヲ繼續セシム乃チ第四及第五梯隊騎兵第十一師團工兵第五大隊ハ五月五日迄ニ船ニ頼リ河ヲ渡リシカ第六梯隊ノ渡河セントスルトキ プリト河更ニ増水セリ

五月七日軍命令ニ依リ架橋工事完成スル迄第七梯隊以下ハ プリト河ノ左岸ニ沿ヒ レニヲ經テ ガラツニ前進シ左縱隊ニ續行スル歩兵第五師團ノミ フアルチヲ經テ前進セシメラレシモ第七第八梯隊ハ困難ヲ排シテ船ニ頼リ渡河シ第九第十梯隊ハ十一、十二ノ兩日ニ橋梁五月十日ヲ渡リ歩兵第五師團ハ十三日之ニ續行シテ プリト河ヲ渡レリ斯クテ左縱隊ハ プリト河ノ渡過ニ十八日間ヲ費セリ

中將スコベレフノ率キル部隊ハ プリト河渡過後故障無ク行進ヲ續ケシモ ソベ河ノ橋梁五月八日迄落成セス八日ヨリ十日ノ間ニ船ニ頼リ河ヲ渡リ爾



二十九第三十一第四十聯隊並ニ「ドン」哥薩克騎砲兵第八第十中隊ヲ前衛トシ第十一軍團參謀長ノ隸下ニ屬シ宣戰布告後直ニ Galatz ニ向ヒ急進セシメタリ

前衛ハ四月二十四日早朝運動ヲ始メ同司令官ハ「ドン」哥薩克騎兵第二十九聯隊ヲシテ急行シテ Barhosi 鐵道橋及 Galatz ヲ占領セシメ「ドン」哥薩克騎兵第三十一聯隊ヲ右縱隊トシ Folesci 附近ニ於テ Prut 河ヲ渡リ Galatz ニ向ヒ爾餘ノ諸隊ヲ左縱隊トシ Reni ヲ經テ Galatz ニ前進セシム

是ニ於テ「ドン」哥薩克騎兵第二十九聯隊ハ Hadzi, Abduly, Reni ヲ經テ急行シ同日午後六時 Galatz ニ午後七時 Barhosi 鐵道橋ニ到着シ同處ヲ守備セシ羅馬尼軍ト交代セリ

左縱隊ハ「ドン」哥薩克騎兵第二十九聯隊ノ後方ニ續行シ午後六時 Reni ニ達ス此時土國ノ「モニートル」艦二隻現ハレ出テ Prut 河渡船場ヲ破壊セシカ幾モ無ク下流ニ向ヒシヲ以テ渡船場ヲ修理シ午後十時ヨリ渡河ヲ開始ス右

縱隊ハ Prut 河増水ノ爲豫定ノ地點ニ於テ渡河スルヲ得スシテ Reni ニ轉進シ左縱隊ニ續行セリ斯クテ步兵第四十一聯隊第一大隊「ドン」哥薩克騎兵第三十一第四十聯隊及同騎砲兵二中隊ハ二十五日正午 Galatz ニ達シ Barhosi 附近ノ警戒ヲ嚴ニシ午後七時ニ至リ前衛爾餘ノ諸隊モ亦 Galatz ニ來著セリ

兵團司令官ハ四月二十五日 Kediai 附近ニ在リシ諸隊ヲ率キテ前衛ニ續行シ一部隊步兵一大隊砲兵二中隊ヲ派遣シテ中將ウレウキン部隊ノ到着スル迄一時 Ismail ヲ占領セシメ其主力ハ二十六日夕 Reni ニ達シ翌二十七日完成セル Reni ノ橋梁ヲ渡リテ前進シ五月一日中ニ步兵第三十二師團ノ一部鐵道ニ由リ輸送セ爲遅延セシモノト共ニ Braia, Barhosi, Galatz, Reni 等ヲ堅固ニ占領セリ

中將ウレウキンノ部隊ハ四月二十五日既ニ Satunow, Kilija ヲ二十六日更ニ Ismail, Wilkow 及 Jebraeni ヲ占領シ Ismail ヲ守備セシ步兵第十一師團ノ一部隊ハ原師團ニ復歸セリ

步兵第三十二師團第二旅團及砲兵四中隊ハ N. W. Kauszani 附近ヲ出發シ步



兵第十一師團ノ後方ニ續行シ五月二日Galatzニ到着セリ步兵第三十二師團  
 (步兵第二旅團及砲兵四中隊欠)ハ同日迄ニ全部Brailaニ輸送セラレ工兵第  
 五第七大隊攻城砲兵第一集團モ亦相前後シテ同地ニ到着セリ  
 是ニ於テ兵團司令官ハGalatz, Braila附近ヲ守備セシ步兵第三十二師團步兵  
 第二旅團及砲兵四中隊欠ノ一部ニ代ユルニ步兵第十一師團ノ諸隊ヲ以テ  
 シ中將アッレルノ率キル步兵第三十二師團步兵第二旅團及砲兵四中隊欠ヲ  
 シテ豫定ノ如ク鐵道ニ由リBukarestニ輸送シ又此頃ニ至リ軍司令官ノ命令  
 ニ依リ中將アッレルノ指揮ニ入ル可キドン哥薩克騎兵第三十一聯隊ヲ同中  
 將部隊ノ到着地タルOlteniaニ又中將スコベレフノ指揮ニ入ル可キドン哥  
 薩克騎砲兵第十中隊ヲ同中將部隊ノ到着地タルDaciaニ向ヒ共ニ徒步行軍  
 ニ依リBrailaヨリ出發セシメ同時ニ騎兵第十一師團長ノ令下ニ入ルヘキ  
 步兵第三十二師團第二旅團及砲兵四中隊ヲシテSloboziaニ向ヒ出發セシメ  
 タリ是ニ於テ中將アッレルノ指揮ニ入ルヘキ諸隊ハ五月二十日迄ニOltenia

鐵道輸送ノ  
情況

ニ到着シ直ニ同地ヲ占領セシ羅馬尼軍ト交代シテ同地ヲ守備シSlobozia  
 ニ向ヒタル步兵第三十二師團第二旅團及砲兵四中隊モ亦二十日頃豫定ノ  
 地ニ到着シタル後更ニ原師團ニ復歸スヘキ命ヲ受ケ五月二十八日Negoiesti  
 Oltenia西北  
 方約五里  
 ニ到リ所屬師團長ノ令下ニ入レリ  
 工兵第七大隊及工兵第五大隊ノ二中隊ハ鐵道ニ由リ輸送セラレ前者ハBu-  
 karrestニ後者ハStainaニ到リ共ニ下流ドナウ兵團司令官ノ令下ヲ脱セリ  
 前ニ述ヘタルカ如ク步兵第三十二師團步兵第二旅團及砲兵四中隊欠工兵  
 第七大隊、黑海海軍支隊及攻城砲兵第一集團ハ大ナル故障無ク輸送ヲ結了  
 セシモ此等部隊ニ引續キStainaニ輸送セラレヘキ第九軍團步兵第五師團  
 欠ハ恰モ羅馬尼軍ノ動員輸送ニ際シ且Dungeni, Jassi間ノ線路Pint河増水ノ  
 爲ニ破損セシニ因リ豫定ニ後ルルコト五日即チ五月八日ヨリ輸送ヲ開始  
 セリ然ルニ露國ヨリ輸送セル人馬材料ハJassiニ於テ羅馬尼國ノ狹軌鐵道  
 ニ積換フルニ多時ヲ要スルアリ又出水ノ爲ニ各地ノ鐵道線路破壊シ一時

運行ヲ中止セサル可カラサルコトアリテ輸送意ノ如クナラス因テ哥薩克騎兵若クハ歩兵ヲ以テ線路ヲ巡視セシメ又ハ從來羅馬尼鐵道廳ノ擔任セシ輸送實施ヲ露國將校ヲ以テ交代セシムル等種々ノ方法ヲ講セシモ今ヤ如何トモスル能ハス輸送依然トシテ滯滯セリ情況斯ノ如クナルカ故ニ豫定ニ後ルルコト約一箇月ニシテ騎兵第九師團及歩兵第三十一師團ノ大部一部ハ六月二十四日即チ軍主力カカ<sup>ドナウ</sup>河ノ渡過ヲ開始セル頃到着セシモノアリハ六月三日ニ至リ<sup>スラチナ</sup>ニ集合シ近衛船員支隊ハ同月七日迄ニ攻城砲兵第二集團ハ同月十五日迄ニ架橋兵大隊及同廠ハ同月二十日迄ニ<sup>バネサ</sup>ニ又攻城砲兵第三第四集團ハ其材料及輜重ト共ニ七月三日迄ニ<sup>スラチナ</sup>ニ到着セリ

軍司令部ハ鐵道ニ由リ五月十四日<sup>プロホスチ</sup>ニ又露帝ハ皇太子及隨員ト共ニ六月六日同地ニ到達シ爾來軍ト行動ヲ共ニセリ

行軍中ニ於ケル工兵諸大隊ノ行動明ラカナラス特ニ同第六大隊ハ如何ナル方法ヲ以テ集中地ニ到着セシヤヲ知ラス其後ノ行動ニ微スルニ同大隊ハ鐵道ニテ<sup>スラチナ</sup>ニ輸送セラレタルモノノ如シ

軍司令官ハ五月九日第四第十三第十四軍團ノ作戰軍ニ増加セラルルヤ第

增加部隊ノ前進

十四軍團ヲ下流<sup>ドナウ</sup>河方面ニ使用スルニ決セリ之カ爲第十四軍團ノ内歩兵第十八師團ハ<sup>ベンド</sup>哥薩克騎兵第一師團ノ第一旅團ハ<sup>ビズラ</sup>迄鐵道ニ由リテ輸送セラレ各下車停車場ヨリ<sup>ベニ</sup>ヲ經テ五月二十八日ヨリ六月九日ニ至ル間ニ<sup>ガラツツ</sup>到着シ歩兵第十七師團及<sup>ド</sup>哥薩克騎兵第一師團ノ第二旅團ハ徒步行軍ニテ<sup>スクラニ</sup>及<sup>ヤスルイ</sup>ヲ經テ六月四日ヨリ十三日ニ至ル間ニ同シク<sup>ガラツツ</sup>到着セリ而シテ從來<sup>ガラツツ</sup>附近ニ在リシ歩兵第十一師團ハ第十四軍團ト交代スルニ隨ヒ逐次<sup>ブライラ</sup>附近ニ集合シ六月七日及八日二梯隊ト爲リ同地ヲ出發シ十七日<sup>ブラスチ</sup>約四吉米<sup>ネグロ</sup>ニ達シ所屬軍團ニ合セリ

<sup>爾後下流</sup>下流<sup>ドナウ</sup>兵團ハ第十四軍團<sup>ド</sup>哥薩克騎兵第二十九及第四十聯隊<sup>ド</sup>率キル部隊ヨリ成ル

第十三軍團ハ全部<sup>ビズラ</sup>迄鐵道ニ由リ輸送セラレ尋テ歩兵第三十五師團、歩兵第一師團、騎兵第十三師團ノ順序ヲ以テ徒步行軍ニ由リ<sup>キズニエフ</sup>、<sup>パルチ</sup>、<sup>ビラト</sup>、<sup>テウチ</sup>ヲ經テ六月下旬<sup>バネサ</sup>ニ到着セリ而シテ第四軍團ハ鐵道輸送

ヲ以テ七月中旬 Bukarest に到着ス可キ豫定ナリ  
之ヲ要スルニ羅馬尼ニ於ケル露軍ノ開進ハ六月中旬ニ於テ略結了ヲ見ル  
ニ至レリ

三 羅馬尼軍ノ情況

露軍羅馬尼國內ニ進入時期ニ於テ羅馬尼軍ハ依然 Donau 河ノ線ヲ警戒セ  
リ五月十二日羅馬尼政府公然土國ト國交ヲ絶チ尋テ二十二日露軍ト羅馬  
尼軍トノ間ニ協約成立シ兩軍ノ作戰地域ヲ Olut 河トセシニ因リ同河以東  
Donau 河ノ線ヲ警戒セシ羅馬尼軍ハ露軍ノ到着ニ隨ヒ漸次之ト交代シ  
karest, Giurgevo, Oltenia 間ニ在リシ第二軍團ノ諸隊ハ Olut 河以西ニ移レリ  
是ヨリ先四月二十四日 Corabia 附近ニ於テハ其守備隊ヨリ派遣セル歩騎兵  
若干ハ小艇ニ由リ對岸ニ移リ偵察中土軍ノ前哨ト交戦シ續テ一十七日 Ra  
hovo ヨリ來リシ土艦一隻ト砲戦セリ又 Calafatu 附近ニ於テハ對岸 Vidin ニ在  
ル土軍頻リニ渡河材料ヲ蒐集スルニ因リ四月下旬第一軍團ニ Jiu 河ノ線ニ

四月下旬ヨ  
リ六月下旬  
ニ至ル間羅  
馬尼軍ノ情  
況

退却ヲ命セシカ其後土軍渡河ヲ試ムルノ微無ク且露軍漸次羅馬尼ニ進入  
セシヲ以テ大ニ力ヲ得再ヒ第一軍團ヲ從前ノ地域ニ前進セシメ四月二十  
七日及五月八日ニハ Vidin 要塞ト砲撃ヲ交ヘリ

斯クテ六月上旬ニ於ケル羅馬尼軍ノ配備概要左ノ如シ

第一軍團ハ主力ヲ Calafatu 附近ニ置キ主トシテ Vidin 要塞ニ對シ Donau 河  
ノ上下流ヲ監視シ第二軍團ノ第三師團ハ主力ヲ Calafatu ノ東方約三十吉  
米ニ在ル Bailesti 附近ニ置キ Lompananka ヨリ Jiu 河口迄ヲ警戒シ同第四師  
團ハ四個ノ支隊ニ分レ Becketu (Pike), Potelu, Corabia, Iztas 位置シ Jiu, Olut  
兩河間ノ警戒ニ任セリ

附記 土軍ハ七十六年十一月ノ初メ露土兩國ノ關係漸次切迫スルヤボ  
スニア、ヘルツェゴビナ、塞爾維、モンテネグロ等ニ散在セル兵力ヲ整頓シ  
且其缺員ヲ補充シツツ其兵力ヲ布爾牙利ノ地ニ集中シ始メタリ然レ  
トモ其集中遅々トシテ進捗セス七十七年五六月頃布爾牙利及巴爾幹

千八百七十  
七年末ヨリ  
六月迄  
七十七年  
ノ土軍ノ情  
況

山脈以南ニ在リタル土軍ノ兵力ハ約十六萬ニシテ其配置概ネ左ノ如シ  
佛國從軍武官大佐ト  
ルシーノ報告ニ依ル

第一線トシテ布爾牙利ニ在ルモノ

Viđin	二萬三千人
Lom-palanka	二千人
Rahovo	五千人
Nikopoli	一萬人
Sistov	千四百人
Vardim	二千八百人
Timovo	二千八百人
Kusculk	二萬三千人
Turtukai	四千人
Silistria	一萬二千人

Sumla	三萬四千人
Varna	七千人
Babadag 地方	八千人
計	十三萬五千人

第二線トシテ巴爾幹山脈及其以南ニ在ルモノ

Sofia	一萬四千人
巴爾幹山脈	九千人
Philippopol	一千人
Adrianopel	一千人
計	二萬五千人

第八章 露軍 Donau 河ノ渡過

一 Donau 河ノ制壓 露土兩軍作戰  
地總圖參照

露軍ハ六月中旬頃迄ニ羅馬尼ニ於ケル開進ヲ略終了シ今ヤ作戰計畫ニ基ツキ下流「ドナウ」兵團ヲ以テ下流地域ヨリ主力ヲ以テ中流地域ヨリ「ドナウ」河ヲ渡過セントス當時河水ノ汎濫區域著シク擴大セルノミナラス河上ニハ土國ノ有力ナル「ドナウ」艦隊アリ

軍司令部ノ知り得タル所ニ依レハ「ドナウ」河口「Julina」ニ大「モニター」艦二隻「モニター」艦ハ裝「Tulcea」ニ裝甲「コルヴェット」艦「コルヴェット」艦ハ巡「二隻及小「モニター」艦一隻、Micin」ニ戰鬪陽輪船二隻、Hilsova」ニ小「モニター」艦二隻、木製砲艦、及戰鬪陽輪船各一隻、Sistria」ニ戰鬪陽輪船一隻、Kusculk」ニ小「モニター」艦、木製砲艦及鐵製「バルク」船「バルク」船ハ大帆各二隻、「Vidin」ニ小「モニター」艦、鐵製砲艦及戰鬪陽輪船各一隻アリ尙九隻ノ運送汽船竝ニ十七隻ノ「シャルップ」船短艇ノ大ナルモノナリ及「バルク」船各處ニ分置シ其總數四十七隻砲七十七門、乘組員九百四十六名ヲ算セリ

河川制壓ノ計畫及準備

軍司令官ハ是ヨリ先渡河準備ノ第一著手トシテ「ドナウ」河上ニ水雷ヲ沈設

シ河岸ニ砲臺ヲ築キ之ヲ掩護シ以テ敵艦隊ノ活動區域ヲ漸次減縮セント欲シ之ニ要スル水雷及船艇ヲ本國ニ於テ準備シ作戰軍ノベサラビア集中ト共ニ電氣水雷三百個、ヘルツ「式」觸發電氣水雷百五十個、棒形水雷發射水雷ヲ謂フ百個、「ボアト」式浮游水雷五個、「ホヴァイト」式自動水雷五個、導線三十二吉米、水雷「カトル」艇及「シャルップ」汽船十四隻、上陸用短艇四隻、漕艇十七隻ヲ集中地ニ輸送セリ尋テ軍司令官ハ作戰軍ノ羅馬ニ進入セシ後「ドナウ」河河岸ノ地形及河線ノ狀態敵國艦隊ノ兵力配備等ヲ調査攻究シ左ノ處置ヲ取レリ  
下流「ドナウ」河方面ニ於テハ黑海海軍支隊ヲシテ水雷沈設ニ從事セシメ又工兵第七大隊ヲ水雷沈設警戒用ノ砲臺竝ニ敵艦隊ニ對スル攻城砲臺ノ構築水雷沈設及砲臺ノ位置トシテ「Kenj, Galatz, Braila」附近(後ニ至リ「Galatz」河ノ河口「Gura-Jalomitei」ニ尙一個ヲ増加セリ)ヲ撰定セリニ任シ砲臺構築後ハ攻城砲兵第一集團ヲ此方面ニ使用シ且「ドナウ」兵團司令官ヲシテ水雷沈設作業ノ著手ニ先タチ「ドナウ」河上ニ於ケル商船ノ自由航行ヲ全然停止セシム。

中部 Donau 河方面ニ於テハ近衛船員支隊ヲシテ水雷沈設ニ任セシメ又工兵第七大隊ヲ下流 Donau 河方面ノ作業完成後此方面ノ攻城砲臺構築水雷ノ砲臺ノ位置トシテ Girgevo, Plamanda, Coralia ナ撰定セリニ任シ砲臺完成後ハ攻城砲兵第二集團ヲ Girgevo 方面同第三第四集團ヲ Plamanda 及 Coralia 方面ニ使用ス而シテ中部 Donau 河方面ハ徵用スヘキ船舶ニ乏シキヲ以テ携行船舶ハ全部此方面ノ水雷沈設ニ任スル近衛船員支隊ニ屬セシメ水雷ハ兩支隊ニ分屬セシム

露國參謀本部戰史ニ依レハ中部 Donau 河方面ニ於ケル水雷沈設及砲臺構築ノ地點ハ軍司令官ノ撰定シタルモノタルコトヲ明記セリ又下流 Donau 河方面ニ在リテハ軍工兵部長將官デツプヲシテ水雷ノ沈設特ニ砲臺ノ構築ニ關スル區署ヲ爲サシメシコトヲ記載シ其位置ニ關シテハ軍司令官直接ニ命令シタルカ如シ又下流 Donau 河方面ノ海兵工兵及攻城砲兵集團ハ下流 Donau 河方面ノ海兵工兵及攻城砲兵集團ノ隸下ニ屬セシモ中部 Donau 河方面ノ海兵工兵及攻城砲兵集團ノ隸屬關係ハ明瞭ナラス要スルニ露國參謀本部戰史ノ記事不明瞭ナルカ如ク實際ニ於テモ亦命令系統明瞭ナラサリシニ似タリ

工兵第七大隊ハ前述ノ計畫ニ基ツキ開戦後直ニ將校ヲ派遣シ攻城砲臺構築ノ位置ヲ偵察シ尋テ同隊ノ同地ニ到著スルヤ直ニ作業ニ著手シ五月初メ九個ノ砲臺ヲ構築セリ即チ左ノ如シ

下流 Donau 河地區攻城砲臺ノ築設

Reni 附近

四砲臺 (加農砲六門竝ニ臼砲二門分)

Barbosi 附近

一砲臺 (加農砲四門分)

Braila 附近

四砲臺 (加農砲八門竝ニ臼砲六門分)

右ノ内 Barbosi 砲臺ハ Seret 河ト Donau 河トノ合流點ヲ掃射シ Braila ノ砲臺ハ Donau 河ノ本流ト Mach 支流ノ出口トヲ掃射シ得可カラシメタリ而シテ砲臺構築中敵艦隊ノ出撃ヲ顧慮シ攻城砲ノ到達迄一時砲臺構築地附近ニ下流 Donau 兵團ノ野砲兵ヲ配置セリ攻城砲兵ハ五月七八ノ兩日ニ陣地占領ヲ略完了セリ

四月二十八日下流 Donau 兵團司令官ハ軍司令官ノ命令ニ基ツキ水雷沈設ニ先タチ Donau 河上商船ノ自由航行ヲ禁シ Galatz 及 Reni 附近ニ於テ十五隻

Donau 河航行停止

ノ土耳其古船竝ニ三百二十隻ノ他國船ヲ抑留セリ

黑海海軍支隊ハ四月下旬 Barbosi 露國ハ Barbosi 鐵道橋ノ掩護ニ苦心シ宣戰布告前變裝セ

下流 Donau 河ノ水雷沈設

ルモ成功セサリキニ到著シ直ニ購買又ハ徵發セル船舶ト携行セル水雷トヲ用キ二部隊ニ分レ沈設作業ニ著手シ Reni 附近ニ於テハ二十九(航行停止ノ

翌日三十ノ兩日 *Prut* 河ノ出口ニ困難無ク水雷ヲ沈設シ *Barlozi* 附近ニ於テ  
 ハ四月三十日沈設作業ニ著手シ五月一日第一列水雷ノ沈設ヲ終了シ尋テ  
 三日更ニ第二列水雷ヲ沈設シ 此兩列ノ水雷ハ土艦ノ砲撃ニ對シ同地橋梁ヲ充分  
 ニ警戒シ得ヘク橋梁ノ前方適當ノ距離ニ設ケタリ 茲ニ  
 黒海ト上流 *Donau* 河上ニ在ル土國艦隊トノ連絡ヲ遮斷スルヲ得タリ *Braila*  
 附近ニ於テハ同日以後 *Coruh* 河上ノ土國艦隊稍活動ヲ始メ沈設作業ハ攻  
 城砲臺ノ掩護ヲ受クルノ必要アリシカ故ニ同地攻城砲臺裝備ノ完成セル  
 後即チ九日ヲ以テ開始シ同日土軍ノ妨害ヲ受クルコト無クシテ第一列水  
 雷ノ沈設ヲ畢リ十一日更ニ第二列水雷ノ沈設ヲ爲サントセシニ土艦四隻  
 現出シ茲ニ露軍ノ水雷艇隊及攻城砲臺トノ間ニ砲戰起リ遂ニ沈設スルニ  
 至ラサリシモ其結果土艦一隻撃沈 一説ニ依レハ汽鐘破裂  
 ノ爲沈没セリト云フ セラレ敗餘ノ艦船  
*Megid* 支流ニ遁走ス是ニ於テ翌十二日再ヒ沈設ヲ試ミシモ水深ク流レ急ナ  
 ル等ノ關係ニ因リ目的ヲ達セス依リテ *Megid* 支流ニ遁レシ土艦ノ出口ヲ閉  
 塞セントシ十五日歩兵第四十一聯隊ノ一中隊ハ *Braila* 對岸 *Gaceci* 村ヲ占領

シ其掩護ニ依リ *Megid* 支流ト *Donau* 河トノ合流點附近ニ第一列ノ水雷ヲ沈  
 設シ直ニ第二列ノ水雷ヲ沈設セントセシモ土艦ノ妨害ニ遭ヒ果サス十五  
 日朝濃霧ニ乘シ作業ニ著手シ其完成ニ先タチ濃霧霽レ土艦現レ來リシモ  
 露軍艇隊ノ掩護ニ依リ遂ニ第二列水雷ヲ沈設シ十七日土艦ノ砲火ヲ凌キ  
 ツツ第三列水雷ヲ沈設シ續テ十八十九ノ兩日 *Braila* 附近ニモ三列ノ水雷ヲ  
 沈設シ此ノ如クシテ露軍ハ十九日以後ハ *Braila* 間ノ *Donau* 河ニ於ケル土  
 國艦隊ノ企圖ヲ全ク閉塞シ汽船ノ定期交通ヲ開始セリ

露軍ハ此頃ニ至リ *Jalomita* 河ノ河口 *Gura-Jalomitei* 附近ニ水雷ヲ沈設シ以テ  
*Megid* 支流ノ入口ヲ壅塞シ支流内ニ在ル土艦隊ヲ封鎖セントスルノ希望ヲ  
 有シ之カ作業ノ掩護竝ニ其後ノ警戒ノ爲ニ下流 *Donau* 兵團ヨリ歩兵一聯  
 隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ *Braila* 河岸ニ沿フテ派遣セリ此支隊ハ二十一日  
*Gura-Jalomitei* 附近ニ達シタルモ *Jalomita* 河ノ河口ニモニトール艦一隻砲艦  
 五隻及汽船三隻アリテ容易ニ接近スル能ハス依テ暗夜ヲ利用シ歩兵一大

隊騎兵二中隊半及砲四門ヲ *Gura-Jalomitei* ニ派遣シ以テ二十二日朝到著ス  
 ヘキ豫定ナル黑海海軍支隊ヲ掩護セシメタリ *Braila* 附近ヨリ *Donau* 河ヲ溯  
 航シタル水雷沈設隊ハ二十二日遅ク *Gura-Jalomitei* ニ到著セシモ土艦ノ碇  
 泊セルヲ見テ到底作業ノ實施ス可カラサルヲ認メ *Braila* ニ歸去セリ  
 二十五日夜強風ニ乘シ *Braila* 附近ヨリ *Macin* 支流ニ入りタル四隻ノ水雷艇  
 ハ *Macin* ニ碇泊セシ數隻ノ土艦ヲ襲撃シ其一隻ヲ沈没セシメタリ此不意ノ  
 事變ハ土兵ノ志氣ヲ沮喪セシメ爾後露國ノ水雷艇ヲ怖ルルコト最モ甚タ  
 シク延テ中部 *Donau* 河方面ニモ此影響ヲ及ホシ大ニ露軍ノ渡河ヲ容易ナ  
 ラシメタリ又曩ニ不成功ニ畢リシ *Gura-Jalomitei* 方面ニ於ケル水雷沈設モ  
 六月九日ニ至リ成功シ六月上旬ニ於テハ *Reni*, *Hirsova* 間ノ水域全然露軍ノ  
 有ニ歸シタリ 以下一覽圖第一  
第二參照  
 工兵第七大隊ノ第一第二中隊ハ下流「*ドナウ*」兵團司令官ノ指揮ヲ離レ五月  
 下旬 *Gurgevo* ニ到著シ直ニ同地ノ砲臺構築ニ著手シ *Ruscuk* ノ對岸 *Sobozia* 附

中部 *Donau*  
 河地區攻城  
 砲臺ノ築設

近ニ七個ノ砲臺ヲ構築セリ即チ第一號砲臺(六獨吋) 一吋ハ二冊米  
半ニ相當ス 白砲四門(第  
 二號砲臺)二十四斤加農砲二門(第三號砲臺)共ニ六獨吋白砲四門(第五號  
 砲臺)六獨吋加農砲四門(第六號砲臺)二十四斤加農砲六門(第七號砲臺)八獨吋  
 白砲四門(ニシテ其構築ハ同地附近ニ在リシ步兵ノ協力ニ依リ主トシテ夜  
 間ニ作業セルモノナリ又 *Parapani* (Parapani) 南方ニ在リ 附近ニ設置セラルヘキ  
*Mecka* 島 一覽圖第一參照 ノ水雷沈設掩護ニ任スヘキ砲臺ハ六獨吋加農砲四門(六獨  
 吋白砲二門)ヨリ成リ六月十三日迄ニ完成セリ此等砲臺ニ備フル攻城砲兵  
 第二集團ノ砲ハ鐵道ニ由リ *Banesa* ニ輸送セラレ *Parapani* 附近ノモノハ六月  
 十五日迄ニ *Sobozia* 附近ノモノハ二十三日迄ニ備砲ヲ終了セリ  
 工兵第七大隊第三中隊ハ *Flamanda* 附近ノ砲臺構築ニ任シ同地附近步兵ノ  
 協力ニ依リ六月初旬作業ニ著手シ同月二十五日 露軍主力渡河ノ前日 迄ニ合計八個即  
 チ *Flamanda* 附近ニ第一號砲臺(六獨吋加農砲四門)第二號砲臺(六獨吋加農砲  
 三門)ノ二砲臺 *Turnu Magurele* 附近ニ第三號砲臺(二十四斤加農砲四門)第四號



中部Donau河ノ水雷沈設

砲臺六獨吋白砲四門第七號砲臺六獨吋加農砲六門第八號砲臺六獨吋白砲四門ノ四砲臺(Ortu)河トDonau河ノ合流點附近ニ第五號砲臺二十四斤加農砲四門第六號砲臺二十四斤加農砲四門ノ二砲臺ヲ構築セリ此内(Fiamanda)ノ第一第二號砲臺ハ同地東南方(ウエライ)島ニ一覽圖第ニ設ケラルヘキ水雷阻絶ノ掩護ニ任シ他ハ凡テ(Nikopol)要塞ニ對スルモノトス而シテ是等砲臺ニ備フル攻城砲兵第三第四集團ノ砲ハ鐵道ニ由リ(スラチナ)ニ輸送セラレ六月十三日同地附近ニ到著後砲臺完成ニ伴ヒ逐次同月二十六日(露軍主力迄ニ其位置ニ就キ又(Fiamanda)附近砲臺構築ノ後直ニ(Turnu Magurele)附近ニ(Ortu)河ヨリDonau河ニ流下スヘキ船橋及其他ノ架橋材料ヲ掩護スル爲ニ九斤野砲砲臺構築セラレ尙(Corabia)附近ニ於テモ工兵第七大隊ハ同處ニ沈設セラルヘキ水雷阻絶掩護ノ目的ヲ有スル六斤加農砲四門ノ砲臺構築ニ任シ六月二十一日迄ニ完成セリ

中部Donau河方面ノ水雷沈設ハ近衛船員支隊之ニ任セリ同隊ハ六月中旬

Malu(Malul-d.j.) パラマンマライムニ在リ(一覽圖第一參照) 附近ニ到著シ十九日支隊長ハ同地ニ先著セル諸材料 小汽船十隻 漕艇八隻 ヲ以テ即日(Cuna)支流 一覽圖第ヨリ Donau河ニ入り作業ニ著手スヘキ命令ヲ受ケタリ 水雷沈設用船舶及材料ハ二部ニ分レ其大部ハ六月上旬Maluニ著シ一部ハ(Slatina)迄鐵道ニテ輸送セラレ

同地ヨリ(Ortu)河ヲ下リ(Corabia)河ヲ溯航スヘキ管ナリシモDonau河ノ溯航ハ土軍ニ對シテ危險ナリシカ故ニ(Turnu Magurele)ヨリ陸路ヲ運搬シ六月二十四日始メテ目的地ニ到著セリ 即チ支隊ハ同日夜Malul-d.j.ヲ發シ二十日(Mekka)島ト羅馬尼トノ間ニ水雷ヲ沈設シ

十九日夜ヨリ狙撃歩兵大隊ノ一部隊(哥薩克騎兵一小隊ト共ニ(Mekka)島ヲ占領シ又(カットル)汽船二隻ハ同島ノ南端ニ位置シ土艦ノ(Kuznetsov)ヨリ來ルモノニ對シテ水雷發射ノ準備ヲ爲シ共ニ作業掩護ニ任シタリシカ作業ヲ完續テ支隊ノ一部ヲ以テ同島ト土國沿岸トノ間ニ水雷沈設ヲ試ミントセシモ土國沿岸ノ敵ノ射撃ヲ受ケ尙(Kuznetsov)方面ヨリ來レル敵艦ニ會シテ成功セス是ニ於テ艇隊ヲ兩分シ半部ハ(Malu)ニ歸去シ殘餘ノ半部五隻ハDonau河ヲ溯航シ上流(Fiamanda)ニ向ヘリ

(Corabia)方面ノ水雷沈設豫定地ハ同村ノ稍上流ニ在ル一ノ無名島ニシテ六月二十二日對岸ニ上陸シタル(哥薩克)歩兵ノ小部隊ニ依リ掩護セラレ同島

ト土國側トノ間ニ無事作業ヲ畢リ尋テ二十四日羅馬尼側モ亦完成シ茲ニ Vidin 方向ニ對シ全ク本流ヲ遮斷セリ

Corabia 方面ノ水雷作業ヲ畢リシ支隊ハ二十五日本流ヲ下リ Flămânda ニ到リ曩ニ Ruscuk 方面ヨリ Donau 河ヲ溯航セシ艇隊ト合シ直ニ同地附近ノ水

雷沈設ニ著手シ二十六日夜 露軍主力ノ Kimitze, Sissof 間ニ於テ渡河ノ當夜 土國側ニ接近セル一部ヲ除キ

二列ノ水雷 此水雷ハ電氣發火ナリシヲ以テ沈設セリ斯クテ六月二十六日露軍主力渡河決行ノ日迄ニハ中部 Donau 河方面モ亦下流 Donau 河方面ニ同シク

Mecka 島附近同島ト土國側 此水雷ハ六月二十八日沈設セラレタリ 及 Pământa 附近ニ於ケル土國側ノ一部 此一部ハ七月三日完成セシモ Doim 島(一覽圖第二參)ヲ除クノ外殆ト豫定ノ阻絶ヲ結了セリ

二 渡河材料ノ準備

露軍出師ノ當初準備セル定式ノ架橋材料ハ架橋兵四大隊ノ有スル半船及架柱橋(六百九十五米突分)並ニ豫備工兵一中隊ノ有スル帆布製船(二百十三

渡河材料準備計畫

米突分)合計九百八米突分 露軍司令部ハ地圖上ノ測定ニ依リ中部 Donau 河河幅ヲ平ニシテ

尙渡航用トシテ中部 Donau 河方面ノ爲購入汽船一隻、掠奪汽船一隻、木船長サ八米

突五幅二米突餘、高サ七十六册米ニシテ、每船漕手六名、舵手一名ヲ加ヘ、テ計三十名ヲ容ル此木船ハ Oltu 河ノ支流 Luta 河邊ニ於テ製作ス、百隻、下流 Donau 河方面ノ

爲購買及徵用セル汽船五隻、徵發セル中船四隻、民有短艇二百五十隻、木船三十五隻、ガランツニ於テ製作スヲ使用スヘキ計畫ヲ爲セリ而シテ軍司令官ハ中部 Donau 河方

面ニ於テハ Nikopoli, Ristov 間ニ前記定式架橋材料ヲ以テ一時ノ渡河用ニ供シ直ニ之ニ代ユルニ一個ノ木船橋ヲ以テシ尙別ニ一個ノ筏橋ヲ其附近ニ

架設シ其負擔力ヲシテ攻城砲兵ノ渡河ニ適當ナラシメ又下流 Donau 河方面ニ於テハ一個ノ筏橋ヲ架設スヘキ考察ヲ有シ豫メ軍工兵部長ニ命シテ

其材料調達ノ方法ヲ講セシメタリ因ツテ工兵部長ハ七十七年一月四名ノ工兵將校ヲ羅馬尼國ニ派遣シ之カ偵察ヲ爲サシメタル結果羅馬尼國ハ木

材ヲ Karpathen 山 奧國國ニ採リ之ヲ流下セシメ其本線ハ Seret 河 Oltu 河ニシテ實ニ Seret 河口ノ Galatz 附近ニハ絶ヘス木材堆積シ下流 Donau 河ノ架橋材料ヲ

充分ニ調辨シ得ヘク又 Olut 河畔ニハ數多ノ木材堆積セル處アレトモ規模小ニシテ單ニ地方ノ需要ヲ辨スルニ過キス只上流ニ於ケル朝流 Lotru 河畔ニハ墺國技師ノ經營ニ係ル稍大規模ノ木挽場アリテ納附期限ヲ一箇月半トスレハ筏橋ノ爲必要ナル木材ヲ製造スルヲ得ヘキコトヲ知り軍ノ豫定セル架橋點ノ位置ヲ考慮シ二月左ノ計畫ヲ立案セリ

一、中部 Donau 河方面ニ要スル筏橋材料ヲ Lotru 河畔ニ於テ製作シ最初ノ計畫ニ基ツキ製作セラルヘキ百隻ノ渡航用船ト共ニ Statina ニ流下セシム

二、中部 Donau 河方面ニ要スル木船橋ノ橋脚用トシテ百隻ノ木船(渡航用船)ヨリ稍大ニシ特ニ高サ三十五瓏米ヲ増スト一船橋ニ要スル諸材料トヲ Galatz ニ於テ調達セシメ鐵道ニ由リ之ヲ Statina ニ輸送ス

三、前記中部 Donau 河方面ニ用フル架橋諸材料 Statina ニ集積セハ Olut 河ヲ下リ Turun Magurele ニ流下セシメ尋テ Nikopol 要塞ノ射撃ヲ冒シ Donau

河ヲ下ル

四、下流 Donau 河方面ノ架橋材料ハ全部 Galatz ニ於テ製作ス

右ノ計畫ハ當時政治上ノ關係開戦ニ決スルニ至ラサリシヲ以テ其實行ヲ延期シ四月上旬ニ至リ之カ準備ニ著手セリ

五月上旬軍工兵部長ハ自ラ中部 Donau 河ヲ偵察シ材料豫定ノ長サニテハ尙不足ナルヲ知り Galatz 附近ニ於テ製作スヘキ百隻ノ木船ヲ各百五十隻ニ増加シ又 Lotru 河邊ニ於テモ之ニ伴ヒ製作材料ヲ追加セリ

架橋諸材料ノ製作ハ Galatz 附近ニ於テハ工兵第五大隊ノ二中隊之ニ協力シ六月中旬頃迄ニ下流 Donau 河用トシテ木船三十隻、筏百五隻及附屬材料ヲ製作又ハ調辨シ尙中部 Donau 河用トシテ百五十隻ノ木船及附屬架橋材料ノ製作ヲ畢リ直ニ Statina ニ輸送セラレタリ然レトモ Lotru 河邊ニ於テハ作業力豫期ニ達セス之カ爲 Statina ニ在リシ工兵第六大隊ノ二中隊ヲ増加セシカ 同大隊ノ他ノ二中隊ハ Statina ニ止レリ 既ニ伐木ノ好期ヲ逸シ今ヤ樹液ヲ多量ニ含有セル樹幹

地方材料ノ調達

ハ冬季ニ行ハルルカ如ク簡單ニ山ヨリ曳キ下スヲ得ス其大部分約十分ノ六ハ谷ヲ下ラサル内ニ殆ト木屑ト爲リ其目的地ニ流下セラレタルモノモ之ヲ好時期ニ伐木セシモノニ比スレハ負擔力遙ニ劣レリ因リテ伐木ヲ中止シ<sup>ロトル</sup>Yoru河邊ニ集聚セル多數ノ梁材ヲ購入セシモ丈短クシテ筏ニ適セス工兵第六大隊及同第五大隊ノ二中隊<sup>六月下旬下流、下ナウ兵團司令官ノ指揮ヲ脱シGalatzヲ發シSatinaニ到著ス</sup>ハ步兵第三十一師團ノ步兵第二百二十三聯隊ノ援助ヲ受ケ<sup>Satinaニ於テ筏ノ組成ニ任シタルモ僅カニ其九十隻ヲ造リ得タルニ過キス爲ニOltu河邊ニ在ル製粉艇及バルク船ヲ蒐集シ約四百二十六米突分ノ橋脚ニ充テタリ</sup>斯クテ中部<sup>Donau</sup>河方面ニ使用セラルヘキ木船、筏及其附屬材料若干ノ製粉用短艇等約一橋梁分ハ<sup>Satina</sup>ニ整頓ヲ畢リ二十二日同地ヲ發シ<sup>Oltu</sup>河ヲ下リ同河ト<sup>Donau</sup>河トノ合流點<sup>Nikopol</sup>要塞ノ射程外ニ全部集合シ二十五日迄ニ<sup>Donau</sup>河ヲ下ルヘキ諸準備ヲ完了シ爾餘ノ製粉用短艇又ハ大「バルク」船合計約九十隻及其附屬材料等約一橋梁分モ七月五日迄ニ<sup>Satina</sup>

六月上旬下流「ドナウ」兵團ノ位置

ニ於テ流下ノ準備ヲ整頓セリ

三 下流「ドナウ」兵團ノGalatz, Braia附近ニ於ケル

渡河<sup>附圖第三 第四參照</sup>

六月上旬下流「ドナウ」兵團<sup>第十四軍團下</sup>哥薩克騎兵第二十九第四十聯隊同騎砲兵第四中隊<sup>兵第三十六師團ノ第二旅團槍騎兵第七聯隊、下</sup>哥薩克騎兵第七聯隊<sup>第一中隊砲兵第三十六旅團第一第四第五中隊騎砲兵第十三中隊</sup>ハ步兵第七十二聯隊ノ一大隊、砲兵第十八旅團ノ一中隊並ニ「ドン」哥薩克騎兵第四十聯隊四中隊ヲ以テ<sup>Gura Jalomitei</sup>ヲ、步兵第七十一聯隊及步兵第七十二聯隊ノ各二大隊並ニ「ドン」哥薩克騎兵第二十九聯隊ノ二中隊ヲ以テ<sup>Braia</sup>ヲ、步兵第十七師團、步兵第十八師團ノ第一旅團、步兵第七十一聯隊ノ一大隊、砲兵第十八旅團（二中隊欠「ドン」哥薩克騎兵第一師團「ドン」哥薩克騎兵第二十九聯隊ノ二中隊、騎砲兵第四中隊及工兵第五大隊ノ半部ヲ以テ<sup>Galatz</sup>ヲ占領シ又同兵團ニ屬スル中將ウエレウキンノ指揮スル部隊ハ步兵第四百四十四聯隊（一大隊欠槍騎兵第七聯隊ノ二中隊、砲兵第十八旅團ノ一中隊ヲ以テ<sup>Peni, Bolgrad</sup>ヲ、步兵第

得タル情況

百四十四聯隊ノ一大隊、槍騎兵第七聯隊ノ一中隊並ニ騎砲兵第十三中隊ヲ以テ Kartal, Satunow ヲ歩兵第四百十三聯隊ノ七中隊、槍騎兵第七聯隊ノ一中隊、砲兵第三十六旅團ノ二中隊ヲ以テ Ismail ヲ歩兵第四百十三聯隊(八中隊欠)ドン哥薩克騎兵第七聯隊ノ一中隊、砲兵第三十六旅團ノ一中隊ヲ以テ Iija, Zebreni, Gableszti, Nikolajewka ヲ占領ス

當時兵團司令官中將チンメルマンノ知り得タル所ニ依レハ Dobrudza 内ノ土軍ハ不正規兵ヲ合シテ一萬一千五百人内下流「ドナウ」兵團ニ對スルモノハ約八千人ニシテ二千二百五十人ハ Hirsowa ニ、四千八百人ハ Merein 及 Bugecu 高地北方一里 Galatz, Braia 附近ニ於ケル Donau 河ハ平水ニ於テ河幅平均八百五十米突ナルモ當時増水シテ兩岸ノ蘆葦繁茂セル低地一面ニ汎濫シ Cecet, Azacian, Zatok ノ諸村ハ一見島嶼ノ如ク Merein, Jijla, Bugecu ニ互ル高地ハ恰モ半島ニ似テ水中ニ突出シ Cecet-Merein 道ハ凡テ其附近一帯ノ低地ト同シク全ク水

Galatz 附近  
川ノ地形及河  
ノ狀況

中ニ在リ

Braia ノ北方 Cecet ノ對岸ハ羅馬尼側ニ於テ稀ニ見ル高サ十五米突乃至二十米突ノ高地ヲ成シ幅二百乃至七百五十米突ノ低地ヲ隔テテ Donau 河堤防ト相對シ Cecet 附近ヲ瞰制ス

Bugecu ノ高地ハ起伏甚タシク北部ニ聳立セル Bugecu 山ハ其質巖石ナリ西斜面ハ峻嶮ニシテ處々斷崖ヲ成シ東方斜面ハ概シテ階段狀ナリ Bugecu 山ノ南方ハ狹クシテ幅約五百米突ニ過キス然レトモ其以南ハ漸次ニ廣潤ト爲リ Garvan 附近ノ東西ニ互レル高地線ハ北方ニ對シ有利ナル陣地ヲ成形ス

兵團司令官ハ六月ノ初メ以來自ラ渡河ノ目的ヲ以テ諸偵察ヲ行ヒ汎濫期ニ於テ渡河ヲ強行セントスルハ甚タシキ冒險ノ處置タルヲ免レサルヲ以テ軍司令官ニ意見ヲ具申シ河水ノ減少スルヲ待チテ渡河セントシタルモ容レラレス六月十二日軍參謀長ヨリ左ノ軍訓令ヲ受領セリ

軍司令官殿下ハ閣下ニ傳達スルニ閣下ノ率キル下流「ドナウ」兵團カ作戰

兵團司令官  
ノ意見具申  
並ニ之ニ對  
スル軍司令  
官ノ訓令

軍ト本國トノ連絡掩護ニ充テラレタルコトヲ以テセラルル而シテ此目的ノ爲殿下ハ貴兵團ヲシテ Galatz, Braila 附近ニ於テ Donau 河ヲ渡リ Dobru-dza ノ最モ重要ナル地點特ニ Isaccoa 及 Tulcea ヲ占領シ尙進ンテ Cernavoda, Kustendze ノ線ヲ永ク固守セシメントス又兵團ハ此際敵ノ注意ヲ已レニ牽制シテ成ル可ク敵ヲ軍主力ノ作戰方面ヨリ遠サクルコトヲ努ムヘシ而シテ情況特ニ之ヲ利トスルニ非サレハ兵團ハ前記ノ線ヲ越エテ進出ス可カラス其前進ノ時機ハ軍主力既ニ好果ヲ得タル後ナラサル可カラス若シ軍主力ノ一部好果ヲ得タル場合ニハ兵團ハ Zumla 方向ニ前進ス可シ此前進ノ時機ニ至ル迄ハ單ニ敵ノ運動ヲ監視スル爲 Silistria, Varna, Sumla 諸要塞間ノ連絡線ヲ搜索スル爲ニ前遣部隊ヲ派遣スルニ止ム可シ

## 渡河計畫

兵團司令官ハ乃チ左ノ要旨ノ渡河計畫ヲ立テ其實施ヲ諸隊ニ命令セリ

一、工兵第五大隊ノ半部ハ準備セル諸材料ヲ用キテ Braila ノ北方約二吉

米ヨリ Gececi 向ヒ橋梁ヲ架設ス

黒海海軍支隊ハ其假裝汽船ヲ以テ敵艦艇ニ對シテ架橋作業ヲ掩護ス

二、第一次上陸隊歩兵第六十九第七十聯隊砲兵第十八旅團第四中隊ノ四

門ハ橋梁完成ノ後拂曉午前四時頃ニ乘シ Galatz ヲ發シ Bugecu 高地ニ

上陸シ同地ニ在ル敵ヲ驅逐シテ Macin, Isaccoa 間ノ連絡ヲ遮斷ス

三、第二次上陸隊<sup>兵力不明ニシテ實</sup>施セラレサリキハ其日夕 Braila ヲリ Macin 支流ヲ溯リテ Ma-

cin ノ北方敵ノ砲兵射程外ニ到リ翌朝同地附近ニ上陸シ第一次上陸隊

ト協力シテ Macin ヲ攻撃ス

黒海海軍支隊ハ Macin ヲ攻撃シ第二次上陸隊ノ揚陸ヲ容易ナラシム

渡河ノ爲毎隻四十人乗ノ船二十五隻及大小種々ノ短艇八十隻以上約

二千人ノ歩兵ヲ一時搭載スルニ足ル砲兵用筏十八隻竝ニ漕手トシテ

備入土民及選拔セル哥薩克兵ヲ Galatz, Braila ニ準備ス

四、兵團ノ主力ハ Braila 附近ニ集合シ上陸隊 Macin ヲ占領セハ直ニ Gececi,

Macin 間ノ道路ヲ修理シ軍橋及改築セル道路ヲ經テ Macin 向ヒ前進ス  
五 Hirsova, Isaacca, Tulcea ノ對岸ニ在ル諸隊ハ各其前面ノ敵ニ對シテ陽動  
ヲ行フ

渡河準備

右ノ計畫ニ基ツキ Galatz 附近ニ在リシ兵團ノ主力ハ六月十二日ヨリ運動  
ヲ始メ十八日步兵第六十五聯隊、步兵第十八師團第一旅團(ドン)哥薩克騎兵  
第二十九聯隊(四中隊)同騎砲兵第四中隊及砲兵第十八旅團(二中隊)工兵半  
中隊ハ Galatz ニ步兵第十七師團步兵第六十五聯隊(步兵第十八師團ノ第  
二旅團)步兵第七十二聯隊ノ一大隊(ドン)哥薩克騎兵第一師團、工兵第五大  
隊(半部)及黑海海軍支隊ハ Braia ニ位置シ兩地ニハ既ニ渡河材料及漕手二  
部ニ分レ渡河ノ準備ヲ完了シ斯クシテ二十一日ニ至レリ  
Cecet 附近ノ架橋點ハ鐵道ノ支線及之ニ連絡セル棧橋ヲ利用シ得可ク撰定  
セラレ既ニ六月十三日先増水ニ因リ流出或ハ洗ヒ去ラレタル鐵道堤ヲ修  
理シ之カ爲ニ長サ約四百七十五米突ノ架柱橋ヲ架設セリ)十八日曳船ニ由

Galatz 附近  
ノ架橋

リ Galatz ヨリ架橋點ニ向ヒ橋礎用ノ筏ヲ運搬シ直ニ架橋ニ著手シ二十一  
日午後五時迄ニ完成ス船橋ノ長サ五百二十五米突ヲ算セリ架橋中其掩護  
ノ爲步兵一中隊ヲ Cecet ニ派遣シ完成後更ニ一中隊ヲ増加シ特ニ夜間歩兵  
第十七第十八師團ヨリ選抜セル小部隊短艇ニ乘シテ汎濫セル低地ニ前進  
シ而シテ橋梁上下流ノ警戒ハ黑海海軍支隊、橋梁ノ右岸ノ守備ハ步兵半中  
隊之ニ任セリ

是ヨリ先兵團司令官ハ其計畫ニ基ツキ二十二日拂曉ニ乘シ第一次上陸隊  
ヲ Bugecu 高地ニ上陸セシムル豫定ナリシカ架橋ノ完成遅延センコトヲ虞  
レ二十日ニ至リ上陸部隊ノ出發ヲ二十三日或ハ二十四日ニ延期スヘキ意  
見ヲ軍司令官ニ具申セシモ渡河竝ニ Macin ノ攻撃ハ二十三日拂曉施行ス  
ヘキ嚴命ヲ得自ラ Galatz ニ赴キ渡河準備ヲ急キ且二十一日夜黑海海軍支  
隊ニ命シ Macin ニ對シ陽動セシム

Bugecu 高地ニ上陸スヘキ第一次上陸隊步兵第六十九及第七十聯隊竝ニ砲

六月二十一日  
陸隊ノ渡河

兵第十八旅團第四中隊ノ半部長少將ジコフハ二十二日上陸ヲ決行スヘキ  
兵團司令官ノ命令ニ接シ左ノ部署ヲ爲セリ附圖第四參照

一、上陸部隊ヲ二梯隊ニ區分シ步兵兩聯隊ヨリ選拔セル各五中隊、砲四門  
ヲ第一梯隊トス

二、第一梯隊ノ步兵ハ二十一日夕迄ニAzacianニ其砲兵ハZatokニ集合シ直  
ニ同地出發汎濫地ヲ經テPlosca湖ニ到リ葦間ニ隱蔽シ月ノ昇ルヲ待  
チ步兵第六十九聯隊ノ五中隊及砲四門ハ高地ノ東北岸漁家附近ニ、步  
兵第七十聯隊ノ五中隊ハBugecu山ノ南麓附近豫想スル敵軍ノ背後ニ  
上陸ヲ終了シ拂曉ヨリ共ニ敵軍ヲ攻撃シ果シテ敵ヲ驅逐スレハBugecu  
山ニ停止シ第二梯隊ノ來著ヲ待ツ

三、第二梯隊第一次上陸隊ノ殘餘ハ第一梯隊ノ掩護ニ依リBugecuノ高地ニ上陸シ第  
一梯隊ト合シGarvanニ向ヒ前進ス

四、渡河ノ爲ニ要スル漕手及舵手ハ步兵ニ在リテハ其隊ノ者ヲ充テ砲兵

ニ在リテハ工兵及哥薩克騎兵ヨリ選拔セル熟練ナル漕手ヲ充ツ

五、步兵ハ外套及背囊ヲ脱シ彈藥九十六發及四日分ノ糧食ヲ携帶ス

六月二十一日ノ夕第一梯隊ハAzacian及Zatokニ於テ乘船ヲ畢レリ少將ジコフハ自ラAzacianニ到リ兩聯隊長ニ先Plosca湖ニ到ル可キコトヲ命シ更ニZatokノ砲兵乗船地ニ向ヘリ

午後七時步兵ヲ載セタル短艇ハAzacianノ集合地ヲ出發シ午後十時Plosca湖ニ集合ス是夜靜穩ニシテ月明ナリシモ夜半ニ至リ陰雲月ヲ蔽ヒ出發ノ機方ニ熟シタリシモ少將ジコフ來ラス是ニ於テ步兵第六十九聯隊長ハ直ニ出發スヘキコトヲ步兵第七十聯隊長ニ協議セシモ飽ク迄同少將ノ來著ヲ待タントシテ之ニ應セス乃チ步兵第六十九聯隊長ハ午前二時四面暗黒ナルニ乘シ獨斷ヲ以テ出發シ電柱ヲ辿リテ指定セラレタル漁家ニ向ヘリ此運動ハ初メ蘆葦ニ隱蔽セラレシモ午前三時Bugecu高地ノ北端ニ達スル比ニ土兵ノ猛烈ナル射撃ヲ受ケ爲ニ一時短艇ヲ退ケ再ヒ葦間ニ避ク此



時船列大ニ混亂シ天明ニ至リ始メテ秩序ヲ回復ス因リテ聯隊長ハ短艇ヲ率キ再ヒ前進シ豫定ノ地點ニ上陸ヲ開始ス時ニ土軍約六百上陸點附近ヲ包圍シテ銃火ヲ集注シ上陸隊ノ危キコト累卵ノ如シ

歩兵第七十聯隊ハ依然 *Ploaca* 湖ニ在リシカ午前三時ニ至ルモ少將ジユコフ來ラス偶 *Bugecu* 高地ニ當リテ熾ナル銃聲ヲ聞クヤ聯隊長ハ今ヤ猶豫スヘキノ秋ニ非スト爲シ豫定ノ上陸點ニ向ヒ出發ス此時少將ジユコフ漸ク來著シ同少將ハ暗夜ノ爲ニ航路ヲ失ヒ步兵第六十九聯隊ニ對スル土兵ノ射撃ニ依リテ始メテ方向ヲ定メ來著セルモノナリ 同聯隊ヲシテ最近ノ航路ヲ取り速ニ上陸シテ步兵第六十九聯隊ニ協力セシム是ニ於テ聯隊長ハ短艇ヲ率キテ *Bugecu* 山ノ西北部ニ上陸シ步兵第六十九聯隊ノ右翼ニ連ナリ共ニ土軍ヲ擊退シ諸隊ハ計畫ニ背キ更ニ之ヲ追撃ス少將ジユコフ之ヲ留メントセシモ傳騎ヲ有セス此間諸隊益前進シ遂ニ *Garvan* 高地前ニ達シ步兵第七十聯隊ハ右翼ニ、步兵第六十九聯隊ハ左翼ニ展開シ高地上ノ敵ニ對シテ攻撃ヲ開始ス土軍ハ該地ニ於テ *Bugecu* 高地ヨリ退却セル部隊ヲ收

容シ尋テ *Micin* ヨリ増援ヲ受ケ今ヤ其兵力步兵約三千、不正規騎兵三百、砲二門ニ達シ勢ヲ得テ露軍ニ向ヒ攻勢ニ轉シ兩軍力戦ス正午頃露軍ノ彈藥將ニ盡キントスルノ時ニ方リ適砲一門來著シ大ニ戰況ヲ挽回シ土軍遂ニ力屈シ南方ニ敗退セリ

是ヨリ先砲兵第四中隊ノ四門ハ九隻ノ筏ニ分乘シ四隻ハ砲、一隻ハ彈藥車、四隻ハ馬匹夕刻同地ヲ出發セシモ葦中ノ進航容易ナラス加フルニ擱坐スルアリテ火砲ヲ搭載セル筏ノミ纔ニ午前八時漁家附近ニ到著シ馬匹ヲ搭載セルモノハ重量ノ爲進航著シク遲緩シ午前十時頃ニ至リ始メテ其一隻ノミ到著ス因リテ直ニ其一門ヲ繫駕シ急行シテ戰鬪ニ參加セシモ爾餘ノ砲ハ遂ニ之ニ及ハサリキ

此戰鬪ニ於テ露軍ノ損害ハ將校七、下士卒百三十二ニシテ其大部分ハ歩兵第七十聯隊ニ屬セリ

*Garvan* 附近ヲ占領シタル後少將ジユコフノ率キル第一梯隊ハ日没迄ニ第

二梯隊ト步兵第六十五聯隊ノ一大隊及砲四門トヲ増加セラレ爾後二十三日迄現在地ニ停止ス

黑海海軍支隊ハ二十二日拂曉 *Maein* 前ニ達シ陽動ノ目的ヲ以テ土軍ノ砲臺ト交戦シ再ヒ *Braila* ニ歸レリ

兵團司令官中將チンメルマンハ二十二日 *Zatok* 附近ノ汽船ニ在リ *Bugecu* 高地ノ露軍ノ有利ナル戦鬪ヲ目撃セシモ第二次上陸隊ヲ *Maein* ニ上陸セシムルヲ頗ル冒險トシ豫定ノ計畫ヲ變更セリ其理由トシテ軍參謀長ニ報告セシ要旨左ノ如シ

*Maein* ニ於ケル土軍ハ著大ナル増加兵ヲ得タリ故ニ従前ノ敵ノ兵力ニ應シテ定メタル計畫ハ今ヤ適當ナラサルニ至レリ本來戦鬪ノ原則ハ臨機應變ノモノナルヤ明ケシ我軍縱ヒ急速ニ *Maein* ヲ占領スルモ同地ヨリ行フ爾後ノ前進ハ *Braila-Maein* 間ノ車道完成ヲ待タサル可カラズ河水ハ目下減退シツツアルヲ以テ二三日ヲ經過セハ著シク減水スルナラン

兵團司令官  
渡河計畫ノ  
變更

六月二十二  
日以後下流  
「ドナウ」兵  
團主力ノ渡  
河

*Maein* ノ占領ハ二三日遅延スルモ別ニ痛痒ヲ感セス兵團ハ減水後車道ニ由リ *Maein* ニ向ヒテ前進シ強大ナル砲兵ヲ使用シ得ヘシ目下ノ情況ニ於テ假裝汽船等ヲ以テ *Maein* ヲ攻撃スルハ甚タシキ冒險ノ處置トス何トナレハ之ニ協力スヘキ少將ジュコフノ部隊ハ *Maein* 北方 *Tijila* 河左岸ニ在ル堅固ナル敵ノ防禦工事ニ衝突スレハナリ加フルニ *Maein* 附近ノ河岸ニハ適當ナル上陸點無ク且該支流ニ敵ノ水雷敷設シ在ルコトハ諸方面ノ情報ニ依リテ明カナリ故ニ予ハ少將ジュコフノ部隊ニ必要ノ兵員彈藥及給養品ヲ送り之ヲ獨立セシムルノ處置ヲ取リツツ在リ

同日 *Bugecu, Garvan* 附近ヨリ退却セシ土軍 *Maein* ノ守備兵ト合シ南方ニ退却スルヤ以下附圖参照同夜在 *Galatz* ノ露軍ヨリ派遣サレタル小部隊ハ直ニ *Maein* ヲ占領シ翌二十三日步兵第六十八聯隊及砲兵第十七旅團第三中隊ノ半部モ曳船用汽船ニ由リ之ニ増加シ二十四日ニハ少將ジュコフノ部隊モ *Garvan* ヨリ來リ合セリ又二十三日 *Isaccu* ノ土軍守備兵二十四日 *Hirsova, Tul-*

露軍ハ直ニ進ンテ此等ノ地點ヲ占領セリ  
 此間第十四軍團ノ主力ハ依然 Braila 附近ニ在リシカ二十四日「ドン」哥薩克  
 騎兵第一師團ハ Donau 河右岸ニ向ヒ渡過ヲ始メ騎兵諸聯隊ハ Braila ノ軍  
 橋ヲ渡リ尋テ尙水中ニ没セシ Gecet-Maciu 道ヲ徒涉シ其砲兵及輜重ハ汽船  
 及「バルク」船ニ由リ共ニ二十六日迄ニ全部 Maciu 附近ニ集合ス因リテ兵團  
 司令官ハ騎兵第一旅團長ノ隷下ニ屬スル騎兵八中隊及騎砲四門哥薩克騎兵第十五聯隊  
第三中隊欠同第十六聯隊ノ第四第五及第六中隊並ニ騎砲兵第十一中隊ノ四門 Isaccea, Tulcea 方向ヲ搜索セシメ騎兵第  
 一師團長ノ率キル哥薩克騎兵十中隊及野砲六門「ドン」哥薩克騎兵第十八聯隊同第十  
 第四第六中隊並ニ「ドン」哥薩克騎砲兵第十六中隊 ヲシテ Babadag ニ前進セシメタリ  
 騎兵第一旅團長ノ率キル部隊ハ二十四日拂曉 Maciu ヲ出發シ午後二時 Isac-  
 cea ニ達シ直ニ Tulcea ニ向ヒ午後十時同地ニ達シ同方面ニ土兵ノ存在セサル  
 ヲ確知シ二十八日騎兵二中隊ヲ Tulcea 及 Isaccea ニ殘シ Maciu ニ歸レリ騎兵

下流「ドナウ」兵團ノ前進

師團ノ主力ハ二十七日朝 Maciu ヲ發シ同日 Cerna ニ翌二十八日午後五時  
 Babadag ニ達シ土軍ノ數日前既ニ同地附近ヲ撤シテ Kustendze ニ退キ防禦工  
 事ヲ爲シツツ在ルコトヲ知レリ  
 此間 Donau 河ハ漸次減水シ Braila-Maciu 道ノ修理モ了リ Braila 附近ニ在リ  
 シ第十四軍團ノ諸隊續々 Gecet ヲ經テ Maciu ニ向ヒ前進ス  
 兵團司令官ハ第十四軍團ノ主力未タ右岸ニ移ラサルニ先タチ諸隊ヲシテ  
 Hirsova 附近ニ向ヒ前進セシメ七月六日夕步兵第十八師團ハ Cadicâsja, Musla  
 附近ニ、步兵第十七師團及「ドン」哥薩克騎兵第一師團ノ主力ハ Cartal ニ達シ  
 騎兵ノ一部ハ其前方 Serikioj, Cucinkioj ノ線ヲ警戒ス又 Gura Jalomitei ニ在リ  
 シ步兵第七十二聯隊ノ一大隊、砲兵第十八旅團ノ一中隊ハ第十四軍團主力  
 ノ Cadicâsja, Cartal ノ線ニ到著スルニ先タチ渡船ニ由リ Hirsova ニ進出シ「ドン」  
 哥薩克騎兵第四十聯隊騎砲二門ハ Calarusi ノ對岸露土兩軍作戰地總圖參照ニ前進シ  
 Oltenița露土兩軍作戰地總圖參照ニ在ル第十一軍團ノ部隊トノ連絡ニ任セリ

下流「ドナウ」河畔ナ  
備兵ノ交代

中將ウレウキンノ率キル部隊ハ第十四軍團ノ Donau 河渡過ト共ニ下流「ドナウ」兵團司令官ノ隷下ヲ離レ Akkerman オデッサノ東南方約七八里露土兩軍作戰地總圖參照ニ到リテ原所屬ニ復歸シ從來同部隊ノ占領セル下流 Donau 河河岸ノ地ハ新ニ中將チンメルマンノ令下ニ屬セル少將アレクサンドロフノ率キル第四軍團ノ歩兵第六十一聯隊、砲兵第十六旅團第一中隊及「ドン」哥薩克騎兵第四聯隊之ヲ占領セリ

四 軍主力ノ Zimnicea 附近ニ於ケル渡河 附圖第五 第六參照

河川偵察

露軍司令官ハ羅馬尼ニ於ケル開進中 Nikopoli, Sistolov 間ニ於ケル軍渡河ノ目的ヲ以テ參謀將校及技術將校ヨリ成ル數個ノ偵察班ヲ差遣シ各班ハ軍ノ目的ヲ成ル可ク祕密ニセンカ爲何レモ五月二十四日早朝ヨリ同時ニ任務ニ著手シ六月一日前後軍司令部ニ歸還ス其主要ナル報告ノ要旨左ノ如シ

一、Olt 合流點附近參謀中佐バエコフ偵察班ノ報告、Olt 河合流點附近ハ大體ニ於テ渡過困難ナリ若シ強テ渡過セント欲セハ先 Nikopoli 要塞

砲ヲ沈黙セシメタル後ニ前岸ノ堡壘ヲ占領シ同地ヲ略取セサル可カラス

一、Zimnicea 附近參謀大佐ナグロウスキー偵察班報告、Zimnicea 附近ハ主

力ノ渡河ニ適當ス

二、Oltentja 附近參謀中佐スコチン偵察班報告、Oltentja 附近ニ有利ナル渡河點アリ故ニ此附近ニハ強大ナル騎兵部隊ヲ渡河セシメ敵ヲ牽制スルヲ可トス而シテ此部隊爾後ノ前進ハ軍主力ノ渡河及下流「ドナウ」兵團ノ前進ニ伴ハシムルヲ要ス

軍司令官ハ當時 Donau 河尙増水セシヲ以テ未タ眞渡河點ヲ確定セサリシモ河水減退セハ迅速且祕密ニ Nikopoli, Sistolov 間ノ適當ノ地點ニ進出スルニ便ナル如ク軍ノ諸隊ヲ前進セシメント欲シ六月十五日頃 發令ノ日詳カナラス 左ノ要旨ノ命令ヲ下セリ 附圖第五參照

一、Oltentja 附近ニ在ル第十一軍團「ドン」哥薩克騎兵第三十一聯隊共ハ中

軍主力ノ渡河地域ニ前進

將スコベレフノ率キル部隊 狙撃歩兵第四旅團 哥薩克歩兵二中隊 舊ト交代シ Vede 河口ヨリ Calarasi 迄ヲ守備スヘシ之カ爲步兵第三十二師團第二旅團及騎兵第十一師團第一旅團ヲ Giurgevo ニ派遣シ Vede 河口ヨリ Greclior 湖ニ至ル間ヲ又歩兵第三十二師團第一旅團及騎兵第十一師團第二旅團ヲ Otenija ニ出シ Greclior 湖ヨリ Calarasi ニ至ル間ヲ警戒セシメ歩兵第十一師團ヲ豫備隊トシ Budesci (Otenija) ノ西北方約二十五吉米) Fratesci (Giurgevo) ノ北方約十吉米)ノ線ニ位置セシム可シ 實施ニ方リテ歩兵第三十二師團ノ全部ハ Otenija ニ位置シ豫備隊ハ歩兵第十一師團第一旅團ヲ如何ニシテ此變動ヲ來セシヤ明ラカナラス 哥薩克騎兵第三十一聯隊ノミト爲レリ

軍團ハ Bukarest ヲ掩護シ尙敵ノ Giurgevo 或ハ Otenija 附近ニ於テ左岸ニ移ラントスル企圖ヲ妨ケ且 Giurgevo 上流 Paraipani 附近ニ河岸砲臺ヲ設ケテ水雷沈設ノ地ヲ掩護シ又 Turtukai 附近ニ於テ土軍ヲ牽制スルト共ニ軍主力右岸ニ渡河後 Ruscuk ニ接近セハ Turtukai ヲ占領シ Ruscuk—Varna 鐵道線ヲ偵察シ且之ヲ破壊スヘシ

下流「ドナウ」兵團ト連絡ヲ保持スヘシ

一、第八軍團騎兵第八師團 同師團ハ依然 Olta, Vede 兩河口 欠第九第十二軍團舊高

加士騎兵師團及狙撃歩兵第四旅團ハ遅クモ六月二十三日迄ニ左ノ如ク位置スヘシ 行軍ニ關スル細部ノ規定ハ計畫表ニ於テ指示セルモ之ヲ詳ニセス

歩兵第三十一師團及騎兵第九師團ハ Segarcea 西北方約十吉米 六月二十日迄ニ更ニ

師團及「ドン」哥薩克騎兵第三十四聯隊ハ Kosi de Vede 命令ヲ受ケサレハ更ニ

ガルツハカ 到リ第九軍團ノ主ニ、第十二軍團 騎兵第十二師團ヲ缺キ「ドン」哥薩克騎兵第三十七聯隊ヲ附ス 布爾牙利民

カニ合スヘキモノトス 兵六大隊 布爾牙利國ヨリ露領内ニ奔リ來レル同國ノ民兵ヲ以テ編組セルモノニシテ

名譽徒歩中隊(各歩兵聯隊ノ過員ノ下士ヲ以テ編成シタルモノ)之カ基幹ト爲

リハ Salcia 北方約二十吉米 歩兵第十四師團「ドン」哥薩克騎兵第二十三

聯隊、烏拉爾哥薩克騎兵中隊、工兵第七大隊ノ二中隊及架橋兵第三第

四第五第六大隊ハ Segca (Segca) 東方約十吉米 歩兵第九師團 歩兵第三十五

聯隊及砲兵第九旅 狙撃歩兵第四旅團(哥薩克歩兵二中隊、山砲兵第一第二

團ノ第三中隊欠) 中隊共)ハ Petra (Petra) ニ騎兵第十二師團ハ Vianesci Alexandria ノ東附近ニ、

北方約十吉米

高加士哥薩克騎兵師團ハ *Zimnicea* ニ  
 第十三軍團 *Hukarest* 行軍中ニ在リハ續テ *Alexandria* ニ向ヒ前進シ同地ニ於テ軍總  
 豫備隊ト爲ルヘシ

諸隊ハ前記命令ニ基ツキ六月十七日其大部運動ヲ始ム此時軍司令官ハ突  
 然軍交通部長ヨリ車輛ノ缺乏ト時機ヲ失セス空列車ヲ運轉スルコト能ハ  
 サルトニ因リ架橋廠ノ到著ハ豫定ノ期日(六月十八日)ヨリ二日間遅延スヘ  
 シトノ報告ニ接シ渡河ノ企圖ヲ過早ニ敵ニ發覺セサランカ爲三日間行進  
 ヲ停止シ二十六日迄ニ前記指定ノ地ニ到著セシメント欲シ直ニ左ノ要旨  
 ノ命令ヲ下セリ

軍主力ノ前  
 進中止

- 一、步兵第三十一師團及騎兵第九師團ハ二十一日、二十二日ノ兩日ニ *Slatina* 出發スヘシ
- 二、步兵第五師團(ドン)哥薩克騎兵第三十四聯隊共及第十二軍團騎兵第十  
 二師團ヲ除キ(ドン)哥薩克騎兵第三十七聯隊及布爾牙利民兵諸大隊ヲ

屬ス) *Rosi de Vede* ヲ先頭トシテ停止スヘシ

三、步兵第九師團ハ *Alexandria* ニ停止スヘシ

四、騎兵第十二師團ハ二十二日 *Copieeni* ヲ出發スヘシ

五、步兵第十四師團、狙撃歩兵第四旅團(ドン)哥薩克騎兵第二十三聯隊ハ *Beia*

*Alexandria* 南方約十五吉米ニ集合スヘシ

六、高加士哥薩克騎兵師團第一旅團ハ *Gogosari* 東方約十吉米ニ在リニ同第一旅團ハ

*Alexandria* ニ停止スヘシ

七、全部ノ架橋廠ハ *Banasa* ニ到著後直ニ前進シテ二十四日必ス *Beini* ニ集

合スヘシ

右ノ命令ニ基ツキ諸隊ハ二十二日夕各其先頭ヲ以テ *Vede* 河畔ニ停止シ

第五 參照 後命ヲ待テリ

軍司令官ハ是ヨリ先六月二十日午後 *Donau* 河漸次減水セシヲ以テ自ラ渡  
 河點ヲ精細ニ偵察セント欲シ參謀長及參謀次長ヲ隨エ鐵道ニ由リ *Ploesci*

渡河點ノ決  
 定

ヨリ Bukarest ニ向ヒ軍司令官ハ旅行ノ目的ヲ軍ノ幕僚ニモ告知セス出發セリト云フ 同地ニ在ル羅馬尼ノカール公  
 ヲ訪問シ夜間密ニ此地ヲ去リ尋テ Zimnicea ヨリ Turnu Magurele ニ至ル間ヲ  
 偵察シ Turnu Magurele ニ於テ軍參謀長、參謀次長、砲兵部長、工兵部長及步兵第  
 十四師團長少將ドラゴミロフヲ會シ軍議ヲ開キ Zimnicea 附近ニ於テ渡河  
 スルニ決セリ

得タル情況

當時露軍司令部ノ知り得タル所ニ因レハ Zimnicea 附近ニ在ル土軍ノ兵力  
 ハ Sistol 附近ニ步兵一大隊、騎兵一中隊、砲二門(約七百七十人) Vardim 附近  
 ニ步兵五大隊、砲四門(約三千三百三十人)ニシテ此部隊ニ増援スル顧慮アル  
 部隊ハ約四十吉米ヲ隔ツル Nikopoli ニ九千八百人、約六十吉米ヲ隔ツル Ru-  
 scuk ニ二萬千二百人、約七十吉米ヲ隔ツル Trnova ニ四千人アリ露軍ノ此兵力  
 判斷ハ實際ト  
 大差ナキ又 Sistol 附近ニ砲六門ヲ備フヘキ二個ノ砲臺、Vardim 西南ノ山上ニ  
 之ト同況ノ一砲臺アルモ備砲無キカ故ニ必要ノ時機ニ至リ野砲ヲ以テ裝  
 備スルナラン以下附圖  
 第六參照

渡河點附近  
ノ地形

Donau 河ハ Zimnicea 及 Sistol ノ間ニ於テ其幅約千八百米突、流線ハ右岸ニ  
 近ク河水最高最低ノ差約五米突、八流速一秒時間河水ノ増減ニ應シ一米突  
 五乃至二米突、トス河ノ左岸ハ増水間 Zimnicea ノ南側ニ至ル迄河床悉ク  
 満水セシモ當時大ニ減水シ連續セル晴天ノ爲ニ汎濫地ハ車輛ヲ除ク外人  
 馬ノ行進シ得ルノ望アリ Zimnicea ハ河岸ヲ距ル千五百米突、地勢稍高起シ  
 其南側ニ Pacere ノ運河アリ一小渠ヲ以テ Donau 河ニ通シ鐵舟等ノ流下ニ  
 適ス Zimnicea ノ南側奥國稅關所附近 Pasere 運河上ニ一杭橋アリ之ニ連接  
 シテ凸道アルモ河水汎濫ノ時ニ破壊シ使用スルヲ得ス河中ニ Bugrescu,  
 Adda 島アリ架橋竝ニ架橋材料集積等ニ利用スルヲ得ヘシ河ノ右岸ニハ  
 河岸ニ近ク一帯ノ高地アリテ左岸ヲ瞰制シ河岸ハ急峻ナル斷崖ヲ成シ基  
 脚ニハ狹小ナル砂地ヲ存スルノミ該高地上ニハ葡萄及果樹園又ハ矮樹等  
 散在シ軍隊ノ運動困難ナリ Sistol 附近ニハ棧橋アリ鑿開道之ニ通シ其東  
 方ニハ若干ノ徒步道存在セシカ如シ Sistol ノ下流約二吉米ニ Tekin-dere 河

ノ河口アリテ小船ノ出入ニ便ナリ

Sistov ハ高地ノ半腹深谷ノ間ニ位置シ街衢ハ陂陀ノ間ニ起伏シ同市南方

ノ山頂ハ一面ニ左岸ヲ瞰制シ Zimnicea モ亦其眼下ニ在リ同市ノ防備ハ土

壘又ハ木柵ヲ以テ圍繞セル一個ノ古城ニシテ威力アルモノニ非ス

軍主力渡河ノ部署

軍司令官ハ六月二十二三日頃 Zimnicea 附近渡河ニ關シ左ノ部署ヲ定ム

第五

附圖

一第十四師團長少將ドラゴミロフハ步兵第十四師團狙擊步兵第四旅團

(哥薩克步兵二中隊、山砲第一第二中隊共)近衛混成步兵一中隊

代表者「ドン」哥薩克騎兵第二十三聯隊、合計步兵十六大隊ト四分ノ二、騎

兵六中隊及砲六十四門ヲ指揮シテ渡河掩護ニ任シ諸隊ニ先タチ Do-

nav 河ヲ渡過スヘシ之カ爲六月二十五日夕迄ニ Zimnicea ニ集合シ二

十六日拂曉ヨリ渡河ヲ開始スヘシ集合行軍ハ夜暗ニ於テシ敵ノ注意

ヲ避クルヲ要ス

二工兵第三旅團長少將リヒテルハ架橋兵第三第四第五及第六大隊、豫備

工兵一中隊、黑海海軍支隊及烏拉爾哥薩克騎兵一中隊

漁業ニ従事シ漕艇ニ巧ミナリ

ヲ指揮シ架橋廠ノ諸材料竝ニ Oltu 河ヨリ搬送スヘキ諸

材料ヲ以テ Zimnicea 附近ニ於ケル架橋及掩護隊ノ渡河ニ任スヘシ

三第九軍團ハ步兵第三十一師團ノ一旅團、砲兵第三十一旅團ノ三中隊(九

斤砲)及砲兵第五旅團ノ一中隊(九斤砲)ヲ Turnu Magurele ニ殘シ爾餘ノ諸

隊ハ Secca ニ集合スヘシ

是ヨリ先步兵第三十一師團ノ步兵第百二十三聯隊ハ架橋材

料ノ準備ニ任シ Slatina ニ殘留セシヲ以テ Turnu Magurele ニ集合

スヘキ步兵第三十一師團ハ步兵第百二十四聯隊ト砲兵第三十一旅團ノ三中隊ノミトス

但シ騎兵第九師團(龍騎兵第九聯隊

欠ハ)騎兵第八師團(龍騎兵第八聯隊)ト交代スヘシ

此交代ハ渡河實行ノ夜間ニ於テセリ

四第十二軍團(ドン)哥薩克騎兵第三十七聯隊共及布爾牙利民兵諸大隊ハ

Voivoda (Furculesci) 及 Grosca ニ赴クヘシ

五步兵第九師團

Zimnicea ニ派遣セル步兵第三十五

聯隊及砲兵第九旅團第三中隊欠

ハ Patra 行軍ヲ繼續シ同地ニ

於テ後命ヲ待ツヘシ



六、第十三軍團ハ Alexandria ヨリ Prunosa (Bein) ノ東南方約十吉米ニ到ルヘシ

七、高加士哥薩克騎兵師團第一旅團ハ更ニ命令アル迄 Beinニ停止シ同第二旅團ハ六月二十五日 Alexandria 出發二十六日ノ夜 Zimnicea ニ到着スヘシ

八、騎兵第八師團ハ騎兵第九師團ト交代シ Piatra ニ到ルヘシ  
軍司令官ハ尙土軍ヲ眞渡河點以外ニ牽制スルノ目的ヲ以テ Nikopoli, Ruscuk 對岸ノ攻城砲兵ニ各其當面ノ要塞ヲ羅馬尼軍ニ Vidin 要塞ヲ共ニ二十六日ヨリ三日間砲撃セシメ又歩兵第三十五聯隊砲兵第十四旅團第一第二第三中隊砲兵第九旅團第二第三中隊ニ渡河掩護ノ目的ヲ以テ Zimnicea 附近 Donau 河左岸ノ地竝ニ Bugirecu 島ヲ占領セシム而シテ軍司令官ハ以上ノ部署ヲ命令スルニ當リ敵ノ間諜ニ對シテ眞渡河點ヲ過早ニ發覺セサラシメンカ爲頗ル注意セリ即チ少將ドラゴミロフ及少將リヒテルニ與ヘシ命

軍力ノ渡河點附近ノ集合

令ノ如キハ各個ニ受令者ニ口達シ又二十六日晝間軍司令官ハ Turnu Mare Sureleニ於テ皇帝ニ第九軍團ヲシテ同地ニ於テ渡河セシムヘキコトヲ上奏シ同日夕 Dyrcea ニ宿營シ始メテ眞渡河點ヲ上奏セリ  
實際第九軍團長ハ二十七  
日軍ノ先頭トシテ Szegetヨ  
リ Nikopoliニ向ヒ渡河スヘキモノト信シ Nikopoliノ對岸ニ前  
進シ同地ニ著後其動作カ欺騙ノ爲メナリシコトヲ知レリ  
軍司令官ノ部署ニ基ツキ歩兵第十四師團長少將ドラゴミロフノ率キル部  
隊ハ三梯隊ト爲リ Beinヨリ夜間ヲ利用シテ前進ヲ始メ第一梯隊(狙撃歩兵  
第四旅團)第十四大隊 該大隊ハ先行シ 欠)哥薩克歩兵二中隊(ドン)哥薩克騎兵第二  
十三聯隊、山砲第一第二中隊)ハ二十四日午前三時出發翌二十五日拂曉 Zim-  
niceaニ、第二梯隊(歩兵第十四師團第一旅團、近衛混成歩兵中隊、砲兵第十四旅  
團第一第二第三中隊)ハ二十五日午後二時發同夜 Zimniceaニ、第二梯隊(歩兵  
第十四師團第二旅團、砲兵第十四旅團第五第六中隊 第四中隊ハ Zim-  
niceaニ先行セリ)ハ二十五  
日午後五時發二十六日拂曉 Zimniceaニ到着シ架橋廠ハ二十四日夕 Bein發  
二十五日早朝 Zimniceaニ著セリ其他第八第九第十二第十三軍團ノ諸隊モ

左岸渡河掩護部隊ノ陣地占領

亦二十六日夕各命令ノ地點ニ到著シ其最モ遠隔セル部隊ニ在リテモ渡河點ヲ距ルコト四十吉米ニ出テサルニ至レリ以下附圖第六參照

*Zimnicea* 附近ニ於テ渡河ノ掩護ニ任スヘキ諸隊ハ二十六日午後十一時半迄ニ步兵第三十五聯隊ノ第五第六中隊ヲ以テ *Bugirescu* 島ヲ占領シテ架橋兵諸大隊ノ作業掩護ニ任シ砲兵第十四旅團ノ第一第二第三中隊ハ右翼ヲ以テ汽船碇泊所ニ接シ對岸ヲ射撃シ得ヘキ陣地ヲ占領シ步兵第三十五聯隊第一大隊及砲兵第九旅團ノ第二第三中隊ハ其下流三吉米ニ位置シ渡船ヲ援助シ且同處ニ沈設スヘキ水雷ノ掩護ニ任シ二十八日夜近衛船員支隊ハトリス島附近豫定架橋點ノ上下流ニ水雷沈設ヲ實施セリ 步兵第三十五聯隊第三大隊ハ前記兩部隊ノ中間地區ニ位置セリ

工兵第三旅團長少將リヒテルハ是ヨリ先 *Zimnicea* ノ渡河點未タ決定セラレサルニ先タチ六月十九日既ニ渡航ニ關スル計畫ヲ爲セリ其要旨左ノ如シ

渡航準備

一、架橋兵第三第四及第五大隊ハ各一隻半ノ船ヲ組合セタルモノ十二隻、

單船八隻宛ヲ同第六大隊ハ一隻半ノ船ヲ二個組合セタル門橋六隻、單船八隻ヲ渡航用トシテ供給スヘシ一大隊ノ架橋廠ニ有スル半形舟ハ五十六個ニシテ半形舟二個ヲ以テ一單船ヲ作ル

二、凡テ一隻半ノ船ヲ組合セタルモノニハ漕手八名各船ニハ舵手二名及木栓囊破壊口閉鎖ノ用ニ充ツルモノトス準備セル木栓ハ實際ノ時ニハ用ヲ爲ササリキ破壊口ハ概ネ不正ナリシカ故ナリヲ携行スル架橋兵一名ヲ附スヘシ

三、一隻半ノ船ヲ組合セタル渡航具ハ步兵四十五名ヲ、單船ハ三十名ヲ收容ス故ニ百八十人ヲ有スル一中隊ハ一隻半ノ船ヲ組合セタルモノ四個或ハ單船六隻ヲ要ス是ヲ以テ架橋兵第三第四及第五大隊ハ毎回各步兵四中隊ヲ、同第六大隊ハ毎回單船ヲ以テ步兵一中隊ヲ、門橋ヲ以テ騎兵六十騎、砲兵一中隊(八門)ヲ渡航セシメ得ヘシ

四、各大隊ハ二隻ノ單船ヲ豫備トシ之ヲ救助又ハ聯隊長以上高級指揮官ノ渡航ニ充用ス

尋テ同少將ハ實施ニ先タチ乘船、渡航及敵岸ニ於ケル上陸ノ順序方法等ヲ

細密ニ規定シ Zimnicea ヨリ Donau 河邊ニ至ル道路ヲ修理シ且二十五日夜暗ニ乘シ Zimnicea ノ南側 Pacere 運河上ノ杭橋ヲ修築シ別ニ其南方二小池上ニ各一架柱橋ヲ架設セリ

架橋兵第三第四及第五大隊ハ少將リヒテルノ訓示ニ依リ六月二十六日午後九時 Zimnicea 南側ノ水流上ニ船ヲ卸シ小渠ヲ經テ之ヲ Donau 河ニ流下シ Bugirescu 島同島ニハ步兵第三十五聯隊第五第六中隊既ニ陣地ヲ占領シ掩護ニ任セリニ掩護セラレテ河岸ニ配列シ架橋兵第六大隊ハ門橋ヲ組立テタル後支流ヲ下リテ汽船碇泊所ノ近傍ニ配列ス

渡河掩護隊  
ノ渡河及右  
領地ノ占

少將ドラゴミロフハ六月二十六日早朝部下諸隊長ヲ集合シ今夜渡河ヲ實行スヘキコトヲ告知シ且豫定上陸點ヲ Tekir-dere 河ノ河口ニ定メ且各隊長ニ訓令シテ曰ク航行中ハ如何ナル場合ニ於テモ船内ヨリ射撃ス可カラス上陸後ハ銃劍ヲ以テ河岸上ノ敵ヲ驅逐スヘシ尙附言シテ曰ク戰鬪ノ目的ハ Siatov 高地ヲ占領スルニ在リト此時ニ方リ各隊長ハ對岸ニ只薄弱ナル

哨兵線ヲ メルヂム 附近ニ小野營ノ天幕アルヲ目撃シ一般ニ從來ノ情報ノ確實ナルヲ信セリ

二十六日午後五時頃ヨリ少將ドラゴミロフノ率キル部隊ハ Zimnicea ニ於テ乗船ノ爲諸隊ノ區分ニ著手シ之ヲ七梯隊ト爲ス各梯隊ハ船ノ收容數ニ應セシメンカ爲ニ步兵十二中隊騎兵六十騎及砲八門トシ第一梯隊ノ乗船ヲ午前一時ト定メ爾後各梯隊ハ約二時間ヲ隔テテ乗船地ニ到著セシム航渡一回ノ往復ヲ二時間ト豫定セリ

第一梯隊ハ步兵第五十三聯隊長大佐ロヂオノフノ指揮スル步兵第五十三聯隊第一第二大隊十中隊同第三大隊ノ撤兵中隊哥薩克步兵一中隊ドン哥薩克騎兵第二十三聯隊ノ六十騎及山砲第二中隊計人員約二千五百ヨリ成リ梯隊長ハ渡航開始ニ先タチ撤兵第一中隊第一大隊所屬ハ Tekir-Dere 河ノ西方地區ニ於テ右翼ヲ以テ Donau 河ニ接シ Siatov ニ正面シテ陣地ヲ占領シ同第二中隊第二大隊所屬ハ Tekir-Dere 河ノ西岸ニ沿ヒ左翼ヲ以テ Donau 河ニ接シ

Yardim<sup>ヤルヂム</sup>ニ正面シテ陣地ヲ占領シ哥薩克步兵中隊ハ前記兩中隊ノ中間地區ニ於テ南面シテ陣地ヲ占領シ撤兵第三中隊<sup>第三大隊所屬</sup>ハ哥薩克步兵中隊ノ後方ニ於テ豫備隊ト爲リ爾餘ノ諸隊ハ占領地内ノ後方ニ集合スヘキ區處ヲ爲セリ

第一梯隊ハ午後十一時 Zimicea<sup>ジミツキヤ</sup>ヲ發シ午前一時乘船地ニ達ス此時乘船用諸船ハ渡河ノ準備ヲ終了セシニ因リ同梯隊ハ之ニ乘船シ午前三時稍前舳艫相衝ミテ進航ヲ始メAdda<sup>アツタ</sup>島ノ東岸ヲ廻リ Tekir-Dere<sup>テキルデレ</sup>河ノ河口ニ向フ是夜月明アリシモ航行途中風起リ暗雲月ヲ蔽ヒ數百挺ノ權響ハ風聲ニ遮ラレ幸ニ敵歩哨ノ注意ヲ受ケサリシモ之カ爲航船ノ秩序亂レAdda<sup>アツタ</sup>島迂回ノ際最先頭ノ船ト砲兵ヲ積載セル門橋二隻砂洲ニ擱坐シ本流ニ出ツル比ニ風浪漸ク激シク各船相散亂ス然レトモ對岸ヲ距ル二三百步迄ハ土軍哨兵ノ認ムル所ト爲ラスシテ接近シ同處ニ到リ始メテ其射撃ヲ受ケシモ諸船皆命令ヲ格守シ應射セスシテ航行ヲ繼續シ大ナル損傷ヲ受クルコト無ク

一部ハ豫定ノ上陸點ニ大部ハ其上下流ニ著岸シ直ニ上陸ヲ開始セリ而シテ撤兵第一中隊ハ午前三時過キ最先ニ小河ノ西方約五百米突ノ地點ニ著岸シ各兵土工具及引綱ヲ以テ互ニ相扶助シテ急峻ナル河岸ヲ攀登シ尋テ西方ニ約二百步ヲ前進シ豫定ノ如ク西面シテ陣地ヲ占領シ第一第三中隊ノ一部モ亦其近傍ニ著岸シ之ニ合セリ又哥薩克步兵中隊ハ撤兵第一中隊ノ上陸點ヨリ東方二三百步ノ地點ニ上陸シ約五百米突前進シ南方ニ正面シテ陣地ヲ占メ撤兵第三中隊ハ前記諸部隊ト殆ト同時ニ小河ノ入口ニ相接近シテ上陸シ中隊長ハ一部ノ兵ヲ率キテ急ニ土軍ノ哨舍ヲ襲ヒ其哨兵ヲ驅逐シテ小河ノ左岸ニ沿ヒ東面シテ陣地ヲ占領ス此際土軍狼火桿ニ點火シ急ヲ報セリ

第一梯隊爾餘ノ諸隊中第七第八中隊ハ河口ノ西方約二百步ニ第四第五中隊ハ河口ニ撤兵第二中隊及第二中隊ノ大部分ハ曩ニ撤兵第一中隊ノ上陸シタル地點ニ又第六第一第二第三中隊ト撤兵第二中隊ノ一部ハ同地ノ稍

東方ニ上陸シ旅團長少將ヨルシンモ亦諸隊ト共ニ上陸セリ午前三時半頃第一梯隊ノ諸隊ハ第一中隊ノ半部、撒兵第一中隊及第二中隊ノ半部、第三中隊ヲ以テ西正面ヲ、第六中隊ノ半部、哥薩克步兵中隊及第八中隊ヲ以テ南正面ヲ、第六中隊ノ半部、撒兵第二第三中隊及第五第七中隊ヲ以テ東正面ヲ占領シ第一第二中隊ノ各半部及第四中隊ハ豫備隊ト爲リ中央後ニ位置シ哥薩克騎兵六十騎ハ ルステツク Ruschukニ通スル電信線破壊ノ目的ヲ以テ先遣セラレ又河口ノ西方約四百米突ノ地點ニ於ケル峻坂ノ開鑿ハ直ニ著手セラレタリ此時山砲中隊ハ未タ到著セサリキ

天漸ク明ケントス撒兵第三中隊長ハ其陣地小河ノ右岸高地ヨリ瞰制セラ  
ルルヲ知り直ニ中隊ヲ率キ前進ヲ始メ將ニ小河東岸高地上ニ登ラントス  
ルヤ會右側及背後ヨリ土軍ノ攻撃ヲ受ケ中隊ハ直ニ背面シ銃劍ヲ以テ敵  
ニ突貫シ撒兵第二中隊モ亦之ニ參加シ茲ニ深谷内ニ於テ激烈ナル戰鬪起  
リ撒兵兩中隊ハ遂ニ優勢ナル敵ニ包圍セラレテ危機瞬間ニ迫レリ適山砲

二門揚陸シ土軍哨舎ノ傍ニ放列ヲ布キ高地上ニ在ル土軍ノ増加兵ヲ射撃  
シ其前進ヲ中止セシメ殘餘ノ四門モ亦來著シ 同中隊ノ二門ハ渡航中其門橋敵  
彈ノ爲ニ貫通セラレ沈没セリ 撒  
兵兩中隊ニ協カス然ルニ土軍モ亦増加兵ヲ得露軍ノ戰況益不利ニ傾ク暫  
クシテ第五第七中隊及第六中隊ノ半部ハ兩撒兵中隊ノ右方ヨリ土軍ヲ衝  
キ爲ニ露軍辛ウシテ現在地ヲ支持スルヲ得タリ

是ヨリ先第八軍團長中將ラデツキーハ乘船地ニ在リテ渡河ヲ迅速ナラシ  
メンカ爲乘船地ヲ既定乘船地ノ下流約二吉米ニ移シ先歩兵ノミヲ中隊ニ  
區分シ船ノ復歸スル毎ニ發進セシム乃チ近衛混成歩兵中隊ニ次テ歩兵第  
五十三聯隊第三大隊ノ諸中隊發進ス時方ニ天明ニシテ是時 シタフ Sitarov 砲臺(一  
門)及 ヴァルディム Vardim 砲臺(四門)ヨリ突然渡航部隊ニ對シ射撃ヲ開始シ其勢ヒ猛烈ナ  
リ是ニ於テ ドナウ Donau 河左岸ノ露軍砲兵モ亦之ニ應射シ渡河ヲ掩護ス時ニ一  
隻ノ土國假裝戰鬪汽船下流ヨリ來航セシモ砲兵第九旅團第二第三中隊ノ  
砲火ヲ受ケテ退却シ近衛混成歩兵中隊及歩兵第五十三聯隊第三大隊ハ損

害ヲ蒙ルコト無ク Tokir-Dere 河口ノ東方數百米突ノ地ニ上陸シ直ニ第一梯隊東正面ノ危険ニ迫レル戰鬪ニ參加シ尋テ步兵第五十四聯隊ノ撤兵中隊及第三大隊モ亦來リ會ス同隊ハ是ヨリ先歩兵第五十三聯隊第三大隊ニ續テ渡航ヲ開始セシカ途中深谷ノ東岸ニ在ル土軍ノ一部ヨリ小銃火ヲ蒙リ其一隻ハ沈没シ二隻ハ悉ク漕手ヲ失ヒテ左岸ニ流サレ同大隊ノ死傷續出シ就中撤兵中隊ヲ載セタル船ハ多大ノ損害ヲ受ケシモ合流點ノ下流約五百米突ニ在ル岬ニ第一ニ著岸シ懸崖ヲ登リテ直ニ敵ニ突撃シ步兵第五十四聯隊爾餘ノ諸隊モ續々來著シテ戰鬪中ノ東正面友軍ニ増援シ午前六時頃遂ニ土軍ヲ撃退セリ

是ヨリ先西正面ニ在リテモ撤兵第一中隊ニ向ヒ土軍前進シ來リ互ニ火戰ヲ交ヘシモ午前六時頃東正面ノ戰鬪有利ト爲リシニ因リ他方面ニ在リシ諸中隊ノ増援ヲ受ケテ之ヲ擊攘セリ

南正面前ニ於テハ毫モ敵兵ヲ見サリシカ故ニ同方面ノ諸中隊ハ東正面ノ

戰鬪ニ參加セントシ左方ニ旋回運動ヲ始メシモ敵兵既ニ退却セシヲ以テ再ヒ舊位置ニ復歸セリ

午前六時頃少將ドラゴミロフ右岸ニ到著シ戰鬪ノ情況ヲ知ルヤ諸隊ノ暴進ヲ危険トシ之ヲ停止セシム 當時騎兵ノ全部ハ南方ニ派遣セラレ諸隊長及副官ノ馬匹モ一時左岸ニ留置セラレ在リシカ故ニ命令傳達ニ長時間ヲ要セリ

渡航ハ其後續々實施セラレ左岸ニ在ル砲四十八門 砲兵第九旅團ノ第一中隊モ此方面ニ増加セラレタリハ依然 Sisov, Yandina 砲臺ヲ熾ニ射撃シ十一時ニ至リ少將ドラゴミロフノ指揮スル部隊ノ大部ハ渡河ヲ了リテ右岸ニ集合セシニ依リ同少將ハ步兵第二旅團、狙撃歩兵第四旅團ヲシテ Sisov 東方高地ヲ占領セシム乃チ兩旅團ハ午前十一時過キ攻撃ヲ開始シ午後二時頃高地ヲ占領シ三時更ニ Sisov ヲ占領ス此夜歩兵第二旅團ハ Sisov 及其西南地區ニ、狙撃歩兵第四旅團ハ同地ノ東方及東南方諸高地ニ、歩兵第一旅團ハ Yandina ニ對シ上陸點附近ニ在リテ夜ヲ徹ス 午前十一時三十分頃 Handada ヲリ分捕汽船一艘「バルク」船二艘到着セシ爲渡航著シク進捗セリ

步兵第九師團ノ渡航開始

此日露軍ノ損害ハ將校二十名、下士卒七百八十二名ナリ  
步兵第九師團ノ諸隊ハ午後三時頃ヨリ少將ドラゴミロフノ部隊ニ續テ渡航シ二十七日夕迄ニ同師團ノ歩兵四聯隊、砲兵第十四旅團第一中隊、同第九旅團第六中隊ハ右岸上陸點附近ニ集合セリ是ニ於テ右岸ニ在ル露軍ノ兵力ハ歩兵二十八大隊ト三中隊、野砲十六門、山砲十四門、哥薩克騎兵六十騎ヲ算セリ

二十八日架橋隊ハ架橋ヲ開始シ架橋ニ關シテハ後文ニ詳述ス右岸ノ部隊ハ尙續々渡航セル部隊之ヲ增加ス此日軍命令ニ依リ右岸部隊ハルスタツク Ruseuk 要塞ニ對シテ獨立セル二個ノ部隊ヲ前進セシム一覽圖第二參照即チ少將デロヂンスキーノ率キル歩兵第三十六聯隊、砲兵第九旅團第六中隊ハ此日朝指定セル Vardinノ東南方高地ヲ占領シ中將スワヤトポール、ミルスキーノ率キル歩兵第三十四第三十五聯隊及砲兵第十四旅團ノ一中隊ハ戰ヲ交エスシテ指定ノ Vardinノ高地ヲ占領セリ同地ニ在リシ砲四門ヲ有スル土軍ハ是ヨリ先既ニ該地ヲ撤去シ Dalaニ退却セリ斯クテ歩兵第十四師團及狙

六月三十日夕渡河部隊ノ兵力

擊歩兵第四旅團ハ Carevec, Sislovノ線ヲ歩兵第九師團ハ Vardin, Carevecノ線ヲ占領スルニ至レリ

二十八日ヨリ三十日ニ至ル間ニ於テ渡航ニ由リ右岸ニ移リタル部隊ハ歩兵第三十五師團及哥薩克騎兵第二十三聯隊竝ニ輜重ノ一部第八軍團及歩兵第三十五師團所屬ニシテ三十日夕右岸ニ在ル露軍ノ兵力ハ歩兵四十大隊ト三中隊、騎兵六中隊、野砲六十四門及山砲十四門ヲ算シ一時第八軍團長ノ令下ニ屬セリ  
露軍ハ既ニ右岸ニ在ル渡河部隊ヲ以テ架橋掩護ヲ爲スニ足レリトセシモ騎兵ノ兵力ニ乏シク土軍ノ情況不明ナリシヲ以テ哥薩克騎兵師團ヲシテ Donau 河ヲ泳キテ渡ラシメントセシモ試驗ノ結果奏功ノ望ミ無カリシヲ以テ之ヲ止ム

七月一日第八軍團及歩兵第三十五師團輜重ノ殘部續テ渡河セシモ爾後汽船及數多ノ船ハ架橋ノ用ニ供セラレ渡航ノ效程大ニ減少セリ然ルニ七月一日軍橋完成シ二日右岸部隊ニ屬スル砲兵及輜重ハ橋梁ニ由リテ右岸ニ

渡リ爾後軍ノ主力モ亦續々軍橋ニ向ヒテ前進セリ

步兵第十四師團ハ *Sistov* 高地上ニ橋頭堡ヲ設クヘキ任務ヲ受ケ七月四日

ヨリ防禦工事ニ著手セシモ工事未タ完了セサルニ先タチ前進運動ニ就ケ

リ七月末 *Trabzon* 第一會戰ノ失敗後ニ至リ此作業ヲ再興セシモ戰爭終局ニ至ル迄竣工スルニ至ラザリキ

*Zimnicea* 附近ノ架橋

是ヨリ先中部 *Donau* 河方面ノ架橋用材料トシテ第一回ニ *Olta* 河口ニ集合

セル諸材料ハ六月二十六日ヨリ *Zimnicea* ニ向ヒ輸送ヲ開始ス即チ同夜百

隻ノ木船ハ工兵第五大隊ノ二中隊水兵若干輸送ニ任シ軍工兵部長少將 *テップ* ハ大隊長ト

共ニ最先船ニ輸送指揮官海軍大尉ノボシルスキーハ最後尾ノ船ニ坐乗セリ *Olta*

ト河口ヲ離レ *Nikopoli* 前ヲ過キ窃ニ本流ヲ下レリ同處ノ土軍之ヲ認メテ

銃砲火ヲ開キシモ船ノ後尾既ニ同處ヲ去リシ頃ニシテ毫モ損害ヲ蒙ルコ

ト無ク航行ヲ續ケ二十七日晝間 *Filmandra* ニ碇留シ同夜出發 *Zimnicea* ニ到

ル又 *Olta* 河口ニ在リシ第一回架橋材料ノ殘餘ハ同日及翌二十八日共ニ夜

暗ニ乘シ相尋テ土軍ノ射撃ヲ冒シテ *Nikopoli* 附近ヲ通過シ六月三十日其

全部 *Zimnicea* ニ到着セリ

*Turnu Magurele* 附近ニ在リシ諸砲臺ハ *Nikopoli* 要塞ニ對シ二十六日晝間砲

撃ヲ加ヘ同處ニ火災ヲ起サシメ延焼シテ翌朝ニ至ル二十七八日ノ兩夜土

軍再ヒ船ノ流下ヲ認メテ射撃ヲ開始スルヤ露軍砲臺亦之ニ應射シ船ノ流

下ヲ援助セリ當時羅馬尼軍ノ一部步兵第七聯隊砲兵第三聯隊ノ第三第五中隊ハ *Olta* 河口ノ西岸ニ

陣地ヲ占領シ諸船ノ通過ヲ警戒シ且時々牽制ノ目的ヲ以テ *Olta* 河ノ河

口附近ニ在ル土軍ヲ砲撃セリ又少將リヒテルハ架橋ニ關スル諸般ノ事項

ヲ擔任シ二十八日架橋兵一大隊ヲシテ其船ヲ使用シ軍隊ノ渡河ヲ繼續セ

シメ他ノ二大隊ヲ左岸ト *Adda* 島間竝ニ同島瀦水上ノ架橋ニ任シ兩岸ヨ

リ同時ニ作業ニ著手セシメ他ノ一大隊ヲ右岸ト *Adda* 島トノ間ニ於ケル

架橋ニ任シ共ニ架橋材料ハ大隊固有ノモノヲ用キ其不足ハ木船ヲ以テ補

ハシメタリ

架橋點ハ數回偵察ノ結果汽船碇泊所東側ヨリ *Adda* 島ヲ經テ *Sistov* ト *Te-*

*Kir-Dere* 河口トノ中間河岸ニ達スルニ決定シ二十八日作業ニ著手ス此日



Donau 河右岸地區ニハ前ニ述ヘタル如ク歩兵約二十八大隊、砲三十門アリテ架橋點ノ守備ニ任セシモ尙兵力不足ナリシヲ以テ船ノ大部渡航ニ使用セラレツツアリ

二十八日北橋左岸トAddaノ間ノ架設ハ約五百米突間竣工シ其中間僅ニ約百七十米突ノ空隙ヲ餘スノミナリシカ南橋右岸トAddaノ間ノ作業ハ困難ニシテ北橋ニ

比シテ進捗セス偶同夜十時頃ヨリ西南ノ暴風起リ露國參謀本部ノ戰史ニハ六月三十日ノ夜トアルモ七月一日ニ完成セシヨリ察スレハ二十八日夜ナルカ如シスプリングル著露土戰史參照 既ニ架設セシ北橋ノ鐵舟橋約二百米突間沈

没シ其他右岸ノ高地及 Adda 島ノ庇護ヲ受ケシ部分ニモ一二ノ損害アリ二十九日架橋兵ハ暴風雨ノ爲ニ散亂セシ舟船及其他ノ材料ノ拾取竝ニ修理ニ從事シタルヲ以テ架設毫モ進捗セス三十日架設ヲ再興セシモ降雨ノ

爲水量増加シテ作業遲滞シ七月一日夕始メテ完成ス即チ Adda 島ト羅馬尼トノ間(北橋)六百六十五米突浮游負桁材六十九鐵舟三十九ニシテ此間二個ノ閉閉部ヲ設ク架柱橋二十五個 Adda 島内瀦水

上約七十米突帆船橋脚二十一架柱橋二個(後ニ改メタリ) Adda 島ト土國河岸間(南橋)五百六十

九米突浮游負桁材六十七(内鐵舟橋脚九ニシテ此間ニ二個ノ閉閉部ヲ設ク架柱橋一個)ニシテ右岸橋礎ヨリ Disticov ニ至ル間

ノ斜坂モ架橋ノ完成ト共ニ開鑿セラレタリ 筏橋ニ要スル材料ハ前ニ述ヘタル如ク其調製ニ許多ノ日子ヲ費シ七月八

日乃至十六日ノ夜間 Nikopoli 要塞此要塞ハ七月十日陷落セリ 前ヲ通過シ十八日全部 Disticov ニ到着セシ状態ナリシヲ以テ全長千二百八十八米突ノ上流橋ハ始メ

テ八月九日下流橋完成後約四十日完成セリ 是ヨリ先 Turnu Magurele 及 Girgevo 附近ノ諸砲臺ハ Nikopoli 及 Ruscuk 要塞

ニ對シ二十六日以来架橋完成ニ至ル迄屢猛烈ナル射撃ヲ爲シ共ニ其數砲臺ヲシテ沈黙スルニ至ラシメ羅馬尼軍モ亦 Vidin 附近以下附圖第七參照ニ在ル土軍ト砲

戰ヲ交エ一部ヲ以テ Calafatu, Vidin 間ノ島嶼ヲ占領シ又 Puket 附近ヨリ對岸ニ在ル Rahovo ヲ脅威的ニ砲撃セシモ土軍之ニ應セス而シテ Ottenia, Cirlari 方面ニ於テハ兩軍共ニ大ナル活動ヲ見サリキ

附記 六月上旬土國軍司令官アブヅルケリムパシアハ露軍ノ主力中部

六月中ニ於ケル土軍ノ

Donau 河ニ於テ渡過スルモノト臆斷セシモ其兵力ヲ以テ露軍ノ渡河ヲ妨害スルコト不可能ナリト信シ土都ニ左ノ報告ヲ呈セリ

敵ノ渡河ハ主トシテ Ruschik, Vidin 間ニ於テ行ハルルナラン吾人ハ

此處ニ堅固ナル要塞及敵ヲ拒止スルニ足ルヘキ大ナル軍隊ヲ有セサルカ故ニ敵ノ渡河カ果シテ此地域内ニ於テ行ハルルモノトセハ小官ハ其責ニ任スル能ハス

當時土都ニ於テモ中部 Donau 河ニ於ケル露軍ノ渡河ヲ妨害スルコト不可能ナルノ説起レリ六月二十三日皇帝ヨリ政府ニ下シタル命令ニ曰ク軍司令官ノ報告ニ據レハ敵軍 Donau 河渡過ノ準備ヲ爲シツツ在ルモノノ如シ然レトモ Donau 河邊ニ於ケル我防禦線ノ兩翼ニ在ル部隊ハ單ニ守勢ノミニ用キ野戰ノ目的即チ我土國ノ内地ニ進入セントスル敵ヲ妨ケ或ハ其敵ニ隨時對抗セントシ又敵ノ退却線ヲ脅威セントスル等ニ使用スルヲ許サスト

土軍ノ作戰方針前述ノ如クナルヲ以テ六月初旬後露軍ノ渡河ニ至ル迄ハ其兵力配備大ナル變化無シ土軍ハ露軍カ Nikopoli, Ruschik 附近ヲ熾ニ砲撃スルヤ其渡河必ス此等ノ地點ヨリ行フモノナラント信セシモ Yimnicea 附近ニ於ケル水雷ノ沈設ヲ見テ同地ニモ注目シ Sirov 附近ニ約四千人ヲ置キ敵兵 Vardim 島ヲ利用シテ渡河スルモノト判斷シ其主力ヲ同地對岸ニ置キ二十六日露軍 Sirov ニ於テ渡河ヲ開始スルヤ進ンテ之ト Tekin-Dere 河ノ河畔ニ於テ交戦セシモ利アラスシテ Bela (Bjela) ニ向ヒ退却セリ

アブヅルケリムパシアハ露軍ノ Sirov 附近ニ於テ渡河セシヲ知リ六月二十八日 Ruschik ヨリ歩兵十四大隊及騎兵若干ヲ又 Gornia ヨリアクメットエユツプハシアノ指揮スル歩兵十六大隊騎兵二中隊砲兵三中隊ヲ共ニ Bela ニ向ヒ出發セシム

此頃 Vidin ニ在リシオスマンパシアハアブヅルケリムニ左ノ要旨ノ意

見ヲ具申セリ

Vidinニハ單ニ防禦ニ必要ナル軍隊ヲ殘シ爾餘ノ諸隊ヲ率キテ Plevnaニ向ヒ前進シ途中 Rahovoヨリ歩兵若干大隊ヲ招致シ Plevnaニ於テ Nikopoliノ守備隊ヲモ合セントス Nikopoliハ敵軍ノ攻撃ヲ待タスシテ撤去スルヲ要ス既ニ Plevnaニ於テ此等ノ諸隊ヲ合シタル後ハ Seljviヲ經テ Trnovoニ向ヒ行進シ同處ニ於テアクメットエヌツパシアノ軍前記のシムラヲ發シ前進スヘキ歩兵十六大隊騎兵二中隊砲兵三中隊ヲ指示スニ合シ然ル後合一シタル軍ヲ率キテ Bistovニ向ヒ攻勢ニ轉セントス然レトモ若シアクメットエヌツグバシアノ軍ニ合スル能ハストセハ予ハ Lovcaヲ守備セントス同市ハ巴爾幹山脚ノ通路ヲ防禦スルニ大利アルノミナラス有利ナル防禦陣地ヲ形成シ Orhanjeヲ經テ Sofiaニ又 Trojanヲ經テ Philippopolニ至ル確實ナル連絡線タリ

然ルニ此意見ハ採用セラレスシテ止ム蓋シ土國政府ハ塞爾維軍及

dinノ對岸 Calafatu附近ノ羅馬尼軍ニ對シ Vidin附近ニ多クノ兵力ヲ配備スルノ必要ヲ認メシニ因レリ

### 第九章 Donau河渡過後七月九日ニ至ル露軍ノ作戰

一 一般ノ情況 一覽圖第一第二第三及附圖第七參照

六月末軍司令官ハ Siscovヨリ退却セシ約四千人ノ敵ハ Bela附近ニ停止シ尙 Donau河ノ渡過點ニ近接セル地點ニ於テハ Trnovoニ約四千人、Ruscukニ約一萬二千二百人、Nikopoliニ約九千八百人、Osmanbazarニ約四千六百人、Sutolaニ約三萬四百人ノ敵兵アルコトヲ知得セリ因リテ六月三十日其作戰方針ニ基ツキ軍 Donau河渡過後ノ行動ヲ策定シ布爾牙利ニ進入スル軍ヲ先進兵團「ルスチュック」兵團、西部兵團及本軍ニ區分シ Donau河左岸 Giurgevo

六月末ニ於ケル敵情

ヨリ Olenija ニ互ル地域ノ警戒ニハ第十一軍團ノ内混成一旅團ヲ充用セリ  
故ニ Donau 河渡過直後ニ於ケル露軍ノ軍隊區分ハ附録第五ノ如シ  
軍司令官ヨリ各兵團ニ與ヘタル訓令左ノ如シ

一 先進兵團ハ Arnovo 及 Seviljevo (Selvi) 方向ニ前進シ附近ノ地形ヲ偵察シ  
以テ爾後ノ前進ヲ準備スヘシ尋テ命令ニ接セハ更ニ前進ヲ始メ巴爾  
幹山ノ通路ヲ占領シ且騎兵ヲ南方ニ差遣シ到ル處住民ヲ煽動蜂起セ  
シメ以テ敵ノ兵力ヲ分散セシムヘシ又軍ヲ猶豫無ク Marica 河谷ニ進  
出セシムル爲巴爾幹山脈上通路ノ築造若クハ改修ニ著手スヘシ軍ノ  
作戦路ハ Gabrovo-Kazanlik 道及 Trepna-Magliz 道ヲ撰ハントス兵團ハ前  
進ニ際シ軍司令部トノ間ニ遞騎線ヲ設ケ日々二回ツツ報告スヘシ  
二 「ルスチユック」兵團ハ先第十二軍團ヲ以テ Donau 渡河後 Jantia 河ノ線ニ前  
進シ右翼ヲ Bela ニ托スヘシ爾後第十三軍團及騎兵第八師團ノ合一ス  
ルニ至ラハ兵團ハ Kuskuk ニ向ヒ前進シ同要塞ヲ攻圍シ爲シ得レハ之

ヲ略取スヘシ

三 西部兵團ハ Nikopoli 及 Causkamahtia ニ向ヒ前進シ Nikopoli ヲ略取シタ  
ル後ハ Pleвна ニ到リ同處ニ軍ノ右側掩護ノ爲一支隊ヲ殘置シ以テ巴  
爾幹山ヲ越ユルノ準備ヲ爲スヘシ但シ巴爾幹山ニ向フ前進ハ之ニ關  
スル特別ノ命令ヲ得ル後ニ於テスヘシ

軍司令官ハ右ノ訓令ヲ各兵團ニ下スト同時ニ軍ノ渡河順序ヲ規定シ  
「ルスチユック」兵團最先ニ渡河シ西部兵團之ニ次キ渡河ス又既ニ渡河セル第八軍團ノ部隊ハ依然渡河ノ掩護ニ  
任シ第十一軍團(アッレル支隊欠)ニハ Zimnicea ニ向ヒ前進スヘク命セリ  
各兵團ハ七月二日ヨリ前夜完成セシ軍橋ニ由リ逐次 Donau 河ヲ渡リ各其  
任務ニ就ケリ而シテ七月九日先進兵團ハ Arnovo ヲ占領シ「ルスチユック」兵團  
ハ其先頭部隊ヲ以テ Jantia 河畔ニ達シ西部兵團ハ其半部ヲ以テ Svislov 附  
近ニ於テ渡河シ同兵團ノ殘餘及騎兵第十三師團ハ尙 Zimnicea 附近ニ在リ  
テ未タ渡河ヲ終ラス第十一軍團(アッレル支隊欠)及第四軍團(アレクサンド

ロフ支隊欠ハ渡河點ニ向ヒ前進中ニシテ下流「ドナウ」兵團ハ依然 Hirsowaノ  
東方地區ニ在リ

七月初旬土  
軍ノ情況

附記 露軍ノ シストフ 附近ニ於ケル渡河後アブヅルパシアノ信用全ク地  
ニ墜チ爾後作戰ハ主トシテ政府ニ於テ指導スルコトト爲リ同パシア  
ノ監視トシテ軍務大臣レヂフパシア及元帥ナミクパシア クシムラニ派遣  
セラレ同官ハ七月四日同地ニ著シ直ニ軍隊ノ情況ヲ視察シ組織及裝  
備ノ不備疾病及逃亡ニ因ル減員ノ莫大ナルコトヲ覺リ之ヲ土軍統帥  
部ニ報告ス是ニ於テ統帥部ハ布爾牙利國內ニ進入セシ露軍ニ對シ如  
何ニ作戰スヘキカニ就テ大ニ攻究スル所アリ七月七日オスマンパシ  
アハ意見ヲ開陳スヘキ命令ニ接シ極力前意見 前章ニ於テニ依ルヘキヲ  
主張シ且附言シテ曰ク オランジェ、テテベン、トロジャン Orhanje, Televen, Trojan 等ノ巴爾幹諸山路ハオス  
マンパシアノ兵ヲ以テ守備セン又 ニコポリ Nikopoli ニ在ル守兵ハ自己ノ指揮  
ニ屬セシムヘシ蓋シ ニコポリ Nikopoli ハ敵兵來襲セハ恐ラクハ之ヲ支フルコ

ト能ハサラン故ニ敵ノ來襲ヲ受ケサルニ先タチ速ニ他ニ轉用スルヲ  
有利トスト然レトモ當時羅馬尼軍 カラファット Calafatu 附近ニ於テ ドナウ Donau 河ヲ渡  
過スルノ虚報頻リニ到リシヲ以テオスマンパシアノ軍ヲ オランジェ Orhanje ニ  
退ケ巴爾幹山脈ノ守備ニ任スヘシトノ異論起リ議論百出容易ニ決セ  
サリシカ七月七日皇帝ハ斷然軍事會議ヲ排シオスマンパシアヲ西部  
布爾牙利諸隊ノ司令官ニ任シ其意見ニ從ヒ作戰ヲ實行セシムルコト  
ト爲セリ然レトモ尙 ニコポリ Nikopoli ヲ放棄スルノ意無カリシカ如シ  
巴爾幹山脈ノ守備ニ就テハ戰役ノ初メヨリ土軍ノ注目セシ所ナリシ  
カ七月ノ初旬ニ至ルモ シプカ Sipa 峠附近ニ構築セラレタル堡壘ハ僅々數  
個ニシテ其守兵モ亦數百ニ過キス因リテ大ニ工事ヲ督勵シ守兵ノ集  
中ニ勉メ七月九日露軍 ツルノ Truno ニ進出スル頃ニハ シプカ、シリヴン Sipa, Silven (Sivno) 間  
ノ巴爾幹山間ニ約一萬二千ノ守兵ヲ有スルニ至レリ然レトモ當時尙  
統一ノ指揮ヲ缺キ各個ノ部隊集合シタルノミ因リテロイフパシア山

南諸軍隊ノ指揮官ニ任セラレ同時ニ山南ニ於テ大ニ壯丁ヲ募集シ新編成ニ著手シ且 Adrianopol ノ周圍ニ設堡陣地ノ構成ヲ開始セリ適モンテネグロノ兵解散セシヲ以テ一部ヲ同地ニ止メ其他ヲスライマンハシアノ指揮ノ下ニ Anivari アンチメリ Adriansehi アドリアンセヒ 海沿岸ニ於テ乗船 Dedegac デデアガツチ 多島海ニ上陸シ同處ヨリ Adrianopol ニ輸送セントセシモ土國ノ財政缺乏シ炭價ヲ辨スルヲ得スシテ未タ實行ヲ見ルニ至ラス此ノ如クシテ七月九日頃土軍ノ總兵力ハ約十八萬人ニシテ其配置概ネ左ノ如シ

四角要塞地帯

約十萬人

内

- Русчук 二萬三千百五十人
- Ruscuk
- ラズチュク
- Razgrad 八千四百人
- ラズグラド
- Osmanbazar 八千六百人
- オスマンバザール
- Sumla 二萬二千人
- サムラ

巴爾幹山及其南方地帯

一萬三千二百五十人

内

- Sipka 六千六百五十人
- シプカ
- Kazanlik 千三百五十人
- カザンリク
- Hankioj 六百五十人
- ハンキョウ
- Tyrdica 六百五十人
- ティルディカ
- Sliven 二千五百五十人
- スリヴェン
- Jeni Zagra 千四百人
- ジェニザグラ

Cernavoda, Medzidie, Kustendze

一萬三百人

Silistria

一萬六千八百人

Turtukai

四千人

Balcik

六百五十人

Varna

一萬千二百人

西部布爾牙利地方

六萬三千人

内

- クマカ 二萬三千人
- Vidin 二千人
- Lom Palanka 五千人
- Rahovo 一萬人 内二千人ハ九日  
Zapanaニ赴ケリ
- Nikopoli 九千人
- Niz 一萬四千人
- Sofia

二 先進兵團ノ行動 一覽圖第二附  
圖第八參照

先進兵團ニ屬スル諸騎兵旅團及布爾牙利步兵諸大隊ハ七月三日渡河ヲ始  
メ軍橋ノ通過ニ許多ノ時間ヲ費シ四日正午頃 Carvoeニ於テ始メテ同處ニ  
先行セシ狙撃歩兵第四旅團(哥薩克步兵二中隊及山砲第一第二中隊共)ニ合  
シ茲ニ先進兵團ノ編成ヲ完了シ而シテ中將グルコ到著迄假ニ少將ラウフ

前進開始

其指揮ヲ執レリ 中將グルコハ近衛騎兵師團長ヨリ  
先進兵團司令官ニ任命セラレタリ  
四日午後先進兵團ノ諸隊ハ Akca Jer 及其附近ニ達シ騎兵ハ途中少數ノ土  
軍ノ不正規騎兵ニ遭遇セシノミ捕虜ノ言ニ因リ Trnovoニハ歩兵五大隊、騎  
兵若干野砲數門アリテ防禦工事ヲ施シ且 Osmanbazar 方向ヨリ増援兵ノ來  
著ヲ期待セルコトヲ知レリ  
五日兵團ハ輜重ノ到著ヲ待ツ爲 Akca Jer 附近ニ滞在ス此日輜重ノ Donau 河  
渡過甚タ遲緩シ 輜重カ何日渡河ヲ畢リシヤハ不明ナレト  
モ七日迄ニハ渡河ヲ完了セシモノナラント 且敵情未タ明瞭ナラサル  
ヲ以テ軍司令官ヨリ急速ノ前進ヲ見合スヘキ訓令ヲ受ケタリ因リテ兵團  
ハ翌日騎兵ヲ以テ Posica 河ノ線ニ前進スルニ決シ六日混成騎兵旅團ハ Cur-  
hindol 附近ニ龍騎兵旅團ハ Bela Cerkova (Murad Bej Gornj) ニドムン哥薩克騎兵  
旅團ハ Nikjup ニ殘餘ノ諸隊ハ Batak ニ到ル此日中將グルコ Batak ニ到著  
シ兵團ノ指揮ヲ執レリ同日迄ニ兵團司令部ノ得タル敵情ニ依レハ Trnovo  
ニハ土兵防禦工事ヲ施シタルコト確實ナルモ斥候ハ敵ノ射撃ニ遭フテ市

ツルノ  
Tirnovοニ對  
スル威力偵  
察

ニ近接スル能ハス又 Tirnovο 西方ニ於テハ概シテ敵影ヲ見スト  
中將グルコハ Tirnovο ニ對シ先騎兵ヲ以テ威力偵察ヲ行フニ決シ翌七日ノ  
爲左ノ處置ヲ命セリ

一 龍騎兵旅團ハ明日 Mehalei, Golemo Jalari, Kajabunar ヲ經テ Tirnovο ニ前進  
スヘシ

二 [ド]ン 哥薩克騎兵旅團ハ牽制ノ爲明日北方及東方ヨリ Tirnovο ニ向ヒ強  
大ナル斥候ヲ派遣シ且爲シ得レハ一部ヲ以テ龍騎兵旅團ヲ援助スヘ  
シ

三 混成騎兵旅團ハ明日驃騎兵第九聯隊及砲四門ヲ總豫備隊トシテ Me-  
halei ニ於テ龍騎兵旅團ニ續行セシメ殘餘ヲ以テ Suhindol 附近ニ止リ  
且 Bigarene-Plevna 街道上ニ在ル西部兵團所屬ノ高加士哥薩克騎兵旅  
團ニ連絡スヘシ

四 兵團司令部ハ龍騎兵旅團ト共ニ行進ス

ツルノ  
Tirnovοノ占  
領

七日諸隊ハ豫定ノ如ク行進ヲ始メ龍騎兵旅團ハ途中 Kajabunar 附近ニ於テ  
土軍ノ騎兵約三百ヲ不意ニ掩撃シ之ヲ逐フテ Kajabunar 東方地區ニ達シド  
ン 哥薩克騎兵旅團ヨリ派遣シタル [ド]ン 哥薩克騎兵第二十六聯隊ノ三中隊  
及砲二門ト會セリ而シテ土軍ノ陣地ハ Tirnovο 東方 Jantira 河ノ右岸ニ在リ  
テ其兵力多カラス且諸種ノ情況ニ因リ敵兵退却中ナルコトヲ知り中將グ  
ルコハ直ニ偵察ノ結果ヲ利用シ此敵ヲ攻撃スルニ決ス乃チ騎兵諸聯隊ハ  
徒歩戰ヲ以テ敵ノ陣地ヲ占領セリ此戰鬪ニ於テ露軍傷者四名ヲ出セリ

附記 Tirnovο ヲ守備セシ土軍ハハンチイベイノ指揮セシ歩兵四大隊

ニハ六六 不正規騎兵若干中隊及砲兵一中隊(二千五百人)ニシテ

警戒不充分ノ爲露軍ノ近接ヲ知ラス事全ク不意ニ出テタルヲ以テ著  
シク狼狽シ遂ニ陣地ヲ棄テテ東方ニ退却ス此日守備隊ノ増援トシテ  
Tirnovο-Osmanbazar 街道上 Tirnovο ノ東方約五吉米ニ達シ在リシ歩兵約  
三大隊モ亦 Tirnovο 守備隊ノ撤退意外ニ速ナリシ爲何等ノ用ヲ爲サス



敗兵ト共ニ退却セリ

他ノ方面ニ於テハ驃騎兵第九聯隊ヨリ出シタル一小隊ハ土軍ノ抵抗ヲ受クルコト無ク *Seviljevo* ヲ占領セリ又七日「ドン」哥薩克騎兵第三十聯隊ヨリ高加士哥薩克騎兵旅團ニ連絡ノ爲派遣セラレタル騎兵半中隊ハ翌八日「*Levna*」ニ進ミ同地ニ在リシ土軍ノ歩兵一中隊ヲ投降セシメシモ幾モ無ク土軍騎兵來襲セシニ因リ俘虜ヲ棄テテ *Bligarene* ニ退キ該旅團ト連絡セリ中將「*グルコ*」ハ *Trinovo* 占領後先進兵團ノ主力ヲ同地ニ移シ *Gubrovo*, *Elena*, *Osmanbazar* 方向ノ搜索ニ従事ス其九日ニ於ケル位置左ノ如シ 附圖第八參照

七月九日ノ位置

「ドン」哥薩克騎兵第三十聯隊「ドン」哥薩克騎砲兵第十中隊ノ二門

*Pusevo*

「ドン」哥薩克騎兵旅團

*Prisovo* 西方道路交叉點

龍騎兵旅團

*Merdanja*

狙撃歩兵第四旅團

- 哥薩克歩兵二中隊
- 布爾牙利歩兵四大隊
- 驃騎兵第九聯隊
- 近衛騎兵半中隊
- 烏拉爾哥薩克騎兵中隊
- 乘馬工兵中隊
- 山砲第一中隊及第二中隊ノ四門
- 「ドン」哥薩克騎砲兵第十中隊ノ四門
- 布爾牙利歩兵二大隊
- 山砲第二中隊ノ砲二門
- 先進兵團ノ輜重全部

*Trinovo*

*Resen*

三 「ルスチユック」兵團ノ行動 第一覽圖第一參照

「ルスチユック」兵團ノ主力ハ七月三日夜ヨリ渡河ヲ開始ス 步兵第三十五師團ハ渡河ヲ畢リ在リシコトハ既

先頭部隊ノ渡河及前進

述スル所ナリ而シテ騎兵第十二師團長中將ドリーゼンノ指揮セル步兵第三十三師團第一旅團騎兵第十二師團及砲兵第三十三旅團第一第二中隊ハ前衛ト爲リ四日夕迄ニ渡河ヲ畢リ *Bela (Bjela)* ニ向ヒ派遣セラレタリ

五日早朝前衛ハ龍騎兵第十二聯隊騎砲兵第十九中隊ヲ *Bela* ニ先遣シ其支援トシテ所屬ノ步兵旅團ヲ續行セシメ騎兵師團ノ主力ヲ以テ最後ニ出發セリ龍騎兵聯隊ハ正午 *Bela* ニ到著シ同地ヲ占領シ步兵旅團ハ六日同地ニ著シ騎兵師團ノ主力モ亦同日同地ノ西北方 *Strömen* ノ對岸ニ到著シ前衛ハ此日各其到著地ニ露營セリ

六日夕ルスチユック兵團司令官ハ步兵第十二師團第一旅團長少將チトリヤヅエフノ指揮ニ屬スル一支隊步兵第四十五聯隊「ドン」哥薩克騎兵第十三聯隊第六中隊砲兵第十二旅團第一中隊及工兵第七大隊第三中隊ヲ *Nov Grad* 下流左岸ニ派遣シ同支隊ハ同地ニ著後直ニ地方材料ヲ以テ *Jantra* 河ニ橋梁ヲ架設セリ

兵團主力ノ前進及七月九日ノ位置

七日騎兵第十二師團ハ *Ruscuk* ニ向ヒ前進シ *Obreten* 及其附近ニ達シ八日歩兵ノ來著ヲ待ツ爲同地ニ停止ス此日砲四門ヲ有スル土軍ノ一支隊 *Ruscuk* 河リ *Dve Mogili* ニ來リ續テ前衛ニ向ヒ攻撃セシモ夕刻ニ至リ *Gur Osme* 南方四里ニ擊退セラレタリ

兵團爾餘ノ諸隊ハ渡河後前進ヲ繼續シ九日夕第十三軍團ノ主力ハ尙 *Jantra* 河ト *Bvistov (Bistov)* 間ノ地區ニ在リシモ其他ノ部隊ハ *Bela* 河下流 *Jantra* 河畔ニ達ス即チ左ノ如シ

*Obreten*

騎兵第十二師團

步兵第三十聯隊

步兵第四十五聯隊

砲兵第十二旅團第一中隊

工兵第七大隊ノ一中隊

*Nov Grad*

- 步兵第四十六聯隊
- 砲兵第十二旅團第四中隊
- 步兵第十二師團第二旅團
- 砲兵第十二旅團(第一第四中隊欠)
- 步兵第三十三師團(第百三十聯隊欠)
- 砲兵第三十三旅團
- 第十二軍團司令部
- 騎兵第八師團
- 兵團司令部

- Beleov, Causovo
- Piper Kovo
- Bela
- Causovo
- Kopriviec 及 Radanovo
- Bela

附記 曩ニ Ruscuk 及 Sumla ヨリ Bela ニ向ヒ前進セシメラレタル土軍ハ  
 出發ノ準備ニ多クノ時日ヲ要シタルモノノ如ク Ruscuk ヨリ前進セシ  
 部隊ハ七月八日始メテ Obreten 附近ニ到リ同地ニ於テ露軍ノ騎兵ヲ攻  
 撃セシモ撃退セラレタリ Sumla ヨリ前進セルアクメットエユツパシア

ノ率キル部隊ハ Kara-Lom 河ノ河畔ニ進出セシカ會露軍 Ruscuk 下流ヨ  
 リ渡河スルノ報傳ハリ兩部隊共ニ其任務ヲ解カレ Ruscuk ヨリ出テタ  
 ル部隊ハ要塞ニ歸リ Sumla ヨリ出テタル部隊ハ Razgrad ニ退キ爾後同  
 地ニ停止セリ

四 西部兵團ノ行動 附圖第九參照

西部兵團ハ七月七日ヨリ渡河ヲ開始シ八日其先頭部隊タル步兵第五師團  
 (砲兵一中隊欠)騎兵第九師團(龍騎兵第九聯隊、驃騎兵第九聯隊)ドン哥薩克騎  
 砲兵第十六中隊欠 此等ノ諸隊ハ先進兵團ニ屬セリハ Ores 附近ニ集合シ步兵第三十一師團及  
 「ドン」哥薩克騎兵第三十四聯隊砲兵第五旅團第三中隊及工兵一中隊ハ尙左  
 岸ニ在リ是ヨリ先七月六日兵團ノ編組ニ入リシ高加士哥薩克騎兵旅團ハ  
 Bigarene ニ位置セリ

高加士哥薩克騎兵旅團長大佐ツトルミンハ八日 Ores ニ來リ第九軍團長中  
 將クリユデネルニ意見ヲ具申シテ曰ク Bigarene-Plevna 大街道ノ兩側ニハ全

先頭部隊ノ  
 渡河及集合

七月九日ノ位置

ク正規ノ土兵ヲ見ス昨七日朝旅團司令部ニ來リタル Plevna ノ住民タル布  
 爾牙利人ノ言ニ依レハ Plevna ニハ同地病院警戒ノ爲常備歩兵一中隊アリ  
 ト又先進兵團ヨリ出シタル「ドン」哥薩克騎兵第三十聯隊ノ斥候(半中隊)ハ Plevna  
 前進シ同地ノ守備兵ヲ投降セシメシモ幾モ無ク強大ナル敵ノ不正  
 規騎兵現ハレ來リタルヲ以テ捕虜ヲ棄テテ退却セリ因リテ旅團若シ歩兵  
 一大隊ノ増加ヲ得ハ速ニ Plevna ヲ占領スルヲ得ント然レトモ中將クリユ  
 デネルハ Nikopoli 占領前ニ此動作ヲ爲スヲ危険ト爲シ之ヲ許サス  
 九日西部兵團ハ Donau 河左岸ノ地ヨリ「ドン」哥薩克騎兵第三十四聯隊(一中  
 隊)砲兵第三十一旅團第四第五第六中隊、工兵第五大隊ノ一中隊ヲ Ores ニ  
 招致シ同時ニ二個ノ支隊ヲ前方ニ出セリ即チ騎兵第九師團長少將ラシユカ  
 リエフノ令下ニ在ル歩兵第二十聯隊、騎兵第九師團龍騎兵第九聯隊、驃騎兵  
 第九聯隊「ドン」哥薩克騎砲兵第十六中隊、及砲兵第五旅團ノ第二第五中隊  
 ハ Peti Kladenca ニ歩兵第十九聯隊長大佐クライン、ハウスノ令下ニ在ル歩

兵第十九聯隊及砲兵第五旅團第一中隊竝ニ砲兵第三十一旅團第五中隊ハ  
 Stizarov ニ前進シ高加士哥薩克騎兵旅團ハ依然 Bigarene ニ停止セリ

### 第十章

七月十日ヨリ同二十日ニ至ル

### 露軍ノ作戰

#### 一 一般ノ情況 附圖第十參照

露軍司令官ハ先進兵團ノ Tynovo 占領意外ニ速ナリシト尙其前面ニ多クノ  
 敵兵ヲ見サリシトニ因リ豫定ヨリモ速ニ南進ヲ始メント欲シ九日左ノ如  
 ク上奏スル所アリ

Tynovo 意外ニ早ク我手ニ落チタル爲臣ハ今ヤ曩ノ計畫ヨリモ一層大膽  
 ナル作戰ヲ實行セントス即チ「ルスチユック」兵團ノ任務ヲ改メ單ニ要塞ヲ  
 監視スルニ止メ Jantra 河ノ線ニ堅固ナル陣地ヲ占領シテ本軍ノ左側ヲ  
 掩護セシメ又右側掩護トシテ第九軍團ヲ Plevna 及 Lovcha 方向ニ派遣シ  
 自ラ第八軍團ヲ率キテ Tynovo ニ前進シ假ニ先進兵團ヲシテ巴爾幹山ノ

軍司令官ノ意見具申